

福島県県立病院改革プラン取組状況報告書

資料 2



福島県病院局

平成 25 年 1 月

～目次～

第1 改革プランの基本的な考え方

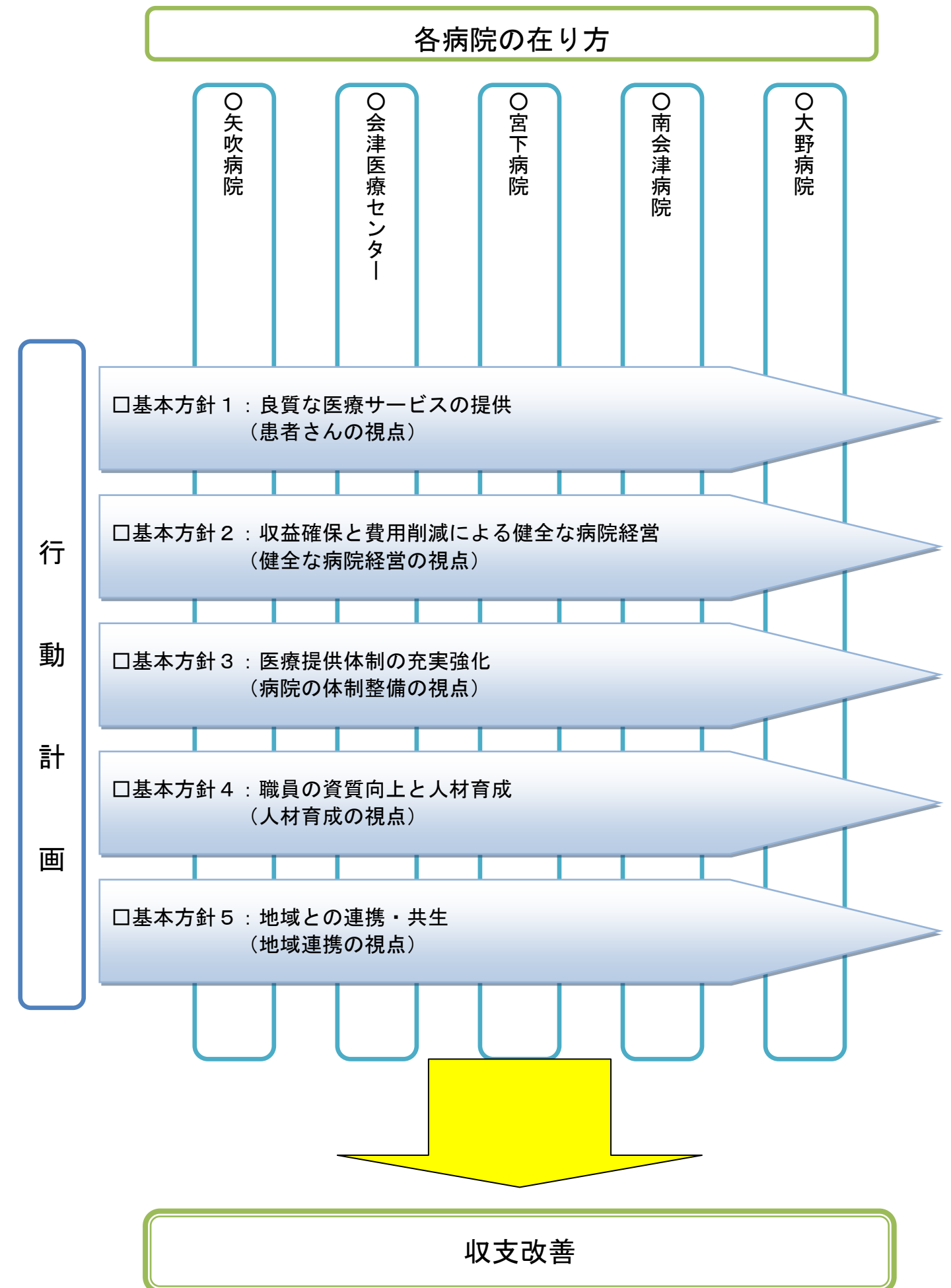
- 1 県立病院概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 1
- 2 改革プランの概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 2

第2 評価方法

- 1 自己評価方法について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 3
- 2 自己評価基準について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 3

第3 自己評価

- 1 県立病院の在り方
 - (1) 矢吹病院・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 4
 - (2) 会津医療センター（仮称）（喜多方病院・会津総合病院）・・・・・・ P 6
 - (3) 宮下病院・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 8
 - (4) 南会津病院・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 10
 - (5) 大野病院・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 12
- 2 行動計画
 - (1) 基本方針1：良質な医療サービスの提供・・・・・・・・・・・・ P 15
 - (2) 基本方針2：収益確保と費用削減による健全な病院経営・・・・・・ P 21
 - (3) 基本方針3：医療提供体制の充実強化・・・・・・・・・・・・ P 30
 - (4) 基本方針4：職員の資質向上と人材育成・・・・・・・・・・・・ P 34
 - (5) 基本方針5：地域との連携共生・・・・・・・・・・・・ P 40
- 3 収支計画
 - (1) 平成23年度県立病院事業会計決算の概要・・・・・・・・・・・・ P 45
 - (2) 県立病院事業の収支計画について・・・・・・・・・・・・ P 46
 - (3) 各病院の収支計画について・・・・・・・・・・・・ P 47
 - (参考) 福島県県立病院病院別経営指標一覧・・・・・・・・・・・・ P 53



県立病院概要

福島県立病院は、昭和 24 年に日本医療団から譲り受けた 7 病院 17 診療所を主体として発足し、その後医療行政の一環として、地域における病院の設置、他の公共団体に対する移管等を行い、現在は 6 病院となっている。

(平成 24 年 3 月 1 日現在)

病院名	開設年月	標榜診療科名 ()は非常勤医師の診療科 【 】は休診中の診療科	病 床 数 (許可)					看護体制	職 員 数								
			一般	結核	精神	感染症	計		医師	看護	薬剤	給食	医療 技術 職	事務	その他 職員	H24.3 合計	H23.6 合計
矢 吹	昭和 30 年 11 月	精神科,内科,(歯科)			206		206	15 対 1 看護補助加算 1	6	85	3	6	9	6	1	116	117
喜 多 方	昭和 24 年 7 月	内科,外科 (整形外科),(皮膚科),(眼科)	50				50	10 対 1	4	38	3	3	6	7	0	61	62
会津総合	昭和 28 年 6 月	内科,循環器内科,血液内科 消化器内科, 小腸・大腸・肛門内科, 糖尿病・代謝・腎臓内科 感染症・呼吸器内科,漢方内科 (神経内科),外科,整形外科 皮膚科,麻酔科,耳鼻いんこう科 神経精神科 リハビリテーション科,歯科 (婦人科),【産科】 (泌尿器科),(眼科),(放射線科) 【心臓血管外科】,【小児科】	204	50		8	262	(一般) 7 対 1 (結核) 15 対 1 看護補助加算 1	31 (16)	163	8	16	32	18	1	269 (16)	268 (15)
宮 下	昭和 26 年 11 月	内科,外科 (整形外科),(皮膚科) (耳鼻いんこう科),(神経精神科)	32				32	7 対 1	6	20	2	1	1	5	0	35	35
南 会 津	昭和 24 年 7 月	内科,外科,整形外科 耳鼻いんこう科,眼科,麻酔科 小児科,(神経内科) (婦人科)【産科】,(皮膚科) (神経精神科),(泌尿器科)	100				100	7 対 1	14	80	4	1	12	8	0	119	121
大 野 休診中	昭和 26 年 12 月	【内科】,【消化器科】,【外科】 【整形外科】,【小児科】 【麻酔科】,【眼科】,【呼吸器科】 【泌尿器科】,【産婦人科】	146			4	150	7 対 1	1	63	4	8	13	2	0	91	100
合 計			532	50	206	12	800		62 (16)	449	24	35	73	46	2	691 (16)	703 (15)

※()内は会津医療センター準備室教員であり、内数である。

1 策定の主旨

◆県立病院事業は、平成 16 年 4 月から地方公営企業法の全部適用に移行し、平成 19 年 3 月末に 3 病院 1 診療所を廃止・移譲して 6 病院体制となった。福島県病院事業経営改善計画（平成 19 年 3 月 26 日行財政改革推進本部県立病院改革部会報告。以下「経営改善計画」という。）に基づき、医療機能の充実強化や経営改善に取り組んできた。

◆しかしながら、医師不足の深刻化等により、医療提供体制の維持が極めて厳しく、医療機能を十分に発揮できない状況にあり、また、常勤医師の退職や短期交替等に伴う診療体制の変更等による患者数の減少や、診療報酬のマイナス改定の影響などにより、多額の赤字が生じるなど、これまでにない厳しい経営状況となった。

◆こうしたことから、県として、平成 19 年 12 月の国の「公立病院改革ガイドライン」の趣旨を踏まえ、県立病院の在り方を再整理するとともに、経営改善計画の取組みを加速し、『地域に必要なとされる質の高い医療の提供と病院経営の健全化』を基本目標とする「福島県県立病院改革プラン」を平成 21 年 5 月に策定した。

2 県立病院の在り方

◆地域に必要な医療を安定的かつ継続的に提供できる体制の構築を図ることを基本として、以下の見直しを行う。

病院名	果たすべき役割	経営形態
矢吹病院	民間病院では処遇困難な患者の受入れなどの精神医療の提供	県立病院として経営
会津医療センター (会津総合と喜多方)	1 「診療」・「教育」・「研究」の 3 つの機能を柱とする 2 地域医療の確保や人材の育成等の拠点と位置づける	県立医科大学の附属病院に移行
宮下病院	へき地における医療提供	県立病院として経営
南会津病院	へき地における医療提供	県立病院として経営
大野病院	1 医療拠点としての中核的機能 2 二次救急医療への対応	双葉厚生病院と統合する方向で検討

3 行動計画

◆「親切・信頼・進歩」という県立病院基本理念の下、政策医療の確保を始め、地域に必要なとされる質の高い医療の提供と病院経営の健全化に向け、以下の 5 つの基本方針により取り組む。

基本方針	主な取組
1 良質な医療サービスの提供	・電子カルテ導入（会津総合）【21 年 3 月導入】 ・透析機器の増設（南会津） など
2 収益確保と費用削減による健全な病院経営	・常勤医師の確保や未利用財産の売却等 ・病棟再編・病床削減の実施（喜多方、宮下、南会津） など
3 医療提供体制の充実強化	・県立医科大学等との連携強化 ・医師紹介事業者の活用など医師確保の充実強化 ・医師の処遇改善策の実施 など
4 職員の資質向上と人材育成	・各専門分野のスペシャリストの育成 ・民間実務経験者の採用 など
5 地域との連携共生	・国保診療所への診療応援 など

4 収支計画

◆上記の基本方針に基づき、病院経営の健全化に向けた目標を設定し、具体的な取組みを確実に実行する。

【経営健全化に向けた収支目標】

目標 1：単年度赤字の漸次解消を図り、平成 25 年度までに収支均衡を目指す。

目標 2：平成 23 年度までに資金不足の解消を目指す。

5 計画期間

- (1) 改革プラン全体：5 年間（平成 21～25 年度）
- (2) 経営健全化等に向けた行動計画：5 年間（平成 21～25 年度※）
※平成 24 年 4 月に期間延長（当初：平成 21～23 年度の 3 年間）

6 進行管理

- (1) 進捗状況については、毎年、取組状況及び自己評価結果を、有識者で構成される「県立病院事業経営評価委員会」から助言・意見をいただくとともに、ホームページ等で公表する。
- (2) 診療報酬の改定や患者の動向など、県立病院を取り巻く環境の変化に対応するため、必要に応じ、適切な見直しを行う。

1 自己評価方法について

◆平成 21 年 5 月に「福島県県立病院改革プラン」を策定し、地域に必要とされる質の高い医療の提供と病院経営の健全化を図るため、具体的な実施手順や数値目標を定め、各病院の行動計画に基づいてさらなる経営改善・充実強化、患者サービスの向上や医療安全対策の強化を図った。

◆また、県立病院の在り方を踏まえた改革を進めながら、「親切・信頼・進歩」という県立病院基本理念の下、B S C（バランスド・スコアカード）の考え方を活用し、5つの基本方針に基づく具体的な取組みを実行した。

◆これらの実施状況については、下記の『県立病院の在り方』、『行動計画の基本方針1～5に掲げる 11 の共通目標』、『全体の収支計画』に対して、それぞれ5段階の評価基準により自己評価を行った。

	評価項目		目標達成 自己評価	取組状況 自己評価
在 り 方	矢吹病院		—	○
	会津医療センター（喜多方病院・会津総合病院）		—	○
	宮下病院		—	○
	南会津病院		—	○
	大野病院		—	○
行 動 計 画	基本方針 1	◇医療の質の向上	—	○
		◇患者サービスの向上	○	○
	基本方針 2	◇収益の確保	○	○
		◇未収金の発生防止と早期回収の強化	○	○
		◇費用の見直し	○	○
	基本方針 3	◇診療体制及び経営基盤の強化	○	○
		◇医療安全対策の強化	○	○
	基本方針 4	◇人材の育成と確保	○	○
		◇職員の意識改革	○	○
	基本方針 5	◇地域医療機関等との連携	○	○
		◇県民への情報提供	—	○
収 支 計 画	県立病院事業の収支計画		○	○
	矢吹病院		○	—
	喜多方病院		○	—
	会津総合病院		○	—
	宮下病院		○	—
	南会津病院		○	—
	大野病院		○	—

＊

2 自己評価基準について

◆平成 23 年度の改革プランの進捗状況については、次の 2 つの観点から自己評価を行った。

- ①平成 23 年度目標値の『達成状況』（定量的評価）
- ②目標値を達成するための『取組状況』（定性的評価）

目標値達成状況の自己評価（定量評価）		取組状況の自己評価（定性評価）	
【5】	目標値を上回った 達成度 1 0 0 % 以上 1 2 0 % 未満	【5】	極めて積極的に行われている
【4】	目標値を達成できた 達成度 9 0 % 以上 1 0 0 % 未満	【4】	積極的に行われている
【3】	目標値をほぼ達成できた 達成度 7 0 % 以上 9 0 % 未満	【3】	取り組んでいる
【2】	目標値を下回った 達成度 5 0 % 以上 7 0 % 未満	【2】	消極的である
【1】	目標値を大きく下回った 達成度 5 0 % 未満	【1】	実施に至っていない

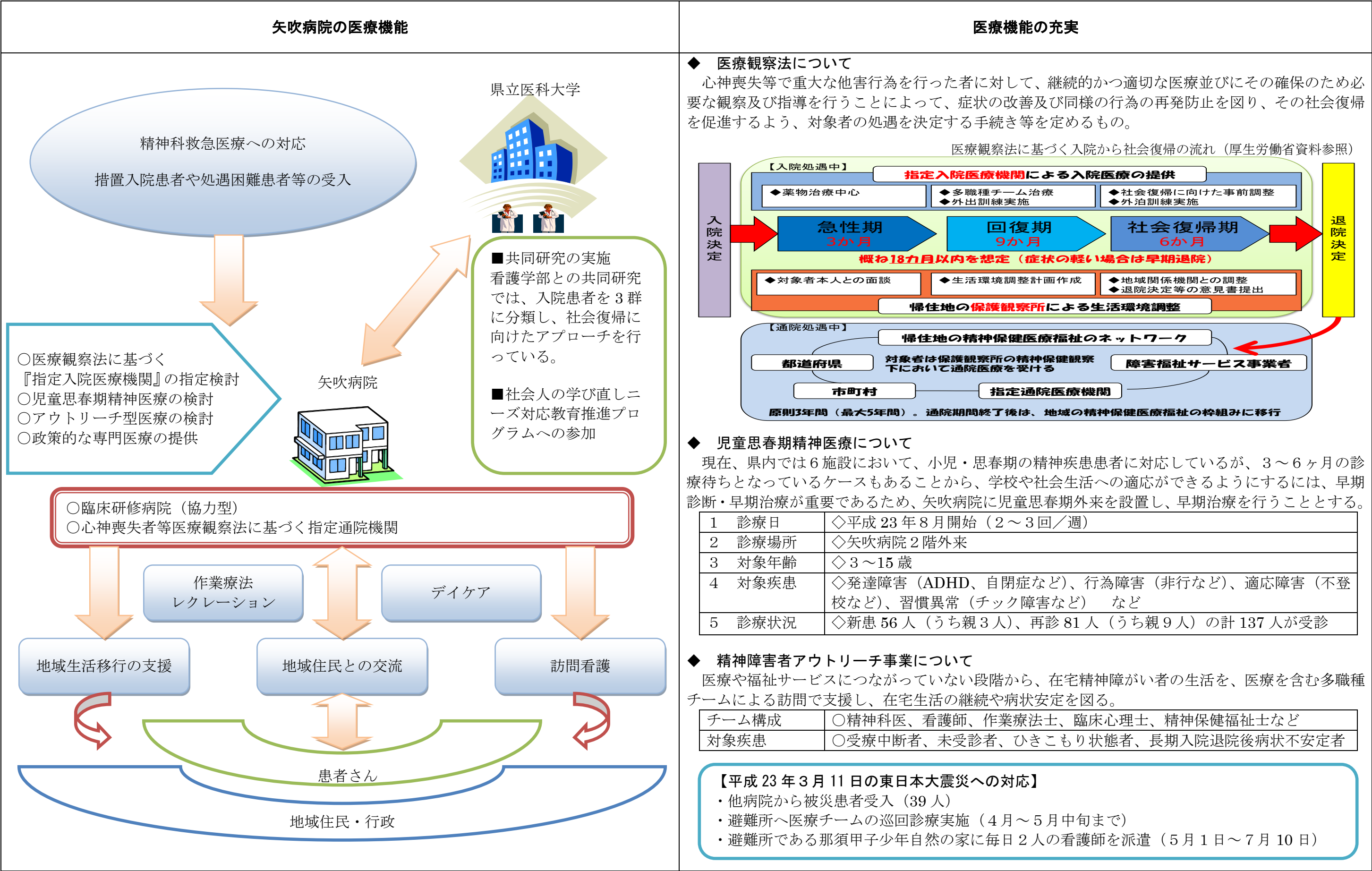
◆各分野で設定している共通目標指標については、その達成状況をわかりやすくするため、下記の基準により評価を行った。

＊ 目標値達成度指標＝当該年度実績値／当該年度目標値×1 0 0

1 矢吹病院

(医師数：6人・病床数206床・精神単科病院)

	改革プランの内容		平成 23 年度の取組状況及び自己評価															
役 割	果たすべき役割	○措置入院患者や民間病院では受入が難しい処遇困難患者等の受入れなどの精神医療提供	取組状況自己評価		【４】	積極的に行われている												
	経営形態	○県立病院として経営																
医 療 機 能	①措置入院患者や処遇困難患者の受入体制の充実強化	○措置入院患者や民間病院では受入が難しい処遇困難患者等の受入体制の充実強化を図る。	◆ 常時満床に近い保護室に少しでも空床を確保するため、隔離期間の短縮・早期解放の実現に努めた結果、昨年度と同程度の患者数を受け入れることができた。 <table><tr><th>項目</th><th>H23</th><th>H22</th><th>H21</th></tr><tr><td>措置入院患者数</td><td>6 人</td><td>7 人</td><td>3 人</td></tr><tr><td>処遇困難患者数</td><td>1 人</td><td>0 人</td><td>2 人</td></tr></table>				項目	H23	H22	H21	措置入院患者数	6 人	7 人	3 人	処遇困難患者数	1 人	0 人	2 人
	項目	H23	H22	H21														
	措置入院患者数	6 人	7 人	3 人														
	処遇困難患者数	1 人	0 人	2 人														
	②心神喪失者等医療観察法に基づく患者への支援	○心神喪失等の状態で重大な他害行為を行った者に対する医療の確保と社会復帰への支援を行うため、現在の心神喪失者等医療観察法に基づく「指定通院医療機関」に加え、指定入院医療機関としての指定についても検討を行う。	◆ 医療観察制度の趣旨に基づき、公的医療機関として触法精神障害者の社会復帰を支援するため、同法の指定入院医療機関としての指定に向けて、平成 20 年度及び平成 21 年度に他県の医療観察法病棟を視察して、医療観察法に基づく指定入院医療機関の整備に係る情報収集等の調査を実施した。平成 22 年度から、それらを踏まえて、県保健福祉部、県病院局、県立医科大学とともに具体的な検討を行った。平成 23 年度は震災の影響があったが、次年度も継続して取り組んでいく。															
	③患者の地域生活移行への支援	○「入院医療中心から地域生活中心へ」という精神保健医療福祉改革ビジョンの基本的な考え方を踏まえ、患者の地域生活移行を引き続き進めるとともに、退院後も患者が地域の中で安心して暮らしていけるよう支援を強化する。	◆ 精神科リハビリテーションの各種取組や退院促進事業（在院期間短縮検討会）等に加えて、平成 21 年度から「精神障がい者地域生活移行支援特別対策事業」に参加した。 ◆ 当事業等により得られたノウハウや市町村担当部門、民間事業者、保健福祉事務所等とのネットワークを活用しながら、平成 22 年度は長期入院患者のうち 4 人が、平成 23 年度は 5 人が退院に至った。今後も各機関と連携しながら退院促進を図っていく。 ◆ 訪問看護、デイケアの充実を図った。 <table><tr><th>項目</th><th>H23</th><th>H22</th><th>H21</th></tr><tr><td>訪問看護</td><td>6.9 人/日 (50 人)</td><td>6.7 人/日 (68 人)</td><td>7.2 人/日 (63 人)</td></tr><tr><td>デイケア</td><td>15.0 人/日 (73 人)</td><td>15.8 人/日 (45 人)</td><td>15.7 人/日 (44 人)</td></tr></table> ※（ ）内は登録者数				項目	H23	H22	H21	訪問看護	6.9 人/日 (50 人)	6.7 人/日 (68 人)	7.2 人/日 (63 人)	デイケア	15.0 人/日 (73 人)	15.8 人/日 (45 人)	15.7 人/日 (44 人)
項目	H23	H22	H21															
訪問看護	6.9 人/日 (50 人)	6.7 人/日 (68 人)	7.2 人/日 (63 人)															
デイケア	15.0 人/日 (73 人)	15.8 人/日 (45 人)	15.7 人/日 (44 人)															
④政策的な専門医療の実施	○県内の精神医療をリードする役割を果たすため、県立医科大学等との連携強化を図りながら、児童思春期、ストレスケア等の政策的な専門医療の実施に向けて検討する。	◆ 児童思春期精神医療のほか、前述の心神喪失者等医療観察法に基づく「指定入院医療機関」の指定、さらには、アウトリーチ型医療の取組の 3 点について、県保健福祉部、県病院局、県立医科大学とともに協議検討を行い、そのうち、児童思春期外来については、平成 23 年 8 月に開始し、137 人が受診した。今後も、県立病院として、政策的な専門医療について検討を進めていく。																
⑤精神科救急医療への対応	○精神科救急医療システム指定医療機関（救急輪番制）に指定されており、引き続き救急医療を実施する。	◆ 精神科救急医療システム指定医療機関（救急輪番制）として、夜間 60 回、休日 11 回、空床確保事業 49 回の計 120 回実施し、相談 49 件、来院 29 件、入院 13 件の計 91 件の対応実績であった。 ◆ 公立病院としての役割を担う一環として、応急入院の指定を平成 24 年 2 月に受け、3 月に 1 件対応した。																
⑥臨床研修病院としての研修・教育機能の展開	○県立医科大学や白河厚生総合病院等と連携しながら、臨床研修病院（協力型）として、臨床研修医や学生への研修、教育を行う。	◆ 臨床研修医を白河厚生総合病院から 4 人、公立岩瀬病院から 1 人受け入れた。（H22 実績：7 人） ◆ 県立医科大学附属病院や奥羽大学歯学部附属病院の協力型臨床研修病院としても指定されており、平成 24 年度も引き続き臨床研修医等への研修、教育を実施していく。																
規 模	○地域生活支援体制の充実・強化を図り、入院患者の地域生活移行を促進するとともに、心神喪失者等医療観察法に基づく指定入院医療機関としての指定も視野に入れながら、平成 24 年度に 4 病棟から 3 病棟とする病棟再編を実施する。		◆ 心神喪失者等医療観察法に基づく指定入院医療機関としての指定について、継続して検討を行っていく。															



2 会津医療センター（喜多方病院・会津総合病院）

（医師数：喜多方病院 4 人・会津総合病院 31 人 病床数：喜多方病院 50 床・会津総合病院 262 床）

改革プランの内容			平成 23 年度取組状況及び自己評価														
役割	果たすべき役割	1 「診療」・「教育」・「研究」の3つの機能を柱とする。 2 地域医療の確保や人材の育成等の拠点と位置づける。	取組状況自己評価	【4】	積極的に行われている												
	経営形態	○公立大学法人県立医科大学の附属病院に移行															
医療機能	①診療機能等の在り方	○会津地方全体の医療水準の維持・向上を図るため、へき地医療をはじめとする政策医療並びに地域特性に対応した医療を提供するとともに、県立医科大学附属病院として新たに備える教育研究機能を発揮し、本県医療の向上にも貢献することを基本として、医科大学とさらに協議を進め、診療機能等の在り方を決定する。	<div>1 会津医療センターの整備</div> <div>地域に根ざした医療や疾病に関する教育・研究を行い、地域医療の向上に貢献するため、教育・研究機能も備えた県立医科大学の附属病院として、会津医療センターの整備を進めた。</div> <table><tr><td>時期</td><td>内容</td></tr><tr><td>平成 22 年 8 月</td><td>○右折レーン整備工事完了 ○実施設計完了</td></tr><tr><td>平成 22 年 9 月</td><td>○建築・設備工事に係る入札公告</td></tr><tr><td>平成 22 年 10、11 月</td><td>○建築・設備工事入札</td></tr><tr><td>平成 22 年 11 月</td><td>○建築・設備工事に着手</td></tr><tr><td>平成 24 年 3 月</td><td>○周回道路舗装工事に着手</td></tr></table> <div>2 会津医療センター診療機能等のあり方について</div> <div>平成 22 年度に会津総合病院内に設置された会津医療センター準備室に同準備室付け教員として 16 人（平成 24 年 3 月 31 日現在）が先行配置され、通常診療に従事しながら開設準備業務に当たるとともに、会津医療センターの診療機能等のあり方については、これらの準備室付け教授を中心に会津医療センター開設検討委員会等で検討を行ってきた。</div> <div>3 診療科について</div> <div>診療科については、院内標榜の診療科を含め 22 科の診療科の設置が予定されている。（22 科のうち、血液内科は平成 22 年 4 月から、漢方内科は平成 23 年 6 月からそれぞれ会津総合病院において診療を開始）</div> <div>4 政策医療について</div> <div>会津・南会津医療圏内における医療機関ごとの機能分担を明確にし、相互補完、連携を行うことで域内の地域医療を支えていくという観点から、二次救急医療、へき地医療拠点センター病院としての機能及び結核・感染症医療等の政策医療を継続していく方向で検討が進められている。</div> <div>5 地域連携について</div> <div>地域医療機関との連携を強化し、紹介率を向上させるため、医療機関に対する訪問活動の実施及び地元医師会への加入促進を図った。（平成 24 年 5 月末現在加入者数 13 人、うち平成 23 年度以降の新規加入者数 6 人）</div> <div>6 臨床研修病院について</div> <div>会津医療センターにおいては、臨床研修病院として卒後臨床研修に取り組むほか、大学附属病院として学生等の教育にも活用していくことで検討が進められている。</div> <div>7 平成 24 年度の取組みについて</div> <div>会津医療センター開設に向けて、建設工事を着実に進めていくとともに、運営システムの策定、医療機器や、医療情報システムの導入を行う。</div>			時期	内容	平成 22 年 8 月	○右折レーン整備工事完了 ○実施設計完了	平成 22 年 9 月	○建築・設備工事に係る入札公告	平成 22 年 10、11 月	○建築・設備工事入札	平成 22 年 11 月	○建築・設備工事に着手	平成 24 年 3 月	○周回道路舗装工事に着手
	時期	内容															
	平成 22 年 8 月	○右折レーン整備工事完了 ○実施設計完了															
	平成 22 年 9 月	○建築・設備工事に係る入札公告															
	平成 22 年 10、11 月	○建築・設備工事入札															
	平成 22 年 11 月	○建築・設備工事に着手															
平成 24 年 3 月	○周回道路舗装工事に着手																
規模	○226 床程度（一般 200 床（うち緩和ケア 25 床）、集中 4 床、結核 14 床、感染症 8 床） ○喜多方病院の経営改善に向けて、診療圏の人口動向や今後の患者数見込み等を踏まえ、平成 21 年度に病床数を削減（135 床→50 床）する。（実施済）																

会津医療センター		医療機能の充実													
○外観イメージ		【平成 23 年度の収益確保に向けた取組状況】													
		(喜多方病院)													
		○地域医療連携活動	◆地域の医療機関等を積極的に訪問し、地域の医療ニーズの把握に努めるとともに、前年度に引き続き、地域連携便りを発行した。												
		○地域貢献の向上	◆ふれあい事業として、看護の日イベント、健康講座、落語鑑賞会などを開催し、地域住民との交流を図った。 ◆平成 23 年度は義援金を募集し 88,213 円を集め、バザーの売上金 53,700 円とともに日本赤十字社に寄付した。												
		○検診業務の充実	◆地域住民の健康維持に貢献する目的のほかに、医師の減少による経営・業績の悪化の改善に寄与することを目的として、検診業務を強化している。 <table><tr><th>項目</th><th>H23</th><th>H22</th><th>H21</th></tr><tr><td>健康診断実施人数</td><td>1,670 人</td><td>1,718 人</td><td>1,380 人</td></tr><tr><td>人間ドッグ実施人数</td><td>666 人</td><td>591 人</td><td>584 人</td></tr></table>	項目	H23	H22	H21	健康診断実施人数	1,670 人	1,718 人	1,380 人	人間ドッグ実施人数	666 人	591 人	584 人
項目	H23	H22	H21												
健康診断実施人数	1,670 人	1,718 人	1,380 人												
人間ドッグ実施人数	666 人	591 人	584 人												
		○収益の確保	◆診療行為が適正に収益に反映・評価されるよう査定減対策を講じた。(査定率：0.22%)												
		○後発医薬品の採用	◆医師全員が出席する薬事委員会において、後発医薬品の採用検討を行い可能なものから順次採用を進めた。(後発医薬品割合（契約ベース）：16.4%)												
		(会津総合病院)													
		○地域医療連携活動	◆ホームページを適宜更新し、当院の医療機能等に関する情報発信に努めたほか、会津医療センター準備室教授（H22：9 人→H23：16 人）を中心に、医療機関を訪問し、地域医療機関との連携やネットワークの構築を行い紹介率の向上に努めた。												
		○地域貢献の向上	◆市民公開講座、すい臓病講座、糖尿病教室を開催し、地域の方々の医療に関する理解促進と普及啓発を行った。												
		○収益の確保	◆DPC 導入により、出来高算定方式と比較して約 1.3 億円の増収となった。												
		○後発医薬品の採用	◆抗がん剤など高額医薬品以外のものについて、ジェネリック化への推進を図った。(後発医薬品割合（契約ベース）：6.2%)												
		【平成 23 年 3 月 11 日の東日本大震災への対応】													
		○喜多方病院													
		・被災患者の受入（8 人）													
		・避難所（喜多方市押切体育館）への巡回診療に医療スタッフ派遣（3 月から 4 月まで）													
		・被ばくスクリーニングのため、喜多方市災害対策本部へサーベイメータの貸し出し													
		○会津総合病院													
		・被災患者の受入（21 人）													
		・避難所への巡回診療に医療支援チーム、看護支援チームを派遣（3 月から 4 月中旬まで）													
		・被ばくスクリーニングへの支援（測定件数：10,980 件、3 月中旬から 6 月上旬まで）													
診療科	◇22 科（想定 ※院内標榜の診療科を含む） 総合内科/漢方内科/循環器内科/血液内科/消化器内科/小腸・大腸・肛門科/糖尿病・代謝・腎臓内科/感染症・呼吸器内科/神経内科/心身医療科/外科/整形外科・脊椎外科/眼科/皮膚科/泌尿器科/耳鼻咽喉科/放射線科/麻酔科/病理診断科/歯科/リハビリテーション科/緩和ケア科/														
病床数	226 床程度（一般 200 床（うち緩和ケア 25 床）、集中 4 床、結核 14 床、感染症 8 床）														
主な機能等	(1) 診療機能 ①病院として必要な基本診療科を設置する。 ②基本診療科においては、他の医療機関との役割分担を踏まえ、「高度医療」、「専門領域に特化した医療」を中心に診療を行う。 ③「結核医療」、「感染症医療」、「地域医療」等の政策医療を提供する。 ④地域に不足する診療科、高齢化等地域の特性に応じた診療科を設置、強化する。 (2) 教育・研究機能														
	学部教育	臨床研修医（前期研修医）及び専攻医（後期研修医）の積極的受入													
	研究部門	臨床疫学、医療工学、東洋医学の 3 研究室を設置予定（いずれも仮称）													

3 宮下病院

(医師数：6人 病床数 32 床)

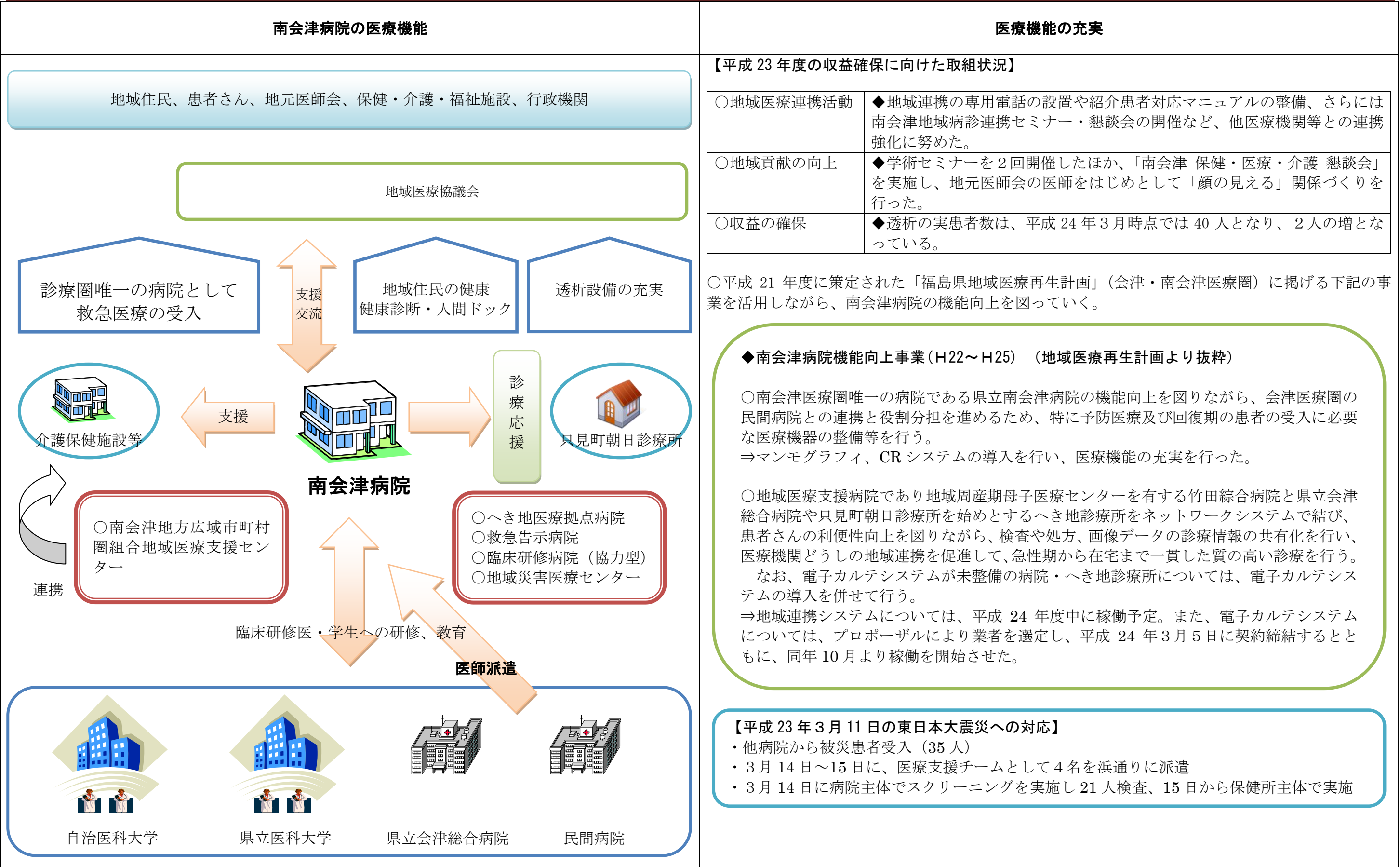
	改革プランの内容		平成 23 年度取組状況及び自己評価																																																			
役割	果たすべき役割	〇へき地における医療提供	取組状況自己評価		【4】	積極的に行われている																																																
医療機能	経営形態	〇県立病院として経営																																																				
	①急性期医療の実施	〇県医療計画において「へき地医療拠点病院」に指定されており、当診療圏唯一の病院として緊急の内科的・外科的処置に対応する医療機能を確保し、会津総合病院や開院後の会津医療センターの支援を受けながら、この地域に不足している、高齢者に多い運動器や感覚器の疾患に対応する医療（整形外科、眼科、耳鼻咽喉科等）を提供する。	◆ 県内で高齢化率が一番高い地域特性に対応した医療の提供 地域の方々が安全に安心して暮らしていけるよう、診療圏唯一の病院として常勤医師の確保・定着を図るとともに、県内で一番高齢化が進行している地域の特性に対応した医療を提供していくため、県立医科大学や会津総合病院との連携を強化しながら、専門外来の維持・確保に努めた。 ◆ 常勤医師 6 人（内科 4 人、外科 2 人） ◆ 非常勤医師 4 人（整形外科 1 人、神経精神科 1 人、耳鼻咽喉科 1 人、皮膚科 1 人）																																																			
	②へき地における医療の確保	〇へき地医療拠点病院として、国保診療所への派遣機能を維持するとともに、訪問診療・訪問看護等により住民の医療を確保するなど、県内で最も高齢化率が高い地域特性に対応した医療を提供する。	◆ へき地医療拠点病院として、国保診療所等への診療応援 <table><tr><th>場所</th><th>実施日</th><th>H23</th><th>H22</th><th>H21</th></tr><tr><td>柳津町国民健康保険診療所</td><td>毎週月曜日</td><td>51 回／年</td><td>49 回／年</td><td>46 回／年</td></tr><tr><td>金山町国民健康保険診療所</td><td>毎週火曜日から金曜日</td><td>196 回／年</td><td>197 回／年</td><td>192 回／年</td></tr><tr><td>特別養護老人ホーム桐寿苑</td><td>毎週木曜日（管理医）</td><td>48 回／年</td><td>50 回／年</td><td>47 回／年</td></tr></table> ◆ 在宅医療を継続して実施 <table><tr><th rowspan="2">項目</th><th colspan="2">H23</th><th colspan="2">H22</th><th colspan="2">H21</th></tr><tr><th>対象者</th><th>実施回数</th><th>対象者</th><th>実施回数</th><th>対象者</th><th>実施回数</th></tr><tr><td>訪問診療</td><td>22 人</td><td>1 回/月 (131 件)</td><td>9 人</td><td>2 回/月 (57 件)</td><td>10 人</td><td>2 回/月 (73 件)</td></tr><tr><td>訪問看護</td><td>7 人</td><td>2 回/週 (46 件)</td><td>2 人</td><td>1 回/週 (42 件)</td><td>4 人</td><td>1 回/週 (70 件)</td></tr></table>					場所	実施日	H23	H22	H21	柳津町国民健康保険診療所	毎週月曜日	51 回／年	49 回／年	46 回／年	金山町国民健康保険診療所	毎週火曜日から金曜日	196 回／年	197 回／年	192 回／年	特別養護老人ホーム桐寿苑	毎週木曜日（管理医）	48 回／年	50 回／年	47 回／年	項目	H23		H22		H21		対象者	実施回数	対象者	実施回数	対象者	実施回数	訪問診療	22 人	1 回/月 (131 件)	9 人	2 回/月 (57 件)	10 人	2 回/月 (73 件)	訪問看護	7 人	2 回/週 (46 件)	2 人	1 回/週 (42 件)	4 人	1 回/週 (70 件)
	場所	実施日	H23	H22	H21																																																	
	柳津町国民健康保険診療所	毎週月曜日	51 回／年	49 回／年	46 回／年																																																	
金山町国民健康保険診療所	毎週火曜日から金曜日	196 回／年	197 回／年	192 回／年																																																		
特別養護老人ホーム桐寿苑	毎週木曜日（管理医）	48 回／年	50 回／年	47 回／年																																																		
項目	H23		H22		H21																																																	
	対象者	実施回数	対象者	実施回数	対象者	実施回数																																																
訪問診療	22 人	1 回/月 (131 件)	9 人	2 回/月 (57 件)	10 人	2 回/月 (73 件)																																																
訪問看護	7 人	2 回/週 (46 件)	2 人	1 回/週 (42 件)	4 人	1 回/週 (70 件)																																																
③臨床研修協力施設としての研修・教育機能の展開	〇県立医科大学や自治医科大学等と連携しながら、臨床研修協力施設として、臨床研修医や学生への研修、教育を行う。	◆ 臨床研修医や学生への研修、教育 <table><tr><th>項目</th><th>内容</th><th>H23</th><th>H22</th><th>H21</th></tr><tr><td>臨床研修医師の受入</td><td>卒後 2 年目・地域医療</td><td>2 人</td><td>1 人</td><td>0 人</td></tr><tr><td>へき地医療体験研修</td><td>地域医療に関心を持つ医学部生等</td><td>20 人</td><td>42 人</td><td>28 人</td></tr></table>					項目	内容	H23	H22	H21	臨床研修医師の受入	卒後 2 年目・地域医療	2 人	1 人	0 人	へき地医療体験研修	地域医療に関心を持つ医学部生等	20 人	42 人	28 人																																	
項目	内容	H23	H22	H21																																																		
臨床研修医師の受入	卒後 2 年目・地域医療	2 人	1 人	0 人																																																		
へき地医療体験研修	地域医療に関心を持つ医学部生等	20 人	42 人	28 人																																																		
④地域住民の健康増進への支援	〇地域の医療機関や介護施設等とも連携しながら、健康診断、人間ドック等による疾病の予防、早期発見・治療等を通じて、地域住民の健康増進への支援を行う。	◆ 地域住民の健康増進への支援 <table><tr><th>項目</th><th>H23</th><th>H22</th><th>H21</th></tr><tr><td>健康診断実施人数</td><td>226 人</td><td>259 人</td><td>214 人</td></tr><tr><td>人間ドック実施人数</td><td>5 人</td><td>16 人</td><td>23 人</td></tr><tr><td>健康診断事業受託件数</td><td>19 件</td><td>16 件</td><td>15 件</td></tr><tr><td>院内健康教室の開催</td><td>年 6 回・56 人</td><td>年 11 回・107 人</td><td>年 13 回・135 人</td></tr><tr><td>心ある医療「出前講座」の開催</td><td>年 18 回・396 人</td><td>年 23 回・491 人</td><td>年 24 回・667 人</td></tr></table>					項目	H23	H22	H21	健康診断実施人数	226 人	259 人	214 人	人間ドック実施人数	5 人	16 人	23 人	健康診断事業受託件数	19 件	16 件	15 件	院内健康教室の開催	年 6 回・56 人	年 11 回・107 人	年 13 回・135 人	心ある医療「出前講座」の開催	年 18 回・396 人	年 23 回・491 人	年 24 回・667 人																								
項目	H23	H22	H21																																																			
健康診断実施人数	226 人	259 人	214 人																																																			
人間ドック実施人数	5 人	16 人	23 人																																																			
健康診断事業受託件数	19 件	16 件	15 件																																																			
院内健康教室の開催	年 6 回・56 人	年 11 回・107 人	年 13 回・135 人																																																			
心ある医療「出前講座」の開催	年 18 回・396 人	年 23 回・491 人	年 24 回・667 人																																																			
規模	〇診療圏の人口動向や今後の患者数見込み等を踏まえ、平成 21 年度に病床数を削減（55 床→32 床）する。（実施済）		平成 21 年 4 月 1 日付けで 55 床から 32 床に病床変更を行った。																																																			

宮下病院の医療機能	医療機能の充実
<div data-bbox="142 294 1466 1852"><div>地域住民、患者さん、保健・介護・福祉施設、行政機関</div><div><div>宮下病院等後援会</div><div>交流 信頼</div><div>支援</div><div>訪問看護</div><div>訪問診療</div><div>在宅医療への支援</div><div>救急患者の受入</div><div>医師派遣</div><div>臨床研修医・学生への研修、教育</div><div>診療応援</div><div>介護施設との 合同ケア会議</div><div>介護保健施設等</div><div>柳津町診療所</div><div>金山町診療所</div><div>自治医科大学</div><div>県立医科大学</div><div>県立会津総合病院</div><div>〇へき地医療拠点病院 〇臨床研修病院（協力型）</div><div>地域住民との交流</div><div>心ある医療 出前講座</div></div></div>	<div data-bbox="1495 262 2825 1852"><div>【平成 23 年度の収益確保に向けた取組状況】</div><div><div>〇地域医療連携活動</div><div>◆「医療・保健・福祉関係機関連絡会議」を年 2 回開催し、情報の共有化を図ったほか、これらの関係機関を定期的に訪問するなど、新患者の獲得に向けた取組を行った。 ◆医療圏町村の広報誌へ医療健康情報や新任医師の紹介、診療日記を掲載した。</div></div><div><div>〇地域貢献の向上</div><div>◆「看護の日」にイベントを開催し、絆創膏、タオルなどの記念品を配付したほか、血圧・骨密度測定などを行い、参加者の健康状態を確認した。 ◆地域住民の健康づくりなどに役立たせるため、病院スタッフである看護師、薬剤師、管理栄養士による出前講座を行ったほか、卒後臨床研修の一環として、研修医及び指導医による出前講座を実施した。(18 回 396 人参加)</div></div><div><div>〇後発医薬品の採用</div><div>◆後発医薬品への切り替えを積極的に行った。(後発医薬品割合（契約ベース）：17.8%)</div></div><div>◆平成 21 年度に策定された「福島県地域医療再生計画」（会津・南会津医療圏）に掲げる下記の事業を活用しながら、宮下病院の機能向上を図っていく。</div><div>◆地域医療連携ネットワークシステム導入事業（H22～25） （地域医療再生計画より抜粋） 地域医療支援病院であり地域周産期母子医療センターを有する竹田総合病院と県立会津総合病院や只見町朝日診療所を始めとするへき地診療所をネットワークシステムで結び、患者さんの利便性向上を図りながら、検査や処方、画像データの診療情報の共有化を行い、医療機関どうしの地域連携を促進して、急性期から在宅まで一貫した質の高い診療を行う。</div><div>【平成 23 年 3 月 11 日の東日本大震災への対応】</div><div><div>・他病院から被災患者受入（17 人）</div><div>・避難所である柳津町健康福祉プラザ银山荘へ医療チームの巡回診療実施</div><div>・避難所への看護師の派遣</div><div>・サーバイメータを会津総合病院へ貸し出し</div></div></div>

4 南会津病院

(医師数：14 人 病床数 100 床)

	改革プランの内容		平成２３年度取組状況及び自己評価														
役割	果たすべき役割	〇へき地における医療提供	取組状況自己評価	【４】	積極的に行われている												
	経営形態	〇県立病院として経営															
医療機能	①急性期医療の実施	〇南会津地域保健医療圏における唯一の病院として、入院・専門外来に係る医療機能を確保し、会津総合病院や開院後の会津医療センターの支援を受けながら、急性期医療を実施する。	◆ 県南会津地方振興局の仲介により、「二地域居住」で南会津町内に住宅を所有する医師と調整し、平成23年4月から「泌尿器科」を2回/月で開設した。 ◆ 平成23年6月から、小児科の常勤医を2人配置した。														
	②へき地における医療の確保	〇へき地医療拠点病院として、公的診療所への派遣機能の維持など、へき地医療を提供する。	◆ へき地医療拠点病院として、国保診療所等への診療応援														
			<table><tr><th>場所</th><th>内容</th><th>H23</th><th>H22</th></tr><tr><td rowspan="2">只見町国民健康保険朝日診療所</td><td>整形外科応援</td><td>20回／年</td><td>23回／年</td></tr><tr><td>当直応援</td><td>3回／年</td><td>5回／年</td></tr></table>				場所	内容	H23	H22	只見町国民健康保険朝日診療所	整形外科応援	20回／年	23回／年	当直応援	3回／年	5回／年
	場所	内容	H23	H22													
	只見町国民健康保険朝日診療所	整形外科応援	20回／年	23回／年													
		当直応援	3回／年	5回／年													
	③救急医療への対応	〇県医療計画において第二次救急医療機関に位置付けられており、引き続き救急医療を実施する。	◆ 時間外患者数は4,424人であり、対前年度で601人の増となった。また、救急車の受入回数は807回であり、対前年度で105回の増となり、救急医療についても積極的に対応した。														
	④災害時医療への対応	〇大規模災害、重篤救急患者の救命医療に対応するため、地域災害医療センターとして、引き続き災害時医療を実施する。	◆ 平成23年3月11日の東日本大震災により被災した病院から延べ37人の入院患者を受入れるなど、後方支援を積極的に行った。														
⑤総合的な医療提供体制の確立	〇広大な面積を有する診療圏において、患者の利便性を考慮することから、地域の中核病院として、二次医療を中心に、診断・治療からリハビリテーションに至る総合的な医療提供体制の確立を目指す。	◆ リハビリテーションについては、引き続き、地域リハビリテーション広域支援センターに指定されるとともに、理学療法士は2人体制（年度後半は1人体制）でより充実した活動を行った。 ◆ 療養環境の向上を図るため、院内コンサートを開催した。															
⑥臨床研修病院としての研修・教育機能の展開	〇県立医科大学や自治医科大学等と連携しながら、臨床研修病院（協力型）として臨床研修医や学生への研修、教育を行う。	◆ 臨床研修医や学生への研修、教育															
		<table><tr><th>項目</th><th>H23</th><th>H22</th></tr><tr><td>〇医師の卒後臨床研修</td><td>1人</td><td>0人</td></tr><tr><td>〇BSLアドバンスドコース（県立医大生）</td><td>1人</td><td>4人</td></tr><tr><td>〇地域医療実習（自治医大生）</td><td>2人</td><td>3人</td></tr></table> ＊BSL（bed side learning）＝実地臨床の現場での実習				項目	H23	H22	〇医師の卒後臨床研修	1人	0人	〇BSLアドバンスドコース（県立医大生）	1人	4人	〇地域医療実習（自治医大生）	2人	3人
項目	H23	H22															
〇医師の卒後臨床研修	1人	0人															
〇BSLアドバンスドコース（県立医大生）	1人	4人															
〇地域医療実習（自治医大生）	2人	3人															
⑦地域住民の健康増進への支援	〇地域の医療機関や介護施設等とも連携しながら、健康診断、人間ドック等による疾病の予防、早期発見・治療等を通じ、地域住民の健康増進への支援を行う。	◆健康診断受診者（人間ドック含む）は、961人となり、対前年度比で162人の増となった。 そのうち、人間ドック受診者は、181人となり、対前年度比で59人の増となった。															
		<table><tr><th>項目</th><th>H23</th><th>H22</th><th>H21</th></tr><tr><td>健康診断実施人数</td><td>780人</td><td>677人</td><td>687人</td></tr><tr><td>人間ドッグ実施人数</td><td>181人</td><td>122人</td><td>101人</td></tr></table> ◆病院広報紙「かけはし」を作成し、郡内全戸に配布したほか、病院職員が各地域に出向き医療講演等を実施した。				項目	H23	H22	H21	健康診断実施人数	780人	677人	687人	人間ドッグ実施人数	181人	122人	101人
項目	H23	H22	H21														
健康診断実施人数	780人	677人	687人														
人間ドッグ実施人数	181人	122人	101人														
規模	〇診療圏の人口動向や今後の患者数見込みなどを踏まえ、平成21年度に3病棟から2病棟へ病棟再編し、病床数を削減（150床→100床）する。（実施済）		◆平成21年3月末日に、150床から100床に病床変更を行った。														



5 大野病院

(休診中 病床数 150 床)

			改革プランの内容		平成 2 3 年度取組状況及び自己評価			
役 割	果たすべき役割		○医療拠点としての中核的機能・二次救急医療への対応			取組状況自己評価	—	—
	経営形態		○福島県厚生農業協同組合連合会が運営する双葉厚生病院と統合する方向で検討					
	統 合 に よ り 目 指 す も の	①診療機能の強化と医療サービスの向上	○病院の機能強化や診療体制の充実等により、常勤医師のいる診療科の増加、複数医師の診療体制による診療内容の充実、併科受診の容易性の向上など医療サービスの向上を図る。			◆ 県立大野病院と双葉厚生病院の統合 平成 23 年 4 月 1 日に県立大野病院と双葉厚生病院を統合し、双葉地域の中核病院としての整備を図り、『地域内で完結できるような救急医療』の体制を構築するため、平成 22 年 7 月 5 日に県と JA 福島厚生連で基本協定を締結した。 ◆ 平成 23 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災を契機とした、福島第一原子力発電所事故の影響により、同所より 20km 圏内が「警戒区域」と設定されたことから、県と JA 福島厚生連とで統合の延期を申し合わせている。		
		②救急医療など政策医療の充実	○病院の機能強化や診療体制の充実等により、救急患者の受入幅を拡大し、双葉郡内の搬送率を高めるなど、双葉地域の救急医療の向上を図る。					
		③医師の勤務環境の向上等による医師の確保	○医師の適正配置等により、医師の勤務環境を向上させ、新たな医師の確保を図る。					
	医 療 機 能	病 院 機 能 の 在 り 方	○統合に向けた詳細計画の策定に当たっては、県、福島県厚生農業協同組合連合会、大野病院及び双葉厚生病院の院長、地元町村会、地元医師会等から構成される（仮称）計画策定委員会を設置して、検討を行う。					
大野病院の経営改善 ○診療圏の人口動向や今後の患者数見込みなどを踏まえ、平成 22 年度に 3 病棟から 2 病棟へ病棟再編を検討する。								

双葉地域医療の充実強化策	(震災の影響により統合延期)
<div><div><div>1 「推進会議」の継続的開催</div><div>→県が、「双葉地域医療の充実強化に向けた推進会議」を継続して開催し、将来に向けて双葉地域医療に責任を果たしていく。</div></div><div><div>2 「推進会議」への地域住民の参画</div><div>→「双葉地域医療の充実強化に向けた推進会議」の委員として地域住民代表に参画していただき、住民の声を医療政策に反映させる。</div></div><div><div>3 センター機能の整備</div><div>→県として、双葉地域医療の充実強化に向けたコーディネート機能を発揮。</div><div><div>① 統合病院の円滑な移行・地域医療再生計画の具体化</div><div>② 救急医療ネットワークなど医療関係機関の連携体制</div><div>③ 地域全体で医療を支えていく機運づくり</div></div><div><div>4 JA福島厚生連への人的・財政的な支援</div><div><div>① 人的支援 : センター機能の整備（上記）、医師確保への連携した取組み</div><div>② 財政的支援 : 政策医療をはじめ、地域医療機能の維持向上への支援</div><div>③ 施設 : 現大野病院施設の無償貸与</div></div></div><div><div><div>相双医療圏</div><div>公立相馬総合病院・南相馬市立総合病院 など</div></div><div><div>センター機能の整備</div><div>救急医療ネットワーク</div></div><div><div>【現大野病院】</div><div>救急機能の強化</div><div>○救急センター</div><div>○循環器センター準備室</div><div>○糖尿病センター準備室</div></div><div><div>【現双葉厚生病院】</div><div>外来機能の強化</div><div>○地域医療総合センター</div><div>○地域・家庭医療</div><div>○健診関係</div><div>○訪問看護ステーション</div></div><div><div>経営統合機能分担医師集約</div><div>人的・財政的支援</div></div><div><div>多目的医療用ヘリ</div></div><div><div>いわき医療圏</div><div>いわき市立総合磐城共立病院など</div></div><div><div>支援</div><div>県</div><div>支援</div></div><div><div>県立医科大学</div><div>双葉郡医師会</div><div>双葉地方町村</div><div>地域住民</div></div></div></div></div>	<div><div>【平成 23 年度の取組状況】</div><div>当院は東京電力福島第一原子力発電所事故に伴い現在休診中であるものの、広野町、楢葉町等の仮設住宅居住者への健康支援や、甲状腺調査・相談対応の県民健康調査の支援、県保健福祉部・教育委員会の業務支援、民間病院への支援など、様々な業務に積極的に取り組んだ。</div></div> <div><div>【平成 23 年 3 月 11 日の東日本大震災への対応】</div><div><div>・ 3 月 11 日の震災後、トリアージを行いながら被災患者の受入を行い、緊急手術も実施</div><div>・ 3 月 12 日に重症患者さんの転院搬送を行いながら、全職員と患者さんが川内村へ避難</div><div>・ 3 月 14 日に全入院患者 37 人の転院搬送後、各職員が避難所等へ解散</div><div>・ 各避難所へ看護師の派遣</div></div></div>

地域医療連携ネットワークシステムについて（医療情報化に向けた取組）

【医療の情報化に向けて】

医療に関する情報化については、電子カルテなどの病院情報システムが年々進歩しており、医療機関にとっては、欠くことができない重要なツールとなっている。

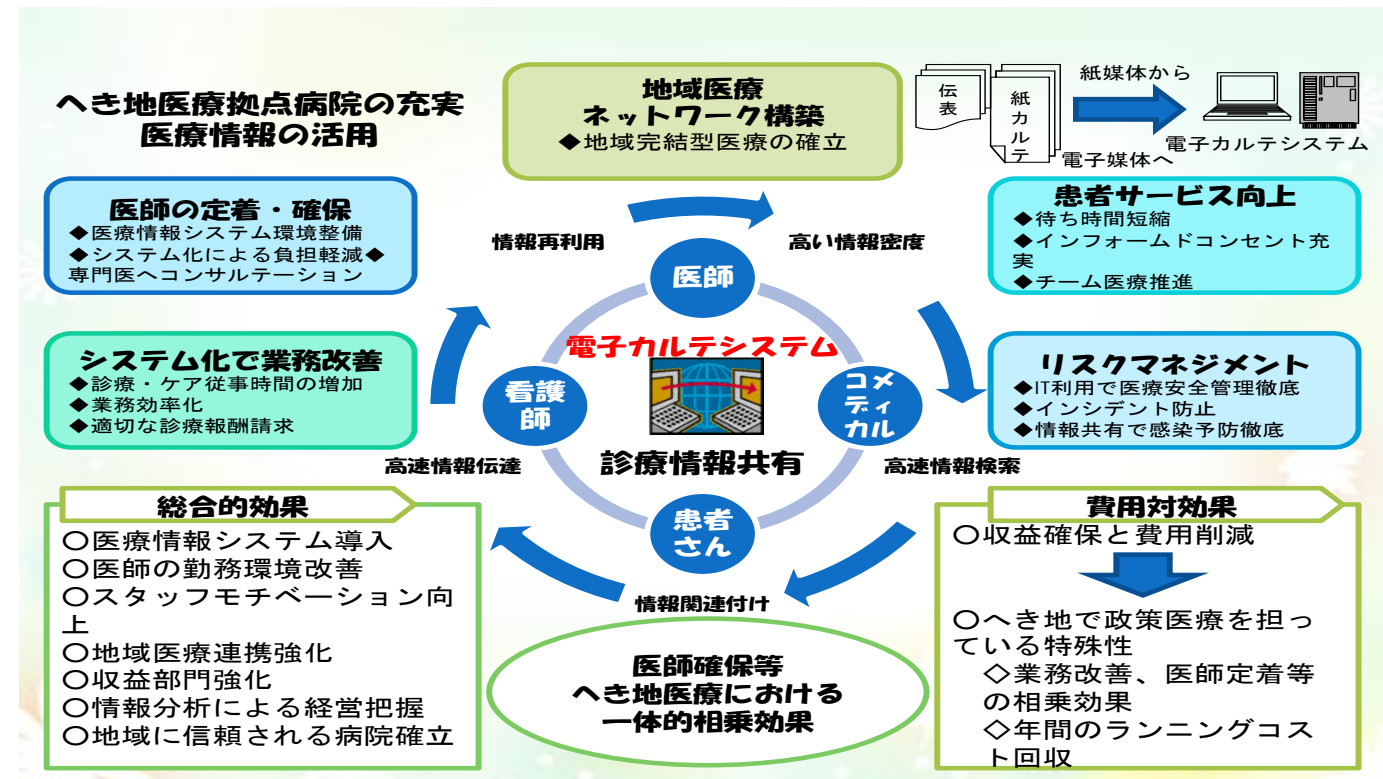
平成21年度に策定された「福島県地域医療再生計画（会津・南会津医療圏）」では、国の地域医療再生基金を活用して、平成25年度までに「会津地域医療連携ネットワークシステム」を構築することとなっている。

このため、当該システムの前提条件として、南会津病院に電子カルテシステムの導入を行い、へき地医療拠点病院の医療情報部門における環境整備と機能向上を図っていく。

また、県立病院と民間病院の役割分担を進め、ヒューマンネットワークの構築を進めるとともに、効率的かつ拡張可能性の高い医療情報システムの導入を行って、病院完結型医療から地域完結型医療の転換を図っていく。

【へき地における県立病院の医療情報化構想】

- へき地医療拠点病院の医療情報システムの環境整備
- 双方向の医療ネットワークの構築と地域医療連携の促進
- 患者サービスの向上
- へき地における医師の定着・確保
- 医療情報分野の活用

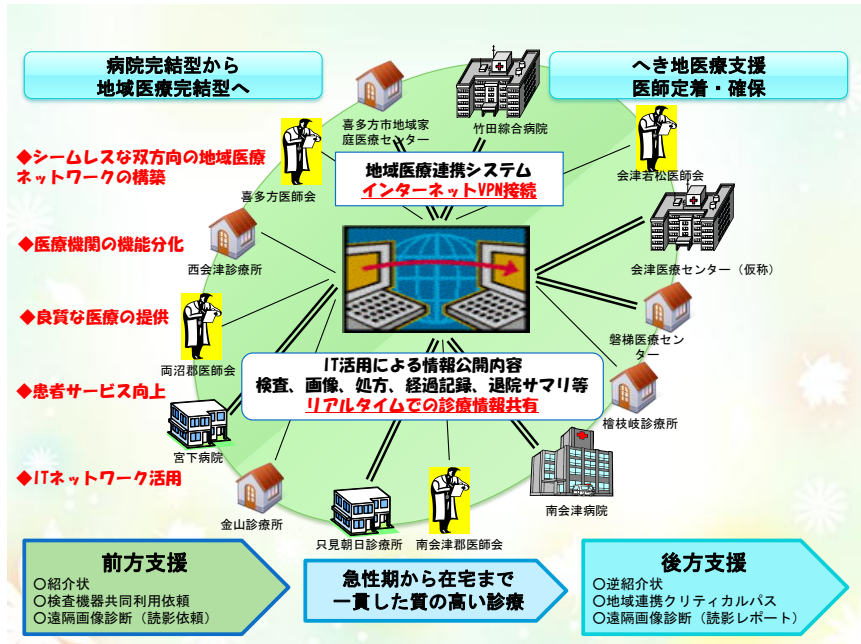


【地域医療連携ネットワークについて】

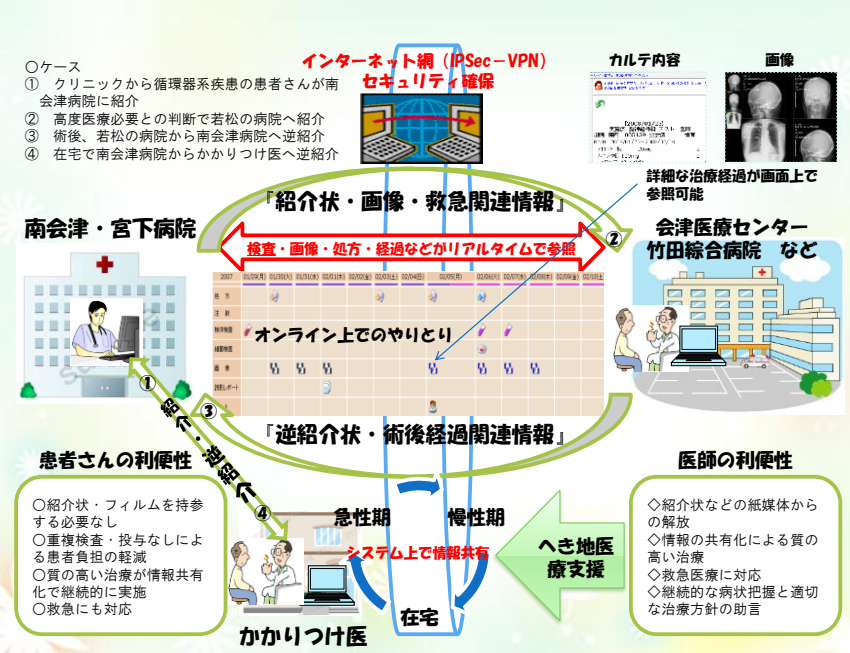
医師不足、医療の高度化の中で、地域の資源・労力を有効活用し、地域住民に良質の医療を提供していくことが求められているため、地域全体の質の底上げを図り、病院完結型から地域完結型医療の展開を進めていく。

◇地域医療連携ネットワークイメージ図

- ◆医療機関の機能分化を支える連携ネットワーク
- ◆広域の医療連携ネットワーク
- ◆各医療機関のカルテ情報の一元化
- ◆地域全体での診療の質の向上
- ◆双方向の医療連携システム



◇活用事例イメージ



【システムの活用について】

電子カルテを導入している中核病院が、地域連携システムへ情報提供を行い、診療所や他病院等が情報閲覧を行う。

地域における多くの医療機関の参画が重要であり、ベンダ間での情報共有を可能にするため、SS-MIX（厚生労働省電子的情報交換推進事業）標準化ストレージでの出力が想定されている。

なお、セキュリティについては、厚生労働省「医療情報システムの安全管理に関するガイドライン」に準拠したセキュリティ対策を実施する。

基本方針１：良質な医療サービスの提供（患者さんの視点）

【改革プラン方針】 地域住民の医療ニーズに的確に対応しながら、『質の高い医療サービスの提供』と『安らぎのある落ち着いた医療環境を提供できる患者サービスの向上』を通じ、患者さんの満足度の向上を図る。		平成 23 年度取組状況及び自己評価			
目標 1	医療の質の向上	目標値達成状況評価		取組状況評価	
		【－】	目標値は設定していないため	【５】	極めて積極的に行われている
【政策医療や予防医療の充実】 民間医療機関等では対応が困難なへき地医療や精神・感染症医療等政策医療を安定して提供するとともに、保健・医療・福祉の連携により、県医療計画に定める 4 疾病 5 事業※や生活習慣病対策などの予防医療等の充実を図る。 ※ ・ 4 疾病 5 事業 ・ 4 疾病（がん、脳卒中、急性心筋梗塞、糖尿病） ・ 5 事業（救急医療、災害時における医療、へき地の医療、周産期医療、小児医療） 					

目標 2	患者サービスの向上	目標値達成状況		取組状況評価																
		【－】	〔満足度調査未実施〕	【３】	取り組んでいる															
<div>〔実践的な接遇能力向上〕</div> <p>患者さんの立場を考えて行動することができる心ある職員となることを目指し、患者さんを尊重した言葉遣いや応待を実践するロールプレイなどの実践的な学習方法などを取り入れた接遇研修会を定期的に開催し、職員の接遇能力の向上を図る。</p> <div>〔病院全体の業務改善〕</div> <p>患者さんにより良質なサービスを提供するため、待ち時間の短縮を始めとする業務改善に職員が一丸となって取り組む。</p>		○平成 23 年度の取組状況																		
		1 接遇能力向上について																		
		<div>◆ 各病院において、接遇向上委員会や研修会を実施し、職員の接遇能力の向上に努めた。</div> <div>◆ 患者サービスの向上を図るため、外来や病棟に投書箱を設置し、きめ細やかな対応に努めた。</div> <div>◆ 矢吹病院と宮下病院では、無料送迎バスを運行し、患者さんの通院の利便性の向上に努めた。</div> <div>【無料送迎バス利用者数】</div> <table><tr><td>病院名</td><td>H23</td><td>H22</td><td>H21</td><td>運行概要</td></tr><tr><td>矢吹病院</td><td>4,442 人</td><td>4,138 人</td><td>4,198 人</td><td>矢吹病院～矢吹駅間（迎え 2 便/日、送り 5 便/日）</td></tr><tr><td>宮下病院</td><td>3,930 人</td><td>4,036 人</td><td>4,239 人</td><td>宮下病院～柳津・三島・金山町間（3 往復/日）</td></tr></table>				病院名	H23	H22	H21	運行概要	矢吹病院	4,442 人	4,138 人	4,198 人	矢吹病院～矢吹駅間（迎え 2 便/日、送り 5 便/日）	宮下病院	3,930 人	4,036 人	4,239 人	宮下病院～柳津・三島・金山町間（3 往復/日）
		病院名	H23	H22	H21	運行概要														
		矢吹病院	4,442 人	4,138 人	4,198 人	矢吹病院～矢吹駅間（迎え 2 便/日、送り 5 便/日）														
宮下病院	3,930 人	4,036 人	4,239 人	宮下病院～柳津・三島・金山町間（3 往復/日）																
2 業務改善について																				
<div>◆ 予約制を導入し、患者さんの待ち時間の短縮に努めた。</div> <div>◆ 待ち時間を活用した院内イベントや院内健康教室を開催し、待ち時間の苦痛軽減に努めた。</div> <div>◆ 四季折々の季節の風物詩や花などを院内に飾り、より心豊かに和やかに過ごしていただくための癒しの空間づくりに努めた。</div>																				
		○共通目標指標																		
		<div>患者満足度</div> <div>*外来患者と入院患者に対する年 1 回の患者アンケート調査結果 平成 23 年度は震災対応のため、調査未実施</div> <div><div>H21実績 77.4%</div><div>H22実績 75.1%</div><div>H23目標 85%以上</div><div>H23実績 —%</div></div>																		

目標1:医療の質の向上(各病院の取組状況)

番号	取組機関	アクションプラン	取組内容	平成 23 年度取組状況	取組評価																
1	共通取組	◇病院機能評価の認証更新	医療の質の向上と信頼の確立を目的として、財団法人日本医療機能評価機構が中立的な立場で医療機関の機能を評価・審査する病院機能評価の認定更新を図る。	○財団法人日本医療機能評価機構から Ver 6 の認定取得を行った。〔再掲 P15〕	5																
2		◇インフォームド・コンセントの充実	良質な医療の提供を図るため、患者さんに対する的確な診断と治療はもとより、診断内容、治療計画さらには副作用やリスク等を含めて十分説明し、患者さんが理解、納得した上で治療行為を選択していくインフォームド・コンセントの充実を図る。	○定期的に委員会を開催し、患者・家族への安心・安全な医療と情報提供について検討した。〔再掲 P15〕 ○会津総合病院では、カルテを電子化したことにより、診療情報の共有化が図られ、インフォームド・コンセントやチーム医療の充実など、医療の質の向上につながった。〔再掲 P15〕 ○宮下病院では、内視鏡検査等説明用パンフレットや在宅療養介護用パンフレットを作成するなど、インフォームド・コンセントの充実に努めた。〔再掲 P15〕	4																
3	矢吹病院	◇訪問看護の充実検討	今後とも新規退院患者などへのきめ細かな訪問看護を実施する。	○訪問看護は、3月の震災以降、1日当たりの患者数は、4月は4.3人に、5月は5.0人に減となったものの、その後は、1日当たり6.4人～8.1人に回復し、年間では1日当たり6.9人となり、対前年度比で0.2人の増となった。 【訪問看護1日平均患者数】 <table><tr><td>H23</td><td>H22</td><td>H21</td></tr><tr><td>6.9 人／日</td><td>6.7 人／日</td><td>7.2 人／日</td></tr></table>	H23	H22	H21	6.9 人／日	6.7 人／日	7.2 人／日	5										
H23	H22	H21																			
6.9 人／日	6.7 人／日	7.2 人／日																			
4	喜多方病院	◇デイケア（社会復帰訓練）の充実検討	料理や手芸、スポーツ、季節ごとの行事などのプログラムなどを行うなど、デイケアの充実強化を図る。	○デイケアは、患者さんの個別的な関わりを重視し、そのニーズを引き出し実施してきた。また、地域ネットワークを活用し、患者さんの就労支援を行った。 【デイケア1日平均患者数】 <table><tr><td>H23</td><td>H22</td><td>H21</td></tr><tr><td>15.0 人／日</td><td>15.8 人／日</td><td>15.7 人／日</td></tr></table>	H23	H22	H21	15.0 人／日	15.8 人／日	15.7 人／日	5										
H23		H22	H21																		
15.0 人／日		15.8 人／日	15.7 人／日																		
5	◇心神喪失者等医療観察法に基づく指定入院医療機関としての指定検討	触法精神障害者の専門的入院治療と社会復帰を支援する医療体制の充実に向けて検討する。	○心神喪失者等医療観察法に基づく指定入院医療機関の指定検討に向けて、研修会へ参加するなど、看護師やコメディカルによる積極的な情報収集を行った。また、県保健福祉部と県立医科大学とともに、具体的な検討を行った。	3																	
6	喜多方病院	◇受診枠の拡大による健康診断及び人間ドック充実	地域の要望に対応するため、1日当たりの受診枠を拡大して、健康診断・人間ドック事業を充実する。	○1日の受入枠の拡大、年間の受入時期の見直し及び受入体制の充実を行った。 【実施状況】 <table><tr><td>項目</td><td>H23</td><td>H22</td><td>H21</td></tr><tr><td>健康診断実施人数</td><td>1,670 人</td><td>1,718 人</td><td>1,380 人</td></tr><tr><td>人間ドック実施人数</td><td>666 人</td><td>591 人</td><td>584 人</td></tr><tr><td>医療相談収益</td><td>26,637 千円</td><td>24,614 千円</td><td>25,269 千円</td></tr></table>	項目	H23	H22	H21	健康診断実施人数	1,670 人	1,718 人	1,380 人	人間ドック実施人数	666 人	591 人	584 人	医療相談収益	26,637 千円	24,614 千円	25,269 千円	5
項目		H23	H22	H21																	
健康診断実施人数		1,670 人	1,718 人	1,380 人																	
人間ドック実施人数		666 人	591 人	584 人																	
医療相談収益	26,637 千円	24,614 千円	25,269 千円																		
7	会津総合病院	◇電子カルテシステム導入による医療の質の向上	患者さんに対する画面上での説明や待ち時間の短縮による患者サービスの向上のほか、データベースに蓄積された診療情報を症例研究に活用することで、質の高い医療を提供する。	○電子カルテを導入したことにより、診療情報の共有化が可能となり、インフォームド・コンセントやチーム医療の充実など医療の質の向上につながっている。さらに、オーダーリングシステムとの連携により、検査・処置、投薬その他における患者誤認の防止や会計処理の迅速化にもつながっている。	5																
8		◇チーム医療の推進	医師、看護師、管理栄養士、薬剤師、臨床検査技師などが一体となり、多職種で各疾患治療に応じた栄養管理を適切に実施するNST（栄養サポートチーム）の充実を図るなど、チーム医療の推進を図る。	○会津総合病院では、高度な臨床栄養管理を適切に実施するための「NST（栄養サポートチーム）」や、人工呼吸器の離脱に向け適切な呼吸器設定及び口腔状態の管理を行うための「RST（呼吸サポートチーム）」を設置し、チーム医療の推進を行った。〔再掲 P15〕	5																

9	宮下病院	◇診療圏域内唯一の病院として質の高い安定的な医療の提供	地域の方々が安全に安心して暮らしていけるよう、診療圏域内唯一の病院として、常勤医師の確保・定着に向けた取組みを強化していくとともに、県立医科大学や会津総合病院等との連携を強化しながら、高齢化が急速に進展する地域特性に対応した医療を継続して提供する。	○会津総合病院の支援を受けながら、診療圏域内に不足している運動器や感覚器など、高齢者に多い疾患に対応した医療の提供に努めた。 【診療科目の設置状況】 <table><tr><td>診療科名</td><td>H23</td><td>H22</td><td>H21</td></tr><tr><td>整形外科</td><td>2回／月</td><td>2回／月</td><td>2回／月</td></tr><tr><td>神経精神科</td><td>1回／隔週</td><td>1回／隔週</td><td>1回／隔週</td></tr><tr><td>耳鼻咽喉科</td><td>2回／月</td><td>2回／月</td><td>2回／月</td></tr><tr><td>皮膚科</td><td>1回／隔週</td><td>1回／隔週</td><td>1回／隔週</td></tr></table>	診療科名	H23	H22	H21	整形外科	2回／月	2回／月	2回／月	神経精神科	1回／隔週	1回／隔週	1回／隔週	耳鼻咽喉科	2回／月	2回／月	2回／月	皮膚科	1回／隔週	1回／隔週	1回／隔週	4
診療科名	H23	H22	H21																						
整形外科	2回／月	2回／月	2回／月																						
神経精神科	1回／隔週	1回／隔週	1回／隔週																						
耳鼻咽喉科	2回／月	2回／月	2回／月																						
皮膚科	1回／隔週	1回／隔週	1回／隔週																						
10		◇訪問診療・訪問看護による在宅医療への支援	地域の保健・医療・福祉関係機関との連携を強化しながら、訪問診療・訪問看護の充実を図り、在宅医療への支援を強化する。	○へき地医療拠点病院として、訪問診療や訪問看護を通じて、在宅で療養を続ける地域の方々を支援する取組を継続し、県内で最も高齢化率が高い地域特性に対応した医療の提供に努めた。 【実施状況】 <table><tr><td>項目</td><td>H23</td><td>H22</td><td>H21</td></tr><tr><td>訪問診療</td><td>131 件（1 回／月） 対象者 22 人</td><td>57 件（2 回／月） 対象者 9 人</td><td>73 件（2 回／月） 対象者 10 人</td></tr><tr><td>訪問看護</td><td>46 件（2 回／週） 対象者 7 人</td><td>42 件（1 回／週） 対象者 2 人</td><td>70 件（1 回／週） 対象者 4 人</td></tr></table>	項目	H23	H22	H21	訪問診療	131 件（1 回／月） 対象者 22 人	57 件（2 回／月） 対象者 9 人	73 件（2 回／月） 対象者 10 人	訪問看護	46 件（2 回／週） 対象者 7 人	42 件（1 回／週） 対象者 2 人	70 件（1 回／週） 対象者 4 人	5								
項目	H23	H22	H21																						
訪問診療	131 件（1 回／月） 対象者 22 人	57 件（2 回／月） 対象者 9 人	73 件（2 回／月） 対象者 10 人																						
訪問看護	46 件（2 回／週） 対象者 7 人	42 件（1 回／週） 対象者 2 人	70 件（1 回／週） 対象者 4 人																						
11		◇健康診断・人間ドック事業の充実	健康診断を担当する内科医師を配置するとともに、受診項目の充実や料金体系の見直しを行い、健康診断・人間ドック事業の拡充を図る。	○地域の医療機関や介護施設等とも連携しながら、健康診断、人間ドックによる疾病の予防、早期発見・治療等を通じて、地域住民の健康増進への支援を行った。 【実施状況】 <table><tr><td>項目</td><td>H23</td><td>H22</td><td>H21</td></tr><tr><td>健康診断実施人数</td><td>226 人</td><td>259 人</td><td>214 人</td></tr><tr><td>人間ドック実施人数</td><td>5 人</td><td>16 人</td><td>23 人</td></tr><tr><td>医療相談収益</td><td>3,547 千円</td><td>3,591 千円</td><td>4,080 千円</td></tr></table>	項目	H23	H22	H21	健康診断実施人数	226 人	259 人	214 人	人間ドック実施人数	5 人	16 人	23 人	医療相談収益	3,547 千円	3,591 千円	4,080 千円	4				
項目	H23	H22	H21																						
健康診断実施人数	226 人	259 人	214 人																						
人間ドック実施人数	5 人	16 人	23 人																						
医療相談収益	3,547 千円	3,591 千円	4,080 千円																						
12	南会津病院	◇透析器機の増設による透析機能の強化	透析患者の利便性向上や透析患者の増に向けて、透析設備の増設を図る。	○南会津地域の維持透析の充実を図るため、22 年 3 月末までに 12 台から 19 台とした。 【実施状況】 <table><tr><td>項目</td><td>H23</td><td>H22</td><td>H21</td></tr><tr><td>実患者数</td><td>40 人</td><td>38 人</td><td>32 人</td></tr></table>	項目	H23	H22	H21	実患者数	40 人	38 人	32 人	3												
項目	H23	H22	H21																						
実患者数	40 人	38 人	32 人																						
13		◇健康診断・人間ドック事業の充実	地域の要望に対応するため、平成 20 年度より開始した人間ドックの受診枠を拡大して充実を図る。	○受診者が減少する冬場に割引キャンペーンを実施するなど、受診者確保に努めた。 【実施状況】 <table><tr><td>項目</td><td>H23</td><td>H22</td><td>H21</td></tr><tr><td>健康診断実施人数</td><td>780 人</td><td>677 人</td><td>687 人</td></tr><tr><td>人間ドック実施人数</td><td>181 人</td><td>122 人</td><td>101 人</td></tr><tr><td>医療相談収益</td><td>18,089 千円</td><td>13,913 千円</td><td>12,435 千円</td></tr></table>	項目	H23	H22	H21	健康診断実施人数	780 人	677 人	687 人	人間ドック実施人数	181 人	122 人	101 人	医療相談収益	18,089 千円	13,913 千円	12,435 千円	5				
項目	H23	H22	H21																						
健康診断実施人数	780 人	677 人	687 人																						
人間ドック実施人数	181 人	122 人	101 人																						
医療相談収益	18,089 千円	13,913 千円	12,435 千円																						
14	大野病院	◇内科医師の確保による健康診断事業の充実	特定検診・特定保健指導や地域のニーズに対応できる健康診断事業の実施・充実に努める。	○休診中のため未実施 【実施状況】 <table><tr><td>項目</td><td>H23</td><td>H22</td><td>H21</td></tr><tr><td>健康診断実施人数</td><td>－</td><td>－</td><td>1,315 人</td></tr><tr><td>人間ドック実施人数</td><td>－</td><td>実施していない</td><td>実施していない</td></tr><tr><td>医療相談収益</td><td>－</td><td>6,517 千円</td><td>9,902 千円</td></tr></table>	項目	H23	H22	H21	健康診断実施人数	－	－	1,315 人	人間ドック実施人数	－	実施していない	実施していない	医療相談収益	－	6,517 千円	9,902 千円	－				
項目	H23	H22	H21																						
健康診断実施人数	－	－	1,315 人																						
人間ドック実施人数	－	実施していない	実施していない																						
医療相談収益	－	6,517 千円	9,902 千円																						

□目標2：患者サービスの向上(各病院の取組状況)

番号	取組機関	アクションプラン	取組内容	平成２３年度取組状況	取組評価																						
15	共通取組	◇患者アンケート調査や接遇向上委員会による接遇の向上	患者アンケート調査やご意見箱の設置などにより、患者さんのニーズや意見を把握できる体制を整えるとともに、定期的に接遇向上委員会を開催し、接遇技術の向上を図るための研修会やロールプレイ等の学習会を企画するなど、患者さんの立場に立った接遇サービスの向上を図る。	<div>□各病院の取組状況</div> <table><tr><th>病院名</th><th>取組状況</th></tr><tr><td>矢吹病院</td><td>○患者サービスの向上を図るため、外来・病棟に投書箱を設置するとともに、投書のあった内容については検討し、病院運営へのフィードバックに努めた。また、接遇向上委員会や研修会を開催するなど、職員の接遇向上に努めた。 ○クレーム対応に関する接遇研修会を11月に実施したが、業務の都合により、参加率は18%と低調であったことから、引き続き、接遇の重要性について、職員に対する周知を図り、参加者の増加に努めていく。</td></tr><tr><td>喜多方病院</td><td>○平成23年9月28日に外部講師を招き接遇セミナーを開催するとともに、地元医療機関にも参加を呼びかけた結果、6人が参加した。</td></tr><tr><td>会津総合病院</td><td>○来院者からの苦情や要望等を受け付けるため、院内各所に「窓」という投書箱を設置するとともに、投書があったものに対しては院長名での回答を院内掲示版に掲示した。 ○平成24年2月から3月にかけて、入院患者さんへの退院時アンケートを実施したところ、職員の接遇については概ね高い評価が多かったものの、病院の環境（室温が高いなど）や食事面（味付け、量の点）については不満の声が寄せられた。</td></tr><tr><td>宮下病院</td><td>○無料送迎バスの運行など、外来患者さんの利便性の向上を図った。 ○接遇サービスの向上を図るため、接遇研修を実施した。<table><tr><th>研修名</th><th>実施回数</th></tr><tr><td>転入者オリエンテーション（病院職員としての接遇、職場のエチケット）</td><td>2回</td></tr><tr><td>接遇研修Ⅰ（接遇の心構え、電話対応マナー）</td><td>2回</td></tr><tr><td>接遇研修Ⅱ（外部講師による講話）</td><td>1回</td></tr></table></td></tr><tr><td>南会津病院</td><td>○患者満足度調査については、東日本大震災や患者数の増加等により実施できなかったものの、新患者数が増加し定期通院患者が定着している状況から、患者の満足度は維持（H22 患者満足度調査結果：87.4%）できているものと考えられる。</td></tr><tr><td>大野病院</td><td>－</td></tr></table>	病院名	取組状況	矢吹病院	○患者サービスの向上を図るため、外来・病棟に投書箱を設置するとともに、投書のあった内容については検討し、病院運営へのフィードバックに努めた。また、接遇向上委員会や研修会を開催するなど、職員の接遇向上に努めた。 ○クレーム対応に関する接遇研修会を11月に実施したが、業務の都合により、参加率は18%と低調であったことから、引き続き、接遇の重要性について、職員に対する周知を図り、参加者の増加に努めていく。	喜多方病院	○平成23年9月28日に外部講師を招き接遇セミナーを開催するとともに、地元医療機関にも参加を呼びかけた結果、6人が参加した。	会津総合病院	○来院者からの苦情や要望等を受け付けるため、院内各所に「窓」という投書箱を設置するとともに、投書があったものに対しては院長名での回答を院内掲示版に掲示した。 ○平成24年2月から3月にかけて、入院患者さんへの退院時アンケートを実施したところ、職員の接遇については概ね高い評価が多かったものの、病院の環境（室温が高いなど）や食事面（味付け、量の点）については不満の声が寄せられた。	宮下病院	○無料送迎バスの運行など、外来患者さんの利便性の向上を図った。 ○接遇サービスの向上を図るため、接遇研修を実施した。 <table><tr><th>研修名</th><th>実施回数</th></tr><tr><td>転入者オリエンテーション（病院職員としての接遇、職場のエチケット）</td><td>2回</td></tr><tr><td>接遇研修Ⅰ（接遇の心構え、電話対応マナー）</td><td>2回</td></tr><tr><td>接遇研修Ⅱ（外部講師による講話）</td><td>1回</td></tr></table>	研修名	実施回数	転入者オリエンテーション（病院職員としての接遇、職場のエチケット）	2回	接遇研修Ⅰ（接遇の心構え、電話対応マナー）	2回	接遇研修Ⅱ（外部講師による講話）	1回	南会津病院	○患者満足度調査については、東日本大震災や患者数の増加等により実施できなかったものの、新患者数が増加し定期通院患者が定着している状況から、患者の満足度は維持（H22 患者満足度調査結果：87.4%）できているものと考えられる。	大野病院	－	3
病院名	取組状況																										
矢吹病院	○患者サービスの向上を図るため、外来・病棟に投書箱を設置するとともに、投書のあった内容については検討し、病院運営へのフィードバックに努めた。また、接遇向上委員会や研修会を開催するなど、職員の接遇向上に努めた。 ○クレーム対応に関する接遇研修会を11月に実施したが、業務の都合により、参加率は18%と低調であったことから、引き続き、接遇の重要性について、職員に対する周知を図り、参加者の増加に努めていく。																										
喜多方病院	○平成23年9月28日に外部講師を招き接遇セミナーを開催するとともに、地元医療機関にも参加を呼びかけた結果、6人が参加した。																										
会津総合病院	○来院者からの苦情や要望等を受け付けるため、院内各所に「窓」という投書箱を設置するとともに、投書があったものに対しては院長名での回答を院内掲示版に掲示した。 ○平成24年2月から3月にかけて、入院患者さんへの退院時アンケートを実施したところ、職員の接遇については概ね高い評価が多かったものの、病院の環境（室温が高いなど）や食事面（味付け、量の点）については不満の声が寄せられた。																										
宮下病院	○無料送迎バスの運行など、外来患者さんの利便性の向上を図った。 ○接遇サービスの向上を図るため、接遇研修を実施した。 <table><tr><th>研修名</th><th>実施回数</th></tr><tr><td>転入者オリエンテーション（病院職員としての接遇、職場のエチケット）</td><td>2回</td></tr><tr><td>接遇研修Ⅰ（接遇の心構え、電話対応マナー）</td><td>2回</td></tr><tr><td>接遇研修Ⅱ（外部講師による講話）</td><td>1回</td></tr></table>	研修名	実施回数	転入者オリエンテーション（病院職員としての接遇、職場のエチケット）	2回	接遇研修Ⅰ（接遇の心構え、電話対応マナー）	2回	接遇研修Ⅱ（外部講師による講話）	1回																		
研修名	実施回数																										
転入者オリエンテーション（病院職員としての接遇、職場のエチケット）	2回																										
接遇研修Ⅰ（接遇の心構え、電話対応マナー）	2回																										
接遇研修Ⅱ（外部講師による講話）	1回																										
南会津病院	○患者満足度調査については、東日本大震災や患者数の増加等により実施できなかったものの、新患者数が増加し定期通院患者が定着している状況から、患者の満足度は維持（H22 患者満足度調査結果：87.4%）できているものと考えられる。																										
大野病院	－																										
16	共通取組	◇外来待ち時間の短縮	外来予約システムの見直しを行うことで、予約診療の充実・拡充を図るとともに、外来待ち時間の短縮を推進し、患者さんが満足できる医療の提供に努める。	<div>□各病院の取組状況</div> <table><tr><th>病院名</th><th>取組状況</th></tr><tr><td>矢吹病院</td><td>○午後の再診の予約については、ほぼ定着してきた。今後は午前の診察についても予約制を導入し、患者サービスの更なる向上を図っていく。</td></tr><tr><td>喜多方病院</td><td>○予約時間、診察順番の目安を表示するなど、待ち時間の改善に努めた。</td></tr><tr><td>会津総合病院</td><td>○平成21年3月からオーダーリングシステムを導入したことにより、待ち時間の短縮及び伝票搬送負担の軽減など患者サービスの向上並びに受付・会計業務の効率化につながった。</td></tr><tr><td>宮下病院</td><td>○予約診察（内科、外科）を実施することで、待ち時間の短縮につながった。 ○院内イベントや院内健康教室を開催し、待ち時間の苦痛軽減に努めた。</td></tr><tr><td>南会津病院</td><td>○外来待合室に隣接するふれあいギャラリーでの各種展示や、会計窓口のある中央フロアーでの季節に応じた飾り付けなどを実施し、待ち時間の苦痛軽減に配慮した。</td></tr><tr><td>大野病院</td><td>－</td></tr></table>	病院名	取組状況	矢吹病院	○午後の再診の予約については、ほぼ定着してきた。今後は午前の診察についても予約制を導入し、患者サービスの更なる向上を図っていく。	喜多方病院	○予約時間、診察順番の目安を表示するなど、待ち時間の改善に努めた。	会津総合病院	○平成21年3月からオーダーリングシステムを導入したことにより、待ち時間の短縮及び伝票搬送負担の軽減など患者サービスの向上並びに受付・会計業務の効率化につながった。	宮下病院	○予約診察（内科、外科）を実施することで、待ち時間の短縮につながった。 ○院内イベントや院内健康教室を開催し、待ち時間の苦痛軽減に努めた。	南会津病院	○外来待合室に隣接するふれあいギャラリーでの各種展示や、会計窓口のある中央フロアーでの季節に応じた飾り付けなどを実施し、待ち時間の苦痛軽減に配慮した。	大野病院	－	3								
病院名	取組状況																										
矢吹病院	○午後の再診の予約については、ほぼ定着してきた。今後は午前の診察についても予約制を導入し、患者サービスの更なる向上を図っていく。																										
喜多方病院	○予約時間、診察順番の目安を表示するなど、待ち時間の改善に努めた。																										
会津総合病院	○平成21年3月からオーダーリングシステムを導入したことにより、待ち時間の短縮及び伝票搬送負担の軽減など患者サービスの向上並びに受付・会計業務の効率化につながった。																										
宮下病院	○予約診察（内科、外科）を実施することで、待ち時間の短縮につながった。 ○院内イベントや院内健康教室を開催し、待ち時間の苦痛軽減に努めた。																										
南会津病院	○外来待合室に隣接するふれあいギャラリーでの各種展示や、会計窓口のある中央フロアーでの季節に応じた飾り付けなどを実施し、待ち時間の苦痛軽減に配慮した。																										
大野病院	－																										

17	喜多方病院	◇送迎バスの運行検討	会津医療センターへの移行準備や患者サービスの充実を図るため、送迎バスの運行を検討する。	○会津医療センター開院後の患者確保の観点から、送迎バスの運行に向けて委員会を設置し、路線や運行計画、患者アンケートの内容等について具体の検討を行ったものの、開院後の運営主体である医科大学との協議の結果、送迎バスは運行しないこととされたため、平成 23 年度は具体的な検討を行っていない。	—																																								
18	宮下病院	◇無料送迎バスの効率的な運行	外来患者の利便性の向上を図るため、無料送迎バスの効率的な運行に努める。	○外来患者の利便性の向上を図るため、無料送迎バスを運行している。今後とも地域からの要望や利用状況を踏まえ、行き先や運行時刻の見直しを行うなど、効率的な運行に努めていく。 【運行状況】 <table><tr><td colspan="4">・三島町間方・浅岐・大谷方面</td></tr><tr><td colspan="4">・三島町大石田・西方・沼田・川井・大登方面</td></tr><tr><td colspan="4">・三島町滝谷・桧原方面</td></tr><tr><td colspan="4">・金山町川口・三島町早戸方面</td></tr><tr><td colspan="4">・金山町大栗山・沼沢・川口・三島町早戸方面</td></tr><tr><td colspan="4">・柳津町支所地区・麻生・三島町滝谷・桧原方面</td></tr><tr><td colspan="4">・柳津町小野川・麻生・三島町滝谷・桧原方面</td></tr></table> <table><tr><th>項目</th><th>H23</th><th>H22</th><th>H21</th></tr><tr><td>迎え乗車数</td><td>2,031 人（1 日平均 8.3 人）</td><td>2,050 人（1 日平均 8.4 人）</td><td>2,188 人（1 日平均 9.0 人）</td></tr><tr><td>送り乗車数</td><td>1,899 人（1 日平均 7.8 人）</td><td>1,986 人（1 日平均 8.1 人）</td><td>2,051 人（1 日平均 8.5 人）</td></tr></table>	・三島町間方・浅岐・大谷方面				・三島町大石田・西方・沼田・川井・大登方面				・三島町滝谷・桧原方面				・金山町川口・三島町早戸方面				・金山町大栗山・沼沢・川口・三島町早戸方面				・柳津町支所地区・麻生・三島町滝谷・桧原方面				・柳津町小野川・麻生・三島町滝谷・桧原方面				項目	H23	H22	H21	迎え乗車数	2,031 人（1 日平均 8.3 人）	2,050 人（1 日平均 8.4 人）	2,188 人（1 日平均 9.0 人）	送り乗車数	1,899 人（1 日平均 7.8 人）	1,986 人（1 日平均 8.1 人）	2,051 人（1 日平均 8.5 人）	4
・三島町間方・浅岐・大谷方面																																													
・三島町大石田・西方・沼田・川井・大登方面																																													
・三島町滝谷・桧原方面																																													
・金山町川口・三島町早戸方面																																													
・金山町大栗山・沼沢・川口・三島町早戸方面																																													
・柳津町支所地区・麻生・三島町滝谷・桧原方面																																													
・柳津町小野川・麻生・三島町滝谷・桧原方面																																													
項目	H23	H22	H21																																										
迎え乗車数	2,031 人（1 日平均 8.3 人）	2,050 人（1 日平均 8.4 人）	2,188 人（1 日平均 9.0 人）																																										
送り乗車数	1,899 人（1 日平均 7.8 人）	1,986 人（1 日平均 8.1 人）	2,051 人（1 日平均 8.5 人）																																										
19		◇院内イベントの開催	入院患者や当院への来院者が快適で安らぎのある時を過ごしていただけるよう、四季折々の飾り付けを行うとともに、院内コンサートを開催するなど、「癒しのある空間」の提供に努める。	○院内イベント等の実施状況 <table><tr><td>5 月 12 日</td><td>◇看護の日イベント（参加者約 73 人）</td></tr><tr><td>7 月</td><td>◇七夕飾り</td></tr><tr><td>7 月 7 日</td><td>◇七夕コンサート（参加者約 100 人）</td></tr><tr><td>9 月</td><td>◇お月見飾り</td></tr><tr><td>12 月 13 日</td><td>◇クリスマスコンサート（参加者約 95 人）</td></tr><tr><td>12 月</td><td>◇クリスマス飾り</td></tr><tr><td>1 月</td><td>◇正月飾り</td></tr><tr><td>3 月</td><td>◇雛飾り</td></tr><tr><td>3 月 3 日</td><td>◇ひな祭りコンサート</td></tr></table>	5 月 12 日	◇看護の日イベント（参加者約 73 人）	7 月	◇七夕飾り	7 月 7 日	◇七夕コンサート（参加者約 100 人）	9 月	◇お月見飾り	12 月 13 日	◇クリスマスコンサート（参加者約 95 人）	12 月	◇クリスマス飾り	1 月	◇正月飾り	3 月	◇雛飾り	3 月 3 日	◇ひな祭りコンサート	5																						
5 月 12 日	◇看護の日イベント（参加者約 73 人）																																												
7 月	◇七夕飾り																																												
7 月 7 日	◇七夕コンサート（参加者約 100 人）																																												
9 月	◇お月見飾り																																												
12 月 13 日	◇クリスマスコンサート（参加者約 95 人）																																												
12 月	◇クリスマス飾り																																												
1 月	◇正月飾り																																												
3 月	◇雛飾り																																												
3 月 3 日	◇ひな祭りコンサート																																												

基本方針２：収益確保と費用削減による健全な病院経営（健全な病院経営の視点）

【改革プラン方針】		平成 23 年度取組状況及び自己評価																														
目標 1	収益の確保	目標値達成状況評価		取組状況評価																												
		【４】	目標値を達成できた	【４】	積極的に行われている																											
【医療機能の充実】		○平成 23 年度の取組状況																														
医師確保による医療機能の充実を図るとともに、適切な施設基準の取得や診療報酬請求漏れの防止、査定率減少に取り組む。		1 医療機能の充実																														
患者数の増加を図るため、健康診断の充実や特定保健指導の取組を通じて、生活習慣病対策など予防医療に力を入れるとともに、透析などの特殊外来や訪問診療・訪問看護の充実に取り組む。		◆ 各病院の診療報酬査定委員会では、査定内容の分析を行うとともに、適正に請求できるケースについては再審査請求を行うなど、査定率の減少に努めた。																														
		◆ 経営改善に向けた対応策を検討するため、平成 22 年度に引き続き、各病院の医事担当者による「収益確保プロジェクト」を開催し、診療報酬制度や医事業務遂行における課題などについて、お互いに知恵を出し合いながら収益確保につながる対策を検討した。																														
		<table><tr><td>回数</td><td>実施日</td><td>内容</td></tr><tr><td>第 1 回</td><td>平成 24 年 2 月 29 日</td><td>◇平成 24 年度診療報酬改定について ◇病院経営の状況について</td></tr></table>				回数	実施日	内容	第 1 回	平成 24 年 2 月 29 日	◇平成 24 年度診療報酬改定について ◇病院経営の状況について																					
回数	実施日	内容																														
第 1 回	平成 24 年 2 月 29 日	◇平成 24 年度診療報酬改定について ◇病院経営の状況について																														
		◆ 矢吹病院では、平成 22 年度に引き続き、外来患者に対する精神科作業療法を実施するなど、患者さんが生き生きとした生活が送れるよう指導・援助・支援を行った。																														
		◆ 会津総合病院では、平成 21 年 7 月から D P C 請求を開始し、在院日数の適正管理、クリニカルパスの作成拡大、術前検査等の見直し、注射等の手術中実施へのシフト、基準作成による抗生剤使用量の抑制、N S T 活動の推進による薬剤等使用量の抑制、抗生剤・高額薬剤・造影剤を中心としたジェネリック化の推進を行ってきた。その結果、出来高算定ベースと比較して 1.3 億円の増収となった。																														
		◆ 宮下病院では、地域の保健・医療・福祉関係機関との連携を行いながら、訪問診療・訪問看護の充実を図り、在宅医療への支援を行った。																														
		【訪問看護・訪問診療実施状況】																														
		<table><tr><td rowspan="2">項目</td><td colspan="2">H23</td><td colspan="2">H22</td><td colspan="2">H21</td></tr><tr><td>対象者数</td><td>件数</td><td>対象者数</td><td>件数</td><td>対象者数</td><td>件数</td></tr><tr><td>訪問診療</td><td>22 人</td><td>131 件</td><td>9 人</td><td>57 件</td><td>10 人</td><td>73 件</td></tr><tr><td>訪問看護</td><td>7 人</td><td>46 件</td><td>2 人</td><td>42 件</td><td>4 人</td><td>70 件</td></tr></table>				項目	H23		H22		H21		対象者数	件数	対象者数	件数	対象者数	件数	訪問診療	22 人	131 件	9 人	57 件	10 人	73 件	訪問看護	7 人	46 件	2 人	42 件	4 人	70 件
項目	H23		H22		H21																											
	対象者数	件数	対象者数	件数	対象者数	件数																										
訪問診療	22 人	131 件	9 人	57 件	10 人	73 件																										
訪問看護	7 人	46 件	2 人	42 件	4 人	70 件																										
【先進医療機器の導入】		◆ 南会津病院では、透析器械を 19 台に増設し、透析患者の利便性向上に努めた。																														
質の高い医療の提供や収益確保を図るため、計画的に先進医療機器の導入を行う。																																

[外部意見の導入]

多様な取組みにより経営基盤の確立を図るため、病院経営の専門家など外部の方の意見を積極的に取り入れる。

2 外部意見の導入

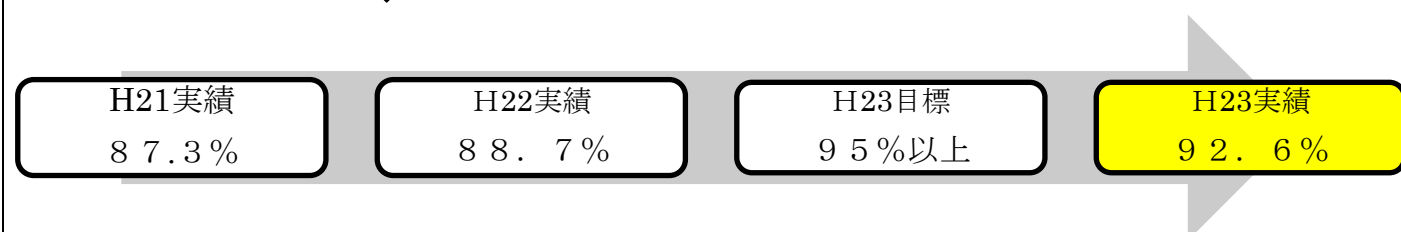
◆ 平成 21 年度に策定した改革プランの取組状況及び自己評価への意見・助言をいただくため、外部有識者で構成する「県立病院事業経営評価委員会」を平成 23 年 8 月 3 日（第 1 回）及び平成 24 年 3 月 23 日（第 2 回）に開催し、それぞれ、概ね妥当であるとの評価をいただいた。

回数	開催日	主な助言内容
第1回	8月3日	◇チーム医療の推進や高度・専門医療への特化など、県立病院の技術力向上と魅力づくりについて、より一層取り組む必要がある。
		◇「出前講座」や「医療相談」の充実、開業医との連携強化など、患者さんと地域に頼られる病院づくりに取り組む必要がある。
		◇財務体質・経営データ分析のスピードアップなど経営企画力を強化する必要がある。
		◇国保診療所等の診療支援としての画像伝送システムへの構築など、へき地医療支援のための先行投資に取り組む必要がある。
第2回	3月23日	◇手術件数の増加やD P Cへの対応などによる収益確保を引き続き行う必要がある。
		◇地域医療機関との連携や役割分担の下、地域の医療ニーズに応じた診療体制の構築に努める必要がある。
		◇内部人材活用による研修や自己評価による意識改革を引き続き進める必要がある。
		◇緩和ケアなどについて、地域医療機関との双方向のコミュニケーションを図る必要がある。

○共通目標指標

經常收支比率

* (經常収益 (医業収益+医業外収益)) / 經常費用 (医業費用+医業外費用) * 100



目標 2	未収金の発生防止と早期回収の強化	目標値達成状況		取組状況																																																																																
		【 5 】	目標値を上回った	【 4 】	積極的に行われている																																																																															
<div>【医療相談の実施】</div> <div>新たな未収金発生の抑制を図るため、高額療養費制度などの周知徹底や医療費に関する面談を行うなど、全職員の共通認識の下で医療相談を積極的に実施する。</div> <div>【未収金マニュアルの活用】</div> <div>喫緊の課題である未収金残高の削減に向けて、県立病院医業未収金マニュアルを活用し、新たな未収金発生を防止するとともに、現存する未収金の早期回収に努める。</div> <div>【効果的な未収金対策の推進】</div> <div>未収金回収については、電話や文書での督促、自宅訪問などを継続的な実施により、早期回収に向けた効果的な対策を推進する。</div>		○平成 23 年度の取組状況																																																																																		
		1 医療相談の実施																																																																																		
		◆ 入院患者さんについては、限度額適用認定証の交付手続きを行うことで窓口負担が軽減されることから、制度の周知、活用に努めるとともに、医療費に関する個別の医療相談を継続して行った。																																																																																		
		2 未収金マニュアルの活用																																																																																		
		◆ 「県立病院事業未収金マニュアル」及び「福島県立病院医業未収金支払督促事務取扱指針」に基づき、未収金回収については電話や文書での督促、自宅訪問による早期徴収を実施した。																																																																																		
		【過年度医業未収金残高状況】（単位：人・件・千円）																																																																																		
		<table><tr><th rowspan="2">病院名</th><th colspan="3">H23 末</th><th colspan="2">H22 末</th><th colspan="2">H21 末</th></tr><tr><th>実人数</th><th>件数</th><th>金額</th><th>件数</th><th>金額</th><th>件数</th><th>金額</th></tr><tr><td>矢吹病院</td><td>15</td><td>73</td><td>1, 355</td><td>49</td><td>1, 964</td><td>48</td><td>3, 223</td></tr><tr><td>喜多方病院</td><td>12</td><td>14</td><td>162</td><td>25</td><td>795</td><td>25</td><td>770</td></tr><tr><td>会津総合病院</td><td>818</td><td>1, 218</td><td>46, 003</td><td>1, 402</td><td>52, 041</td><td>1, 530</td><td>53, 822</td></tr><tr><td>宮下病院</td><td>9</td><td>30</td><td>1, 010</td><td>17</td><td>289</td><td>19</td><td>339</td></tr><tr><td>南会津病院</td><td>139</td><td>593</td><td>12, 108</td><td>536</td><td>9, 863</td><td>455</td><td>8, 896</td></tr><tr><td>大野病院</td><td>－</td><td>－</td><td>12, 259</td><td>－</td><td>9, 995</td><td>423</td><td>11, 347</td></tr><tr><td>病院局</td><td>31</td><td>43</td><td>6, 495</td><td>50</td><td>7, 554</td><td>74</td><td>9, 757</td></tr><tr><td>合 計</td><td>1, 024</td><td>1, 971</td><td>79, 392</td><td>2, 079</td><td>82, 499</td><td>2, 574</td><td>88, 153</td></tr></table>				病院名	H23 末			H22 末		H21 末		実人数	件数	金額	件数	金額	件数	金額	矢吹病院	15	73	1, 355	49	1, 964	48	3, 223	喜多方病院	12	14	162	25	795	25	770	会津総合病院	818	1, 218	46, 003	1, 402	52, 041	1, 530	53, 822	宮下病院	9	30	1, 010	17	289	19	339	南会津病院	139	593	12, 108	536	9, 863	455	8, 896	大野病院	－	－	12, 259	－	9, 995	423	11, 347	病院局	31	43	6, 495	50	7, 554	74	9, 757	合 計	1, 024	1, 971	79, 392	2, 079	82, 499	2, 574	88, 153
		病院名	H23 末				H22 末		H21 末																																																																											
			実人数	件数	金額	件数	金額	件数	金額																																																																											
		矢吹病院	15	73	1, 355	49	1, 964	48	3, 223																																																																											
喜多方病院	12	14	162	25	795	25	770																																																																													
会津総合病院	818	1, 218	46, 003	1, 402	52, 041	1, 530	53, 822																																																																													
宮下病院	9	30	1, 010	17	289	19	339																																																																													
南会津病院	139	593	12, 108	536	9, 863	455	8, 896																																																																													
大野病院	－	－	12, 259	－	9, 995	423	11, 347																																																																													
病院局	31	43	6, 495	50	7, 554	74	9, 757																																																																													
合 計	1, 024	1, 971	79, 392	2, 079	82, 499	2, 574	88, 153																																																																													
※病院局は廃止病院分																																																																																				
3 効果的な未収金対策の推進																																																																																				
◆ 未収金担当者等会議を平成 24 年 2 月 20 日に開催し、各病院の取組状況を報告するとともに、未収金の効果的な徴収体制等について意見交換を行った。																																																																																				
◆ 平成 23 年度は、時効となった事例もあり、支払督促の申立及び調停に至ったものはなかった。																																																																																				
○共通目標指標																																																																																				
<div>過年度未収金残高</div> <div><div>H21実績 8 8 百万円</div><div>H22実績 8 2 百万円</div><div>H23目標 8 8 百万円</div><div>H23実績 7 9 百万円</div></div>																																																																																				

目標 3	費用の見直し	目標値達成状況		取組状況																								
		【 2 】	目標値を下回った	【 4 】	積極的に行われている																							
<p>[人件費の抑制]</p> <p>更なる総人件費の抑制を図るため、給与費の抑制や、病棟・病床数の見直し、業務の効率化による職員配置の適正化、委託の推進などに取り組む。</p> <p>[診療材料・医薬品の費用削減]</p> <p>更なる材料費の削減を図るため、平成 20 年度に導入した新型 S P Dにより、医薬品・診療材料費の共同購入や適正管理を徹底する。</p> <p>[日常的な経費節減]</p> <p>日常的な経費の削減を図るため、光熱水費の更なる節減や価格変動に応じた契約単価の見直しによる燃料費の削減、委託業務における業務内容の見直しなどを行う。</p>		○平成 23 年度の取組状況																										
		1 人件費の抑制																										
		◆ 患者数の動向や病棟再編の実施状況等に応じた看護職員、医療技術職員及び事務職員等の配置見直しを行うなど定員管理の適正化に努め、総人件費の抑制を図った。																										
		<table><tr><td colspan="2">項目</td><td>H23</td><td>H22</td><td>H21</td></tr><tr><td colspan="2">給与費</td><td>7, 350, 206 千円</td><td>7, 746, 207 千円</td><td>8, 344, 629 千円</td></tr><tr><td></td><td>うち退職手当除く</td><td>6, 578, 029 千円</td><td>6, 981, 109 千円</td><td>7, 193, 418 千円</td></tr><tr><td colspan="2">正規職員数（3/1）</td><td>697 人</td><td>735 人</td><td>775 人</td></tr></table>				項目		H23	H22	H21	給与費		7, 350, 206 千円	7, 746, 207 千円	8, 344, 629 千円		うち退職手当除く	6, 578, 029 千円	6, 981, 109 千円	7, 193, 418 千円	正規職員数（3/1）		697 人	735 人	775 人			
		項目		H23	H22	H21																						
		給与費		7, 350, 206 千円	7, 746, 207 千円	8, 344, 629 千円																						
			うち退職手当除く	6, 578, 029 千円	6, 981, 109 千円	7, 193, 418 千円																						
		正規職員数（3/1）		697 人	735 人	775 人																						
		※本局職員含む、準備室教員を除く。																										
		2 診療材料・医薬品の費用削減																										
◆ 医薬品・診療材料の購入費は、大きな比重を占めていることから、S P D導入（医薬品・診療材料の価格交渉や一括発注、診療材料の供給・搬送、在庫管理を委託）により、適正な在庫管理や採用品目の見直しに努めるなど、業務の効率化及び経費の削減に取り組んだ。																												
<table><tr><td colspan="2">項目</td><td>H23</td><td>H22</td><td>H21</td></tr><tr><td colspan="2">材料費</td><td>1, 611, 545 千円</td><td>1, 606, 525 千円</td><td>1, 498, 914 千円</td></tr><tr><td></td><td>うち薬品費</td><td>935, 989 千円</td><td>924, 079 千円</td><td>844, 377 千円</td></tr><tr><td></td><td>うち診療材料費</td><td>586, 813 千円</td><td>575, 723 千円</td><td>547, 753 千円</td></tr><tr><td colspan="2">S P D効果</td><td>26, 251 千円</td><td>10, 250 千円</td><td>6, 971 千円</td></tr></table>				項目		H23	H22	H21	材料費		1, 611, 545 千円	1, 606, 525 千円	1, 498, 914 千円		うち薬品費	935, 989 千円	924, 079 千円	844, 377 千円		うち診療材料費	586, 813 千円	575, 723 千円	547, 753 千円	S P D効果		26, 251 千円	10, 250 千円	6, 971 千円
項目		H23	H22	H21																								
材料費		1, 611, 545 千円	1, 606, 525 千円	1, 498, 914 千円																								
	うち薬品費	935, 989 千円	924, 079 千円	844, 377 千円																								
	うち診療材料費	586, 813 千円	575, 723 千円	547, 753 千円																								
S P D効果		26, 251 千円	10, 250 千円	6, 971 千円																								
＊S P D効果＝購入額削減額－委託額																												
3 日常的な経費削減																												
◆ 委託料については、医療機器の保守料など仕様の見直しを行い委託額の縮減に取り組んだ。																												
<table><tr><td colspan="2">項目</td><td>H23</td><td>H22</td><td>H21</td></tr><tr><td colspan="2">経費</td><td>1, 884, 796 千円</td><td>1, 915, 709 千円</td><td>1, 689, 261 千円</td></tr><tr><td></td><td>うち消耗品費</td><td>48, 297 千円</td><td>51, 404 千円</td><td>47, 823 千円</td></tr><tr><td></td><td>うち光熱水費</td><td>120, 846 千円</td><td>158, 701 千円</td><td>157, 155 千円</td></tr><tr><td></td><td>うち委託料</td><td>814, 509 千円</td><td>965, 734 千円</td><td>908, 079 千円</td></tr></table>				項目		H23	H22	H21	経費		1, 884, 796 千円	1, 915, 709 千円	1, 689, 261 千円		うち消耗品費	48, 297 千円	51, 404 千円	47, 823 千円		うち光熱水費	120, 846 千円	158, 701 千円	157, 155 千円		うち委託料	814, 509 千円	965, 734 千円	908, 079 千円
項目		H23	H22	H21																								
経費		1, 884, 796 千円	1, 915, 709 千円	1, 689, 261 千円																								
	うち消耗品費	48, 297 千円	51, 404 千円	47, 823 千円																								
	うち光熱水費	120, 846 千円	158, 701 千円	157, 155 千円																								
	うち委託料	814, 509 千円	965, 734 千円	908, 079 千円																								
		○共通目標指標																										
		<div>職員給与比率（一般病院）</div> <div>＊職員給与費／医業収益＊１００</div>																										
		<div><div>H21実績 １０６．９％</div><div>H22実績 ９８．４％</div><div>H23目標 ８７％以下</div><div>H23実績 ９２．１％</div></div>																										

□目標１：収益の確保（各病院の取組状況）

番号	取組機関	アクションプラン	取組内容	進捗状況	取組評価																					
1	共通取組	◇常勤医師の確保	関係機関等と連携しながら、常勤医師を確保することで、安定的な診療体制の確立を図る。	<div>□常勤医師（平成 24 年 3 月 1 日現在）</div> <table><tr><th>病院名</th><th>医師数</th><th>取組状況</th></tr><tr><td>矢吹病院</td><td>6 人</td><td>○ 6 月末に 2 人退職したものの、8 月から 1 人増え、常勤医師は 6 人になった。</td></tr><tr><td>喜多方病院</td><td>4 人</td><td>○平成 21 年度から、内科医 1 人が非常勤となり、常勤医師は 4 人になった。</td></tr><tr><td>会津総合病院</td><td>31 人</td><td>○内科 17、外科 3、整形外科 3、神経精神科 1、皮膚科 1、耳鼻科 2、麻酔科 1、婦人科 1、病理 1、歯科 1、（研修医 1）※準備室教員含む、研修医含めない。</td></tr><tr><td>宮下病院</td><td>6 人</td><td>○内科 4、外科 2</td></tr><tr><td>南会津病院</td><td>14 人</td><td>○関係機関に積極的に働きかけを行い、23 年 4 月から内科医 1 人（9 月に会津総合病院へ転勤）、6 月から小児科医が 2 人増え、常勤医師は 14 人になった。</td></tr><tr><td>大野病院</td><td>1 人</td><td>休診中</td></tr></table>	病院名	医師数	取組状況	矢吹病院	6 人	○ 6 月末に 2 人退職したものの、8 月から 1 人増え、常勤医師は 6 人になった。	喜多方病院	4 人	○平成 21 年度から、内科医 1 人が非常勤となり、常勤医師は 4 人になった。	会津総合病院	31 人	○内科 17、外科 3、整形外科 3、神経精神科 1、皮膚科 1、耳鼻科 2、麻酔科 1、婦人科 1、病理 1、歯科 1、（研修医 1）※準備室教員含む、研修医含めない。	宮下病院	6 人	○内科 4、外科 2	南会津病院	14 人	○関係機関に積極的に働きかけを行い、23 年 4 月から内科医 1 人（9 月に会津総合病院へ転勤）、6 月から小児科医が 2 人増え、常勤医師は 14 人になった。	大野病院	1 人	休診中	4
病院名	医師数	取組状況																								
矢吹病院	6 人	○ 6 月末に 2 人退職したものの、8 月から 1 人増え、常勤医師は 6 人になった。																								
喜多方病院	4 人	○平成 21 年度から、内科医 1 人が非常勤となり、常勤医師は 4 人になった。																								
会津総合病院	31 人	○内科 17、外科 3、整形外科 3、神経精神科 1、皮膚科 1、耳鼻科 2、麻酔科 1、婦人科 1、病理 1、歯科 1、（研修医 1）※準備室教員含む、研修医含めない。																								
宮下病院	6 人	○内科 4、外科 2																								
南会津病院	14 人	○関係機関に積極的に働きかけを行い、23 年 4 月から内科医 1 人（9 月に会津総合病院へ転勤）、6 月から小児科医が 2 人増え、常勤医師は 14 人になった。																								
大野病院	1 人	休診中																								
2	矢吹病院	◇看護補助加算 1 の算定	看護補助加算 1 の算定を開始し、より高い入院基本料等加算の取得により、収益増を図る。	○平成 20 年 11 月より「看護補助加算 2」から「看護補助加算 1」に上位ランクの届出を行って算定している。	5																					
3		◇外来患者に対する精神科作業療法の実施	精神科作業療法については、入院患者を対象に実施しているが、今後、外来患者のニーズを把握し、外来部門と O T 部門の連携方法等の具体策について検討する。	<div>○平成 22 年 4 月から開始した外来の精神科作業療法について、平成 23 年度も引き続き実施した。</div> <table><tr><th>項目</th><th>H23</th><th>H22</th></tr><tr><td>外来の精神科作業療法患者数</td><td>385 人</td><td>141 人</td></tr></table>	項目	H23	H22	外来の精神科作業療法患者数	385 人	141 人	4															
項目	H23	H22																								
外来の精神科作業療法患者数	385 人	141 人																								
4	会津総合病院	◇コメディカルスタッフの確保	リハビリテーションに関する施設基準への対応を図るため、コメディカルスタッフ（O T（作業療法士）・P T（理学療法士））の確保を図る。	○業務量増に伴う定員増により、平成 23 年度はME（臨床工学技士）1 人を採用した。	3																					
5		◇D P C・電子カルテ・クリニカルパスの有効活用等による入院収益の増	疾病ごとの入院収入と投下医療資源についての管理を強化し、収益増を図るため、電子カルテ機能を十分に活用するとともに、クリニカルパスの作成見直しを行う。	<div>○D P C 導入による効果（出来高算定ベースとの比較）として、平成 23 年度は約 1.3 億円の増収となった。</div> <div>○平成 23 年度の手術件数は 1,652 件であり、対前年度で 506 件の増となった。</div>	5																					
6	宮下病院	◇診療科目の充実（再掲）	診療科目の充実を図るなど、県立医科大学や会津総合病院等との連携を強化しながら、県内で高齢化率が一番高い地域の特性に的確に対応した医療を提供。	○会津総合病院の支援を受けながら、診療圏域内に不足している運動器や感覚器など、高齢者に多い疾患に対応した医療の提供に努めた。〔再掲 P 18〕	4																					
7		◇訪問診療の充実による外来患者の確保	訪問診療等の充実により、患者サービスの向上や外来患者の確保を図る。	<div>○訪問診療や訪問看護を実施や、職員が地域に出向いて行う活動（医療講演会や出前講座等）を積極的に展開するなど、外来患者数の維持・確保に努めた。</div> <table><tr><th>項目</th><th>H23</th><th>H22</th><th>H21</th></tr><tr><td>訪問診療の件数</td><td>131 件</td><td>57 件</td><td>73 件</td></tr><tr><td>外来の延患者数</td><td>17,817 人</td><td>18,439 人</td><td>19,286 人</td></tr><tr><td>外来の新患者数</td><td>1,260 人</td><td>1,287 人</td><td>1,365 人</td></tr></table>	項目	H23	H22	H21	訪問診療の件数	131 件	57 件	73 件	外来の延患者数	17,817 人	18,439 人	19,286 人	外来の新患者数	1,260 人	1,287 人	1,365 人	4					
項目	H23	H22	H21																							
訪問診療の件数	131 件	57 件	73 件																							
外来の延患者数	17,817 人	18,439 人	19,286 人																							
外来の新患者数	1,260 人	1,287 人	1,365 人																							

行動計画取組状況（基本方針２：収益確保と費用削減による健全な病院経営（健全な病院経営の視点））

8		◇無料送迎バスの効率的な運行（再掲）	外来患者の利便性向上や収益増に向けて、無料送迎バスの効率的な運行を図る。	○無料送迎バスを運行し、患者さんの通院の利便性の向上に努めた。〔再掲P16〕	4
9	南会津病院	◇D P C 病院への移行による収益の確保	D P C（包括支払制度）病院への移行に向けて、引き続きD P C 準備病院としてデータの収集等を行う。	○必ずしも急性期患者のみを対象とするわけではないという当院の性格上、当面D P C 対象病院となることは収益の面からみても不適當であると判断し、準備病院を辞退した。	—
10		◇透析器機の増設による透析機能の強化（再掲）	透析患者の利便性向上や透析患者の増に向けて、透析設備の増設を図る。	○南会津病院では、透析器械を19 台に増設し、透析患者の利便性向上に努めた。〔再掲P21〕	3
11	大野病院	◇薬剤管理指導の効率的な実施	収益の確保を図るため、薬剤管理指導を効率的に実施する。	—	—
12		◇亜急性期入院医療管理料の導入	新たな収入の確保を図るため、急性期治療を経過した患者に対し、在宅復帰支援に向けた亜急性期病床を設置する。	—	—
13	病院局	◇県立病院収益確保プロジェクトの実施	診療報酬制度改定やD P C 導入への対応、地域連携の強化による患者確保などに向けた対策を講じるため、経営改善に向けて組織されている病院経営検討会に、実務担当者レベルのメンバーを加え発展させ、定期的に部門横断的な検討を行い、具体的に取り組む。	○経営改善に向けた対応策を検討するため、平成22 年度に引き続き、各病院の医事担当者による「収益確保プロジェクト」を開催し、診療報酬制度や医事業務遂行における課題などについて、お互いに知恵を出し合いながら収益確保につながる対策を検討した。〔再掲P21〕	3
14		◇未利用財産の売却	病院事業財産を活用することにより収益確保を図るため、公舎跡地等未利用財産の売却を進める。	○未利用財産の購入希望者を募集したものの、売却には至らなかった。（平成22 年度売却実績：26,370 千円）	3
15		◇外部意見による経営評価	県立病院事業の経営改善に向けた取組状況について、有識者で構成される第三者機関である県立病院経営評価委員会の評価を受けるなど、多様な意見を取り入れながら一層の経営健全化を図る。	○平成21 年度に策定した改革プランの取組状況及び自己評価への意見・助言をいただくため、外部有識者で構成する「県立病院事業経営評価委員会」を平成23 年8 月3 日（第1 回）及び平成24 年3 月23 日（第2 回）に開催し、それぞれ、概ね妥当であるとの評価をいただいた。〔再掲P22〕	4

□目標2：未収金の発生防止と早期回収の強化（各病院の取組状況）


番号	取組機関	アクションプラン	取組内容	進捗状況	取組評価														
16	共通取組	◇未収金の発生防止と早期回収の強化	医療相談室等と連携しながら、未収金となるおそれのある患者に早期に接触し未収金の発生を防止する。 未収金については、定期的に文書による納付依頼や督促、電話や訪問による納付交渉等を行い早期回収に努める。	<div>□各病院の取組状況</div> <table><tr><th>病院名</th><th>実施状況</th></tr><tr><td>矢吹病院</td><td>○平成 22 年 1 月に未収金対策プロジェクトチームを設置し、医療相談室との連携の下、文書催告や電話催告、出張徴収等を実施した。 ○滞納者が会計窓口に来た際に、医事職員が督促を行っている。</td></tr><tr><td>喜多方病院</td><td>○医療相談専門員を配置し、公費負担制度等の活用による負担軽減など、患者さんの立場に立った納入相談を実施した。 ○過年度医業未収金の早期回収に努めた結果、未収金残高を目標値の 1 割弱まで圧縮した。</td></tr><tr><td>会津総合病院</td><td>○過年度医業未収金残高は、46,003 千円となり、対前年度で 6,037 千円の減となった。 ○事務局職員が電話督促や自宅訪問などを行い早期回収に努めた。</td></tr><tr><td>宮下病院</td><td>○過年度医業未収金残高は、1,010 千円となり、対前年度で、721 千円の増となった。</td></tr><tr><td>南会津病院</td><td>○高額な医療費が見込まれる入院患者は、医事の入院係から医療相談員に情報を早期に伝達し、高額療養費事前申請制度等の説明等を行うなど、高額未収金の発生防止に努めた。 ○県外患者が増加するゴールデンウィークや年末年始は、医療費計算・収納業務を外部委託し、受診日当日の収納に努めた。</td></tr><tr><td>大野病院</td><td>－</td></tr></table>	病院名	実施状況	矢吹病院	○平成 22 年 1 月に未収金対策プロジェクトチームを設置し、医療相談室との連携の下、文書催告や電話催告、出張徴収等を実施した。 ○滞納者が会計窓口に来た際に、医事職員が督促を行っている。	喜多方病院	○医療相談専門員を配置し、公費負担制度等の活用による負担軽減など、患者さんの立場に立った納入相談を実施した。 ○過年度医業未収金の早期回収に努めた結果、未収金残高を目標値の 1 割弱まで圧縮した。	会津総合病院	○過年度医業未収金残高は、46,003 千円となり、対前年度で 6,037 千円の減となった。 ○事務局職員が電話督促や自宅訪問などを行い早期回収に努めた。	宮下病院	○過年度医業未収金残高は、1,010 千円となり、対前年度で、721 千円の増となった。	南会津病院	○高額な医療費が見込まれる入院患者は、医事の入院係から医療相談員に情報を早期に伝達し、高額療養費事前申請制度等の説明等を行うなど、高額未収金の発生防止に努めた。 ○県外患者が増加するゴールデンウィークや年末年始は、医療費計算・収納業務を外部委託し、受診日当日の収納に努めた。	大野病院	－	4
病院名	実施状況																		
矢吹病院	○平成 22 年 1 月に未収金対策プロジェクトチームを設置し、医療相談室との連携の下、文書催告や電話催告、出張徴収等を実施した。 ○滞納者が会計窓口に来た際に、医事職員が督促を行っている。																		
喜多方病院	○医療相談専門員を配置し、公費負担制度等の活用による負担軽減など、患者さんの立場に立った納入相談を実施した。 ○過年度医業未収金の早期回収に努めた結果、未収金残高を目標値の 1 割弱まで圧縮した。																		
会津総合病院	○過年度医業未収金残高は、46,003 千円となり、対前年度で 6,037 千円の減となった。 ○事務局職員が電話督促や自宅訪問などを行い早期回収に努めた。																		
宮下病院	○過年度医業未収金残高は、1,010 千円となり、対前年度で、721 千円の増となった。																		
南会津病院	○高額な医療費が見込まれる入院患者は、医事の入院係から医療相談員に情報を早期に伝達し、高額療養費事前申請制度等の説明等を行うなど、高額未収金の発生防止に努めた。 ○県外患者が増加するゴールデンウィークや年末年始は、医療費計算・収納業務を外部委託し、受診日当日の収納に努めた。																		
大野病院	－																		
17	病院局	◇未収金担当者会議の開催	実務者レベルの会議を定期的を開催し、実効性のある効果的な滞納防止策や回収策を検討し、各病院の共通的な取組みとして実施する。	○未収金担当者等会議を平成 24 年 2 月 20 日に開催し、各病院の取組状況を報告するとともに、未収金の効果的な徴収体制等について意見交換を行った。〔再掲 P 23〕	4														

□目標3:費用の見直し(各病院の取組状況)

番号	取組機関	アクションプラン	取組内容	進捗状況	取組評価	
18	共通取組	◇業務委託内容の見直しによる委託費削減	委託業務の契約内容等についてゼロベースで見直しを行うとともに、入札方式や複数年契約の検討、医療機器の調達における保守管理を考慮した契約実施などにより、委託費用の削減に取り組む。	□各病院の取組状況	3	
				病院名		実施状況
				矢吹病院		○病院内清掃業務の設計単価が上がったことや、児童思春期外来の土曜日診療に伴う窓口業務委託の増加などにより、対前年度で委託料が 1,605 千円の増となった。
				喜多方病院		○12 月～3 月の夜間病棟暖房の実施により、対前年度で委託料が 3,757 千円の増となった。
				会津総合病院		○耐震診断や医療情報システム改修等により、対前年度で委託料が 11,503 千円の増となった。
				宮下病院		○委託仕様の見直し等により、対前年度で委託料が 1,319 千円の減となった。
				南会津病院		○各種機器の更新年度について、保証期間より除くなど、コスト削減に努めたものの、入院患者数の増加に伴う患者の食事提供業務や寝具等洗濯業務等が増加したことにより、対前年度で委託料が 6,625 千円の増となった。
大野病院	－					
19		◇消耗品費や光熱水費等の削減	消耗品や光熱水費等の経費削減を図るため、職員の意識改革を進める。	□各病院の取組状況	5	
				病院名		実施状況
				矢吹病院		○消耗品費については、支出削減を図るとともに、震災による支援物資の有効活用を図り、対前年度で 985 千円削減できた。 ○光熱水費については、電気のデマンドコントロール、水圧調整による節水の実施等により、対前年度で 323 千円削減できた。
				喜多方病院		○節約の積み重ねにより、対前年度で消耗品費は 902 千円、光熱水費は 201 千円削減できた。
				会津総合病院		○漏水修繕による上下水道使用量減やボイラーの運転を外気温に応じて細かく調整するなど、燃料（A 重油）の使用量削減に努めたことにより、対前年度で光熱水費は 6,311 千円削減できた。
				宮下病院		○職員の意識改革により、対前年度で消耗品費は 363 千円削減できた。
				南会津病院		○消耗品費については、継続的に使用する物品等を中心に同等廉価品に切り替えるなど、節減に努めたことにより、対前年度で 756 千円削減できた。
大野病院	－					
20		◇新型 S P D による医療費等の削減	材料費の削減を図るため、平成 2 0 年度に導入した新型 S P D により、医薬品・診療材料費の共同購入や適正管理を徹底する。	□各病院の取組状況	4	
				病院名		実施状況
				矢吹病院		○患者数の増加により、薬品費、診療材料費とも額は増加しているものの、医業収益に占める割合をみると、薬品費は 11.7%、診療材料費は 1.0%であり、事業計画、改革プランの目標値を達成することができた。

				<table><tr><td>喜多方病院</td><td>○院内各部門や、院内業務委員会でも、適正在庫数の検討やデットストック防止の周知を図った結果、診療材料費及びその他材料費の削減が図られた。</td></tr><tr><td>会津総合病院</td><td>○薬品費については、抗がん剤など高額医薬品の増により後発医薬品の採用率（金額ベース）が昨年度より 1.7 ポイント低下した。 ○診療材料費については、整形外科において高額診療材料の使用が増え診療材料費全体で 40.7%の増加となった。</td></tr><tr><td>宮下病院</td><td>○新型 S P D システムを活用し、他病院で使用している安価な診療材料に切り替えたほか、期限切れの近い薬品を院内に周知し、その使用を促進することで、薬品使用効率及び医業収益に対する割合が改善された。</td></tr><tr><td>南会津病院</td><td>○ S P D による年 3 回の価格交渉を行い、薬品、診療材料ともに廉価購入と在庫の圧縮に努めた。 ○毎月薬事委員会を開催し、同種同効薬の見直しや不動在庫の積極的利用による在庫の整理を行った。</td></tr><tr><td>大野病院</td><td>－</td></tr></table>	喜多方病院	○院内各部門や、院内業務委員会でも、適正在庫数の検討やデットストック防止の周知を図った結果、診療材料費及びその他材料費の削減が図られた。	会津総合病院	○薬品費については、抗がん剤など高額医薬品の増により後発医薬品の採用率（金額ベース）が昨年度より 1.7 ポイント低下した。 ○診療材料費については、整形外科において高額診療材料の使用が増え診療材料費全体で 40.7%の増加となった。	宮下病院	○新型 S P D システムを活用し、他病院で使用している安価な診療材料に切り替えたほか、期限切れの近い薬品を院内に周知し、その使用を促進することで、薬品使用効率及び医業収益に対する割合が改善された。	南会津病院	○ S P D による年 3 回の価格交渉を行い、薬品、診療材料ともに廉価購入と在庫の圧縮に努めた。 ○毎月薬事委員会を開催し、同種同効薬の見直しや不動在庫の積極的利用による在庫の整理を行った。	大野病院	－	
喜多方病院	○院内各部門や、院内業務委員会でも、適正在庫数の検討やデットストック防止の周知を図った結果、診療材料費及びその他材料費の削減が図られた。														
会津総合病院	○薬品費については、抗がん剤など高額医薬品の増により後発医薬品の採用率（金額ベース）が昨年度より 1.7 ポイント低下した。 ○診療材料費については、整形外科において高額診療材料の使用が増え診療材料費全体で 40.7%の増加となった。														
宮下病院	○新型 S P D システムを活用し、他病院で使用している安価な診療材料に切り替えたほか、期限切れの近い薬品を院内に周知し、その使用を促進することで、薬品使用効率及び医業収益に対する割合が改善された。														
南会津病院	○ S P D による年 3 回の価格交渉を行い、薬品、診療材料ともに廉価購入と在庫の圧縮に努めた。 ○毎月薬事委員会を開催し、同種同効薬の見直しや不動在庫の積極的利用による在庫の整理を行った。														
大野病院	－														
21	喜多方病院	◇病棟再編の実施	診療圏の人口動向や今後の患者数見込み等を考慮し、病棟再編を実施する。	○平成 21 年 4 月より、病床数を 135 床から 50 床に削減し、1 病棟体制とした。	－										
22	宮下病院 南会津病院	◇病床削減の実施	診療圏の人口動向や今後の患者数見込み等を考慮し、病床数の削減を実施する。	○平成 21 年 4 月より、病床数を 55 床から 32 床へ削減した。（宮下病院） ○平成 21 年 3 月に、病床数を 150 床から 100 床へ削減した。（南会津病院）	－										
23	病院局	◇総人件費の抑制	更なる総人件費の抑制を図るため、給与費の抑制や、病棟・病床数の見直し、業務の効率化による職員配置の適正化、委託の推進などに取り組む。	○患者数の状況に応じた看護職員や医療技術職員等の配置の見直し、事務職員配置の見直し等を行い、総人件費の抑制を図った。	4										

基本方針３：医療提供体制の充実強化（病院の体制整備の視点）

【改革プラン方針】		平成 23 年度取組状況及び自己評価				
目標 1	診療体制及び経営基盤の強化	目標値達成状況評価		取組状況評価		
		【５】	目標値を上回った	【５】	極めて積極的に行われている	
[医師確保等の充実強化]		○平成 23 年度の取組状況				
県立医科大学等との連携や医師紹介事業者の活用、公募による医師確保策の充実強化を図るとともに、医師の給与の見直しや勤務環境の改善などの処遇改善を行い、医師にとって魅力ある職場づくりを行う。		1 医師確保等の充実強化について				
また、医師確保緊急対策プログラム（※）に基づき、医師確保に取り組む。		◆ 安定的な診療体制の確立を図るため、関係機関等との連携の下、常勤医師の確保に努めた。				
※ 県の地域医療対策協議会で検討され、平成 21 年度から実施		【常勤医師数】（単位：人）				
		病院名	H24. 3	H23. 6	H23. 3	H22. 3
		矢吹病院	6	7	6	6
		喜多方病院	4	4	4	4
		会津総合病院	31	31	25	20
		宮下病院	6	6	5	5
		南会津病院	14	15	12	12
		大野病院	1	1	10	11
		合計	62	64	62	58
		※準備室教員含む。				
		◆ 各病院の医師より、適宜意見を聴取するなど、医師が安心して働ける勤務環境の整備や診療機能の充実などに努めた。なお、平成 24 年度においては、へき地医療拠点病院である南会津病院の医師と病院事業管理者との意見交換会を平成 24 年 8 月に実施している。				
[医療の質と調和した経営改善]		2 医療の質と調和した経営改善について				
「医療の質」、「経営の質」の両面においてバランスがとれた病院経営を進めるため、5つの視点（患者さんの視点・健全な病院経営の視点・病院の体制整備の視点・人材育成の視点・地域連携の視点）に沿った基本方針に基づく経営改革を実施する。		◆ 各病院の事務次長等を構成員とする「病院経営検討会」を平成 23 年 7 月 8 日に開催し、各病院における重点取組や改革プラン取組状況などについて、情報共有や意見交換を行った。				
		○共通目標指標				
		常勤医師数				
						
		H21実績 5 8 人	H22実績 6 4 人	H23目標 6 0 人	H23実績 6 1 人	
		※H23 目標、実績は大野病院除く				

目標 2	医療安全対策の強化	目標値達成状況評価		取組状況評価	
		【 3 】	目標値をほぼ達成できた	【 4 】	積極的に行われている
<p>【不断の意識啓発】</p> <p>医療の安全性を高め、患者さんにより信頼される病院となるため、職員全員の医療事故防止に向けた一層の意識啓発と病院全体の危機管理を不断に取り組む。</p> <p>【組織的な体制整備】</p> <p>医療安全を総合的に推進する医療安全担当の配置、医療事故防止マニュアルの不断の見直し、医療事故防止対策委員会で医療事故の発生防止対策の検討、医療事故防止に関する研修会の定期的な開催など、医療安全対策に病院全体で組織的に取り組み、安全な医療の確保を図る。</p> <p>【マニュアルの周知徹底】</p> <p>危機発生時に迅速かつ的確な対応が図られるよう、普段から研修会等において、医療事故防止マニュアルの周知徹底に努める。</p>		○平成 23 年度の取組状況			
		1 医療安全対策の推進について			
		◆医療安全担当の配置	◇定期的に院内ラウンドを行い、医療事故や院内感染を防止し医療安全対策を組織的に推進した。		
		◆医療安全対策委員会	◇アクシデント、インシデント事案について、発生事例の分析や今後の対応策について協議した。		
		◆院内感染対策委員会	◇新型インフルエンザ、感染予防等の対策について検討を行った。		
		◆医療事故防止対策研修会	◇第一線で実務に従事している外部講師を迎え、職員の医療安全に対する意識向上と医療安全の強化に努めた。 ◇研修会を複数回開催することで、安全な業務遂行能力の向上及び医療安全に関する職員の意識向上を促した。		
		◆ 各病院の医療安全担当責任者で構成される「医療安全対策プロジェクトチーム」で、リスク情報収集や調査分析を行い、医療事故防止対策の強化に取り組んだ。			
		◆ 平成 23 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災については、原発災害の影響により大野病院全体が避難することになり、また、他病院でも建物損害による患者さんの移動、さらに混乱の中での被災患者さんの受入など、日頃の防災訓練を越えるような事態が発生したところであり、各病院で今回のケースを検証し、病院間で情報を共有しながら、今後の医療安全及び防災の観点から確認していく必要がある。			
		矢吹病院	○他病院の患者さん 39 人受入、避難所への医療支援実施		
		喜多方病院	○避難患者 5 人受入、医師会の医療支援に参加		
		会津総合病院	○避難患者 21 人受入、避難所への医療支援実施、スクリーニング実施		
		宮下病院	○避難患者 17 人受入、避難所への医療支援実施		
		南会津病院	○避難患者 36 人受入、スクリーニング実施		
		大野病院	○入院患者、職員が川内村保健センターへ避難後、他病院へ患者さんを搬送		
○共通目標指標					
<div>医療安全研修参加率</div> <div><div>H21実績 7 6 . 1 %</div><div>H22実績 6 6 . 6 %</div><div>H23目標 9 0 %</div><div>H23実績 6 4 . 4 %</div></div>					
* 大野病院は除く					

目標１：診療体制及び経営基盤の強化（各病院の取組状況）

番号	取組機関	アクションプラン	取組内容	進捗状況	取組評価												
1	共通取組	◇常勤医師の確保（再掲）	安定的な診療体制の確立を図るため、関係機関等と連携しながら、常勤医師を確保する。	○安定的な診療体制の確立を図るため、関係機関等との連携の下、常勤医師の確保に努めた。〔再掲 P 30〕	4												
2	会津総合病院 南会津病院	◇臨床研修医の受入	県立医科大学や自治医科大学等との連携の下、臨床研修病院として研修医の受入を行う。	○臨床研修医数 <table><tr><td>病院名</td><td>H23</td><td>H22</td><td>H21</td></tr><tr><td>会津総合病院</td><td>1 人</td><td>2 人</td><td>2 人</td></tr><tr><td>南会津病院</td><td>1 人</td><td>0 人</td><td>1 人</td></tr></table>	病院名	H23	H22	H21	会津総合病院	1 人	2 人	2 人	南会津病院	1 人	0 人	1 人	5
病院名	H23	H22	H21														
会津総合病院	1 人	2 人	2 人														
南会津病院	1 人	0 人	1 人														
3	宮下病院 南会津病院	◇家庭医プログラムに基づく実習生の受入	県立医科大学の家庭医プログラムに基づき、ホームステイにより実習生の受入を行う。	○平成 21 年度に実習生を 3 人受け入れて以降、実績はない。（宮下病院） ○平成 22 年度に実習生を 4 人の受入を行ったが、平成 23 年度の受入実績はない。（南会津病院）	3												
4	宮下病院	◇へき地医療体験研修等の受入	自治医科大学福島県人会のへき地医療体験研修を積極的に支援することで、本県出身の医学部生への将来的なへき地医療従事の動機付けとなることを目指す。	○受入実績 <table><tr><td>8/24～26</td><td>自治医科大学福島県人会夏期研修（自治医科大学生 9 人参加）</td></tr><tr><td>2/3</td><td>医師臨床研修「地域保健・医療」分野（会津中央病院研修医 4 人参加）</td></tr><tr><td>2/24</td><td>へき地医療体験研修（冬期）（地域医療に関心を持つ医学部生 7 人参加）</td></tr></table>	8/24～26	自治医科大学福島県人会夏期研修（自治医科大学生 9 人参加）	2/3	医師臨床研修「地域保健・医療」分野（会津中央病院研修医 4 人参加）	2/24	へき地医療体験研修（冬期）（地域医療に関心を持つ医学部生 7 人参加）	5						
8/24～26	自治医科大学福島県人会夏期研修（自治医科大学生 9 人参加）																
2/3	医師臨床研修「地域保健・医療」分野（会津中央病院研修医 4 人参加）																
2/24	へき地医療体験研修（冬期）（地域医療に関心を持つ医学部生 7 人参加）																
5	南会津病院	◇研修病院としての役割	自治医科大学の実施する院外 B S L 研修の受入を行う。	○B S L 研修のため 1 名を受け入れた。（県立医科大学生）	3												
6	病院局	◇医科大学との連携による医師確保の強化	県立医科大学や自治医科大学等との連携強化、近隣県や東京都内の医科大学への医師派遣依頼などにより、医師確保対策の強化を図る。また、県の医師確保緊急対策プログラムに基づき、医師確保を図る。	○県立医科大学や自治医科大学等への派遣要請の強化を行った。 ○県立医科大学の支援を受けて、平成 25 年開所予定の会津医療センターの準備室として、会津総合病院への医師確保を行った。 ○医師確保等推進事業（医師紹介業者及び医師求人サイトの活用等）や、ドクターバンク事業（今すぐから将来まで県立病院へ勤務する医師を全国的に募集）を展開し、医師確保に努めた。	4												
7		◇公募による医師確保	医師紹介事業者の活用、インターネットを始め様々な広報媒体の活用、本県に興味を持っている県外在住者への P R、公募による医師確保対策の強化を図る。	○ホームページや雑誌をはじめ医師紹介事業者の活用等、様々な広報媒体の活用を行い、公募による医師確保対策の強化を図ったものの、採用には至らなかった。	3												
8		◇医師の処遇改善	県立病院に勤務する医師について、給与の見直し、医療事務作業補助者の配置などによる勤務負担の軽減、研修制度の充実など処遇改善を図り、医師にとって魅力ある職場づくりを行う。	○各病院の医師より適宜意見を徴するなど、現場医師の意見を把握しながら、顔の見える関係の構築を図り、魅力ある病院づくりを行った。	4												
9		◇中長期的な医師確保	将来に向けた医師の確保を図るため、医学部生への修学資金の貸与、臨床研修医の受入れなどを行う。	○平成 22 年度から保健福祉部の修学資金制度と統合し、「へき地医療等医師確保修学資金」を創設した。なお、従来貸与を受けていた医学部学生については、これまで同様貸与を継続している。	4												
10		◇目標管理の実施	5 つの視点に沿った基本方針を踏まえ、良質な医療の提供と健全な病院経営の実現に向けた取組みを実施していくとともに、定期的に取組みの進捗状況や課題の検討などを行う。	○平成 21 年 5 月に策定した改革プランの進捗管理を行うために、平成 23 年 8 月に平成 22 年度の取組状況を、平成 24 年 3 月に平成 23 年度の取組状況を、それぞれ、県立病院事業経営評価委員会の助言を得ながら評価し、課題の検討を行った。	4												

□目標2：医療安全対策の強化（各病院の取組状況）

番号	取組機関	アクションプラン	取組内容	進捗状況	取組評価																																																										
11	共通取組	◇専任の医療安全担当による管理体制の強化や研修会の開催等による安全対策の強化	○専任の医療安全担当を配置する。 ○医療安全対策委員会等の活動を強化して、医療事故防止や院内感染防止に関する情報の収集やアクシデント・インシデント事例の検証等を行う。 ○定期的に医療事故防止のための研修会を開催し、マニュアルの見直しや改善事項等について職員への指示を徹底するなど、医療の安全確保に総合的かつ組織的に取り組む。	○取組状況 <table><tr><th>病院名</th><th colspan="3">内容</th></tr><tr><td>矢吹病院</td><td colspan="3">◇医療安全研修会の参加率は 100%となっている。 ◇医療安全委員会は毎月 1 回開催している。インシデント、アクシデント報告を受け、対策、対応等を検討し、職員への共有を図っている。 ◇院内感染症対策委員会は毎月 1 回開催し、感染症予防等の対策について検討している。</td></tr><tr><td>喜多方病院</td><td colspan="3">◇医療安全研修会は、2 回開催し、うち 1 回は、医療安全の教育 DVD を 3 日間放映し、参加率を高める工夫を行った。（1 回目：22 人/69 人、32%　2 回目：46 人/69 人、67%） ◇医療安全及び院内感染の対策会議は、それぞれ毎月開催し、医療安全に関する事例検討や注意すべき院内感染等について、各部署に周知徹底を図っている。</td></tr><tr><td rowspan="7">会津総合病院</td><td colspan="3">◇平成 23 年度医療安全研修会を次表のとおり開催した。</td></tr><tr><td>内容</td><td>実施日</td><td>出席者数</td></tr><tr><td>酸素投与器具の正しい使い方</td><td>5/19、5/25</td><td>77 人（参加率 28.8%）</td></tr><tr><td>AED 研修</td><td>7/5、7/6、7/13、7/14</td><td>130 人（参加率 48.7%）</td></tr><tr><td>麻薬取扱い講習会</td><td>8/19</td><td>28 人（参加率 10.5%）</td></tr><tr><td>糖尿病学習会</td><td>8/26、9/22、10/14</td><td>111 人（参加率 41.6%）</td></tr><tr><td>ヒューマンファクターとノンテクニカルスキル</td><td>2/24</td><td>55 人（参加率 20.6%）</td></tr><tr><td colspan="3">◇医療安全ポケットマニュアルを作成し、平成 23 年 5 月より全職員へ配布した。</td></tr><tr><td rowspan="4">宮下病院</td><td colspan="3">◇平成 23 年度医療安全研修会を次表のとおり開催した。</td></tr><tr><td>内容</td><td>実施日</td><td>出席者数</td></tr><tr><td>医療安全研修会Ⅰ（輸血用血液製剤（濃厚赤血球・血小板）の取扱い）</td><td>2/2</td><td>23 人（参加率 65.7%）</td></tr><tr><td>医療安全研修会Ⅱ（輸液製剤の適正使用及び取扱いの注意点）</td><td>2/8</td><td>19 人（参加率 54.3%）</td></tr><tr><td>南会津病院</td><td colspan="3">◇毎年度実施している「グリッターバグの手洗い研修」は、委託職員も含め 155 人の参加があり、参加率は 82.9%となった。</td></tr><tr><td>大野病院</td><td colspan="3">－</td></tr></table>	病院名	内容			矢吹病院	◇医療安全研修会の参加率は 100%となっている。 ◇医療安全委員会は毎月 1 回開催している。インシデント、アクシデント報告を受け、対策、対応等を検討し、職員への共有を図っている。 ◇院内感染症対策委員会は毎月 1 回開催し、感染症予防等の対策について検討している。			喜多方病院	◇医療安全研修会は、2 回開催し、うち 1 回は、医療安全の教育 DVD を 3 日間放映し、参加率を高める工夫を行った。（1 回目：22 人/69 人、32%　2 回目：46 人/69 人、67%） ◇医療安全及び院内感染の対策会議は、それぞれ毎月開催し、医療安全に関する事例検討や注意すべき院内感染等について、各部署に周知徹底を図っている。			会津総合病院	◇平成 23 年度医療安全研修会を次表のとおり開催した。			内容	実施日	出席者数	酸素投与器具の正しい使い方	5/19、5/25	77 人（参加率 28.8%）	AED 研修	7/5、7/6、7/13、7/14	130 人（参加率 48.7%）	麻薬取扱い講習会	8/19	28 人（参加率 10.5%）	糖尿病学習会	8/26、9/22、10/14	111 人（参加率 41.6%）	ヒューマンファクターとノンテクニカルスキル	2/24	55 人（参加率 20.6%）	◇医療安全ポケットマニュアルを作成し、平成 23 年 5 月より全職員へ配布した。			宮下病院	◇平成 23 年度医療安全研修会を次表のとおり開催した。			内容	実施日	出席者数	医療安全研修会Ⅰ（輸血用血液製剤（濃厚赤血球・血小板）の取扱い）	2/2	23 人（参加率 65.7%）	医療安全研修会Ⅱ（輸液製剤の適正使用及び取扱いの注意点）	2/8	19 人（参加率 54.3%）	南会津病院	◇毎年度実施している「グリッターバグの手洗い研修」は、委託職員も含め 155 人の参加があり、参加率は 82.9%となった。			大野病院	－			4
病院名	内容																																																														
矢吹病院	◇医療安全研修会の参加率は 100%となっている。 ◇医療安全委員会は毎月 1 回開催している。インシデント、アクシデント報告を受け、対策、対応等を検討し、職員への共有を図っている。 ◇院内感染症対策委員会は毎月 1 回開催し、感染症予防等の対策について検討している。																																																														
喜多方病院	◇医療安全研修会は、2 回開催し、うち 1 回は、医療安全の教育 DVD を 3 日間放映し、参加率を高める工夫を行った。（1 回目：22 人/69 人、32%　2 回目：46 人/69 人、67%） ◇医療安全及び院内感染の対策会議は、それぞれ毎月開催し、医療安全に関する事例検討や注意すべき院内感染等について、各部署に周知徹底を図っている。																																																														
会津総合病院	◇平成 23 年度医療安全研修会を次表のとおり開催した。																																																														
	内容	実施日	出席者数																																																												
	酸素投与器具の正しい使い方	5/19、5/25	77 人（参加率 28.8%）																																																												
	AED 研修	7/5、7/6、7/13、7/14	130 人（参加率 48.7%）																																																												
	麻薬取扱い講習会	8/19	28 人（参加率 10.5%）																																																												
	糖尿病学習会	8/26、9/22、10/14	111 人（参加率 41.6%）																																																												
	ヒューマンファクターとノンテクニカルスキル	2/24	55 人（参加率 20.6%）																																																												
◇医療安全ポケットマニュアルを作成し、平成 23 年 5 月より全職員へ配布した。																																																															
宮下病院	◇平成 23 年度医療安全研修会を次表のとおり開催した。																																																														
	内容	実施日	出席者数																																																												
	医療安全研修会Ⅰ（輸血用血液製剤（濃厚赤血球・血小板）の取扱い）	2/2	23 人（参加率 65.7%）																																																												
	医療安全研修会Ⅱ（輸液製剤の適正使用及び取扱いの注意点）	2/8	19 人（参加率 54.3%）																																																												
南会津病院	◇毎年度実施している「グリッターバグの手洗い研修」は、委託職員も含め 155 人の参加があり、参加率は 82.9%となった。																																																														
大野病院	－																																																														
12	会津総合病院	◇オーダリングシステム・電子カルテシステムの導入による安全・安心な医療の提供	システムによる禁忌投薬等の防止やバーコードチェックによる患者誤認の防止など、安全安心な医療の提供を行う。	○平成 23 年 7 月より電子カルテ端末からインシデントレポートを入力できるようにした。 ○オーダリングシステム・電子カルテシステムによる禁忌投薬等の防止やバーコードチェックによる患者誤認の防止など、安全・安心な医療の提供に努めた。	5																																																										
13	病院局	◇医療安全対策プロジェクトチームの開催	各病院の医療安全担当責任者で構成される医療安全対策プロジェクトチームを定期的に開催し、一層の安全な医療の提供を図るため、リスク情報収集や調査分析を行うなど、医療事故防止対策の強化に組織的に取り組む。	○平成 23 年 7 月 27 日及び平成 24 年 2 月 13 日に各病院の医療安全担当者と構成する県立病院医療安全対策プロジェクトチーム会議を開催した。 <table><tr><th>開催日</th><th>内容</th></tr><tr><td>平成 23 年 7 月 27 日</td><td>◇震災発生時における各病院の対応、インシデント・アクシデント件数報告　等</td></tr><tr><td>平成 24 年 2 月 13 日</td><td>◇平成 23 年度医療安全に関する取組、インシデント・アクシデント発生時の職員への周知方法　等</td></tr></table>	開催日	内容	平成 23 年 7 月 27 日	◇震災発生時における各病院の対応、インシデント・アクシデント件数報告　等	平成 24 年 2 月 13 日	◇平成 23 年度医療安全に関する取組、インシデント・アクシデント発生時の職員への周知方法　等	4																																																				
開催日	内容																																																														
平成 23 年 7 月 27 日	◇震災発生時における各病院の対応、インシデント・アクシデント件数報告　等																																																														
平成 24 年 2 月 13 日	◇平成 23 年度医療安全に関する取組、インシデント・アクシデント発生時の職員への周知方法　等																																																														

基本方針４：職員の資質向上と人材育成（人材育成の視点）

【改革プラン方針】 地域住民に良質な医療サービスを提供するという基本姿勢に立ち、部門間の連携や積極的な対話をすすめる、コミュニケーション能力の向上を図りながら、職員の経営参加に対する意識の向上、職場の活性化、組織風土の改善を図る。 また、院内外の人的資源を有効に活用しながら、次世代を担う職員や核となるリーダーの育成、職員の専門性向上への支援を実施する。		平成 23 年度取組状況及び自己評価																																	
目標 1	人材の育成と確保	目標値達成状況		取組状況																															
		【2】	目標値を下回った	【3】	取り組んでいる																														
[人材の積極的活用] 組織の活性化や職員のモチベーションの向上を図るため、人的資源としての院内の優秀な人材の積極的な活用を図る。 [リーダー育成] 地域住民から信頼される病院となるため、職員の育成を図るとともに、核となるリーダーの育成に努める。		○平成 23 年度取組状況 1 人的資源の積極的な活用とリーダーの育成について ◆医療スタッフの専門性向上への支援 資格取得におけるリーダーシップの発揮と新たな活動の展開を図るため支援を行っていく。 また、研修や自己研鑽を通じて、実践・実行を伴ったさらなる技術発展を目指していく。																																	
		【認定看護師の取得状況】（平成 24 年 6 月 1 日現在）																																	
		<table><tr><td>認定分野</td><td>取得者数</td><td>備考</td></tr><tr><td>◇集中ケア</td><td>1 人</td><td>平成 20 年取得</td></tr><tr><td>◇感染管理</td><td>2 人</td><td>平成 22 年、23 取得</td></tr><tr><td>◇糖尿病看護</td><td>1 人</td><td>平成 23 年取得</td></tr><tr><td>◇がん性疼痛看護</td><td>1 人</td><td>平成 24 年取得</td></tr><tr><td>計</td><td>5 人</td><td></td></tr></table>			認定分野	取得者数	備考	◇集中ケア	1 人	平成 20 年取得	◇感染管理	2 人	平成 22 年、23 取得	◇糖尿病看護	1 人	平成 23 年取得	◇がん性疼痛看護	1 人	平成 24 年取得	計	5 人														
		認定分野	取得者数	備考																															
		◇集中ケア	1 人	平成 20 年取得																															
		◇感染管理	2 人	平成 22 年、23 取得																															
		◇糖尿病看護	1 人	平成 23 年取得																															
		◇がん性疼痛看護	1 人	平成 24 年取得																															
		計	5 人																																
		【平成 23 年度資格取得状況】																																	
<table><tr><td>矢吹病院</td><td>看護管理者研修（ファーストレベル研修）</td><td>2 人</td></tr><tr><td rowspan="6">会津総合病院</td><td>認定看護師（感染管理）</td><td>1 人</td></tr><tr><td>認定看護師（糖尿病看護）</td><td>1 人</td></tr><tr><td>看護管理者研修（ファーストレベル研修）</td><td>1 人</td></tr><tr><td>看護管理者研修（セカンドレベル研修）</td><td>1 人</td></tr><tr><td>看護管理者研修（サードレベル研修）</td><td>1 人</td></tr><tr><td>看護管理者研修 ※対象：看護部長</td><td>1 人</td></tr><tr><td rowspan="3">宮下病院</td><td>普通第一種圧力容器取扱作業主任者技能講習</td><td>1 人</td></tr><tr><td>防火管理者資格取得講習</td><td>1 人</td></tr><tr><td>暴力団不当要求防止責任者講習</td><td>1 人</td></tr><tr><td rowspan="2">南会津病院</td><td>看護管理者研修（ファーストレベル研修）</td><td>1 人</td></tr><tr><td>看護管理者研修（セカンドレベル研修）</td><td>1 人</td></tr><tr><td colspan="3">計</td><td>13 人</td></tr></table>			矢吹病院	看護管理者研修（ファーストレベル研修）	2 人	会津総合病院	認定看護師（感染管理）	1 人	認定看護師（糖尿病看護）	1 人	看護管理者研修（ファーストレベル研修）	1 人	看護管理者研修（セカンドレベル研修）	1 人	看護管理者研修（サードレベル研修）	1 人	看護管理者研修 ※対象：看護部長	1 人	宮下病院	普通第一種圧力容器取扱作業主任者技能講習	1 人	防火管理者資格取得講習	1 人	暴力団不当要求防止責任者講習	1 人	南会津病院	看護管理者研修（ファーストレベル研修）	1 人	看護管理者研修（セカンドレベル研修）	1 人	計			13 人	
矢吹病院	看護管理者研修（ファーストレベル研修）	2 人																																	
会津総合病院	認定看護師（感染管理）	1 人																																	
	認定看護師（糖尿病看護）	1 人																																	
	看護管理者研修（ファーストレベル研修）	1 人																																	
	看護管理者研修（セカンドレベル研修）	1 人																																	
	看護管理者研修（サードレベル研修）	1 人																																	
	看護管理者研修 ※対象：看護部長	1 人																																	
宮下病院	普通第一種圧力容器取扱作業主任者技能講習	1 人																																	
	防火管理者資格取得講習	1 人																																	
	暴力団不当要求防止責任者講習	1 人																																	
南会津病院	看護管理者研修（ファーストレベル研修）	1 人																																	
	看護管理者研修（セカンドレベル研修）	1 人																																	
計			13 人																																

【資質向上の環境づくり】

各種研修会や学会等への参加機会の拡充や教育体制の充実などにより、全体の水準向上を図るとともに、資質向上に取り組める環境づくりに努める。

【平成 23 年度コメディカル研修実績】

研修名	回数等
◇看護職員：クリニカルラダーレベル別研修	年４回（主催：病院局）
◇看護研究発表会	年１回（主催：病院局）
◇看護管理者研修（ファーストレベル研修）	25 日間、４人派遣
◇看護管理者研修（セカンドレベル研修）	40 日間、２人派遣
◇看護管理者研修（サードレベル研修）	57 日間、１人派遣
◇看護管理者研修（看護管理研修）	１日間、１人派遣
◇認定看護師派遣研修	２人派遣
◇看護学生実習指導者養成研修	41 日間、１人派遣
◇SST 初級リーダー養成研修	２日間、７人派遣
◇臨床病理研修	61 日間、１人派遣
◇NST 専門療法士資格取得に係る実地修練	４日間、１人派遣
◇第一種衛生管理者講習会	１日間、４人派遣
◇特定化学物質作業主任者講習会	１日間、２人派遣

２ 資質向上の環境づくりについて

- ◆ 看護管理検討会（看護部長）、看護部教育企画委員会（看護師長）、看護研究指導委員会を定期的に開催し、医療情勢を踏まえた業務課題について検討を行った。
- ◆ 看護は実践科学であり、看護の資質向上を目指すうえで、実践の中から課題を見出して看護研究に取り組むことは重要であるため、研究成果について共有を行い相互の研鑽に努めるため、「第 25 回県立病院看護部看護研究発表会」を開催した。

病院名	演題
矢吹病院	◇患者の自殺未遂に遭遇した精神科看護師の体験
	◇自宅退院にこだわり施設入所を拒否する患者の思い
喜多方病院	◇転倒・転落の視点から見た高齢者がナースコールを押さない理由
会津総合病院	◇内視鏡的粘膜下層剥離術を受けた患者の思い
宮下病院	◇退院支援における受け持ち看護師の意識に関する検討
南会津病院	◇同一患者に二度誤薬をした事例の背後にあるもの～Medical SAFER、P-mSHELL 分析による背後要因及び対策～ ◇申し送りにケアシートを導入した効果

○共通目標指標



目標 2	職員の意識改革	目標値達成状況		取組状況	
		【2】	目標値を下回った	【3】	取り組んでいる
<p>〔病院経営セミナーの開催〕</p> <p>職員一人一人の経営に対する意識改革を図るため、職員が病院経営に主体的に参加することが重要なことから、経営改善に関わる病院経営セミナーを開催する。</p> <p>〔職員提案の実施〕</p> <p>職員のモチベーションの向上を図るため、職員提案を実施し、問題点を把握し改善を行うことで、働きがいを感じる良好な職場環境づくりに努める。</p>		○平成 23 年度の取組状況			
		1 病院経営セミナーについて			
		病院経営研修会は開催できなかったものの、電子カルテシステムの導入を予定している南会津病院職員を対象に研修会を複数回開催した。			
		2 職員提案について			
		◆ 職員提案制度を通じて、職員一人ひとりの病院経営に対する参画意識が高まった。			
		◆ 業務改善及び職員の資質向上等を目的とした課題・目標管理の実施や、行動指針についての職員公募を行うなど、職員のモチベーション向上を図った。			
		病院名	内容		
		矢吹病院	◇10 月及び 11 月を募集強調月間と定め、積極的に取組を推進した。（提案の内容：①通院集団精神療法の実施について、②病院利用者の休憩所について、③病院名の改名について）		
		喜多方病院	◇平成 24 年度行動指針について、職員公募を実施し、経営改善、事故防止、接遇向上及び一般の 4 区分で選考を行うとともに、受賞者 4 人（受賞内容：「声だし指さしダブルチェックの徹底を！」『まあいいか』その一言がミスのもと」「思いやり いつでも どこでも 誰にでも」「最後まで 地域のために がんばろう」）に対しては、平成 24 年 3 月 6 日開催の全体会席上で表彰を行った。（提案件数：49 件） ◇行動指針は、職員ネームプレートの裏面への添付やナースステーション等院内各所に掲示し、職員が常時参照できるようにして意識向上を図っている。		
		会津総合病院	◇毎年度実施している課題・目標管理については 25 件の取組が行われた。また、優れた取組に対しては、平成 24 年 4 月 23 日に表彰を行った。		
	区分	内容			
	院長賞	安全・安楽な手術体位マニュアルの作成（看護部中央手術室）			
	優秀賞	レジメンを利用した化学療法の推進（化学療法プロジェクトチーム）			
	奨励賞	漢方内科診療に関するシステム化（漢方内科）			
		N S Tに関する情報共有と情報発信機能の強化（N S T委員会）			
	努力賞	尿道留置カテーテル関連感染サーベイランスの導入（医療安全感染対策室）			
		標準的 turn around time の達成（病理診断科）			
		病院機能評価の視点に立った看護部の課題への取組（看護部看護師長会）			

	宮下病院	◇職員提案は 14 件あった。 <table><tr><td>所属</td><td>内容</td></tr><tr><td>診療部</td><td>「外来患者様の啓発」、「緊急撮影マニュアルの再考」、「安全な食事を提供しよう」</td></tr><tr><td>看護部</td><td>「看護の日イベント企画実施」、「癒しのある空間」の提供、「院内に花を飾り、憩いの空間を広げる」、「職員の健康保持・増進への取組～みんなで楽しくラジオ体操～」、「口腔ケアの基準作成」、「スタッフに腰痛がなく、元気に働けるよう体調を整える」</td></tr><tr><td>薬剤部</td><td>「ハイリスク薬の管理、チェック機能の見直し」、「薬の重要情報をもれなく患者に伝える方法について」</td></tr><tr><td>事務部</td><td>「癒しのある空間づくり～フォトギャラリー～」、「患者送迎バス運行ダイヤの見直し」、「夏の節電に向けた取組」</td></tr></table>	所属	内容	診療部	「外来患者様の啓発」、「緊急撮影マニュアルの再考」、「安全な食事を提供しよう」	看護部	「看護の日イベント企画実施」、「癒しのある空間」の提供、「院内に花を飾り、憩いの空間を広げる」、「職員の健康保持・増進への取組～みんなで楽しくラジオ体操～」、「口腔ケアの基準作成」、「スタッフに腰痛がなく、元気に働けるよう体調を整える」	薬剤部	「ハイリスク薬の管理、チェック機能の見直し」、「薬の重要情報をもれなく患者に伝える方法について」	事務部	「癒しのある空間づくり～フォトギャラリー～」、「患者送迎バス運行ダイヤの見直し」、「夏の節電に向けた取組」
所属	内容											
診療部	「外来患者様の啓発」、「緊急撮影マニュアルの再考」、「安全な食事を提供しよう」											
看護部	「看護の日イベント企画実施」、「癒しのある空間」の提供、「院内に花を飾り、憩いの空間を広げる」、「職員の健康保持・増進への取組～みんなで楽しくラジオ体操～」、「口腔ケアの基準作成」、「スタッフに腰痛がなく、元気に働けるよう体調を整える」											
薬剤部	「ハイリスク薬の管理、チェック機能の見直し」、「薬の重要情報をもれなく患者に伝える方法について」											
事務部	「癒しのある空間づくり～フォトギャラリー～」、「患者送迎バス運行ダイヤの見直し」、「夏の節電に向けた取組」											
	南会津病院	◇毎年 2 月を「職員提案月間」と定め、積極的に取組を推進した結果、「人工肛門の患者さんのケア整備」と「院内ネットワークを活用した院内通知」の 2 件について提案があった。										

○共通目標指標

職員提案件数



H21実績
1 0 5 件

H22実績
1 1 5 件

H23目標
1 4 0 件以上

H23実績
9 3 件

※H23 目標、実績は大野病院除く

目標１：人材の育成と確保（各病院の取組状況）

番号	取組機関	アクションプラン	取組内容	進捗状況	取組評価											
1	共通取組	◇各分野のスペシャリストの育成	病院内の組織の活性化と職員のモチベーションの向上を図るため、業務推進に当たってのリーダーを育成するとともに、職員の資質向上を図ることを目的に、医療スタッフの専門的で高度な知識や技能の習得を計画的に進める。	○資格取得におけるリーダーシップの発揮と新たな活動の展開を図るため支援を行っていく。また、研修などでの自己研鑽を通じて、実践・実行を伴ったさらなる技術発展を目指していく。〔再掲P34〕	4											
2		◇人材育成のための各種研修会への参加や院内教育の充実	職員の資質向上と組織全体の活性化のため、各種研修会や学会等への参加機会の拡充を図るとともに、病院内における職員教育・研修計画に基づき各種研修会等を定期的に開催する。	○各病院の実施状況 <table><tr><th>病院名</th><th>実施状況</th></tr><tr><td>矢吹病院</td><td>◆児童思春期に関する看護学習会や精神デイケア研修会を開催し、職員の資質向上に努めた。</td></tr><tr><td>喜多方病院</td><td>◆資格取得については、病休・育休取得者の発生等のため、研修派遣が困難であり、支援には至らなかったものの、平成 24 年度は、糖尿病療養指導士取得に向け看護職員 2 人の支援を予定している。 ◆院内教育研修会を次のとおり開催し人材育成の推進を図った。 呼吸理学療法（1 回）、看護必要度（1 回）、洗浄・消毒の見直し（1 回）、抗がん剤暴露防止策（3 回）、褥瘡対策（1 回）、大腸カメラの前処置（1 回）、がん看護（1 回）</td></tr><tr><td>会津総合病院</td><td>◆現在の資格取得者は、認定看護師 4 人（集中ケア 1 人、感染管理 2 人、糖尿病看護 1 人）、NST 専門栄養士 2 人となっている。 ◆認定看護師（がん性疼痛看護）及び認定看護管理者制度サードレベル教育課程研修に各 1 人を派遣した。 ◆看護専門外来開設に向けた人材の育成として、県立医科大学看護学研究科の開講科目を利用した研修に 2 人を派遣した。</td></tr><tr><td>宮下病院</td><td>◆各種研修会等への参加状況は、次のとおり。 普通第一種圧力容器取扱作業主任者技能講習（1 人）、防火管理者資格取得講習（1 人）、暴力団不当要求防止責任者講習（1 人）、県医師会医療安全推進研修会（1 人）、県医師会医療安全推進研修会（1 人）、県感染制御ネットワーク講習会（1 人）、日本病院薬剤師会医薬品安全管理責任者講習会（1 人）</td></tr><tr><td>南会津病院</td><td>◆看護管理セカンドレベルについて 1 人を養成することができた。なお、平成 24 年度は認定看護師（感染管理）の資格取得に向けて職員を 1 人派遣している。</td></tr></table>	病院名	実施状況	矢吹病院	◆児童思春期に関する看護学習会や精神デイケア研修会を開催し、職員の資質向上に努めた。	喜多方病院	◆資格取得については、病休・育休取得者の発生等のため、研修派遣が困難であり、支援には至らなかったものの、平成 24 年度は、糖尿病療養指導士取得に向け看護職員 2 人の支援を予定している。 ◆院内教育研修会を次のとおり開催し人材育成の推進を図った。 呼吸理学療法（1 回）、看護必要度（1 回）、洗浄・消毒の見直し（1 回）、抗がん剤暴露防止策（3 回）、褥瘡対策（1 回）、大腸カメラの前処置（1 回）、がん看護（1 回）	会津総合病院	◆現在の資格取得者は、認定看護師 4 人（集中ケア 1 人、感染管理 2 人、糖尿病看護 1 人）、NST 専門栄養士 2 人となっている。 ◆認定看護師（がん性疼痛看護）及び認定看護管理者制度サードレベル教育課程研修に各 1 人を派遣した。 ◆看護専門外来開設に向けた人材の育成として、県立医科大学看護学研究科の開講科目を利用した研修に 2 人を派遣した。	宮下病院	◆各種研修会等への参加状況は、次のとおり。 普通第一種圧力容器取扱作業主任者技能講習（1 人）、防火管理者資格取得講習（1 人）、暴力団不当要求防止責任者講習（1 人）、県医師会医療安全推進研修会（1 人）、県医師会医療安全推進研修会（1 人）、県感染制御ネットワーク講習会（1 人）、日本病院薬剤師会医薬品安全管理責任者講習会（1 人）	南会津病院	◆看護管理セカンドレベルについて 1 人を養成することができた。なお、平成 24 年度は認定看護師（感染管理）の資格取得に向けて職員を 1 人派遣している。
病院名	実施状況															
矢吹病院	◆児童思春期に関する看護学習会や精神デイケア研修会を開催し、職員の資質向上に努めた。															
喜多方病院	◆資格取得については、病休・育休取得者の発生等のため、研修派遣が困難であり、支援には至らなかったものの、平成 24 年度は、糖尿病療養指導士取得に向け看護職員 2 人の支援を予定している。 ◆院内教育研修会を次のとおり開催し人材育成の推進を図った。 呼吸理学療法（1 回）、看護必要度（1 回）、洗浄・消毒の見直し（1 回）、抗がん剤暴露防止策（3 回）、褥瘡対策（1 回）、大腸カメラの前処置（1 回）、がん看護（1 回）															
会津総合病院	◆現在の資格取得者は、認定看護師 4 人（集中ケア 1 人、感染管理 2 人、糖尿病看護 1 人）、NST 専門栄養士 2 人となっている。 ◆認定看護師（がん性疼痛看護）及び認定看護管理者制度サードレベル教育課程研修に各 1 人を派遣した。 ◆看護専門外来開設に向けた人材の育成として、県立医科大学看護学研究科の開講科目を利用した研修に 2 人を派遣した。															
宮下病院	◆各種研修会等への参加状況は、次のとおり。 普通第一種圧力容器取扱作業主任者技能講習（1 人）、防火管理者資格取得講習（1 人）、暴力団不当要求防止責任者講習（1 人）、県医師会医療安全推進研修会（1 人）、県医師会医療安全推進研修会（1 人）、県感染制御ネットワーク講習会（1 人）、日本病院薬剤師会医薬品安全管理責任者講習会（1 人）															
南会津病院	◆看護管理セカンドレベルについて 1 人を養成することができた。なお、平成 24 年度は認定看護師（感染管理）の資格取得に向けて職員を 1 人派遣している。															
3	矢吹病院	◇県立医大看護学部企画の「社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム」の積極的参加	職員の資質向上に取り組む環境づくりを進めるため、地域ケアに必要な知識・技術の習得や事例検討、実践によって、長期在院精神疾患患者に対する看護のレベルアップを目指す「社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム」への参加を促進する。	○精神科医療スタッフ対応力強化研修会へ 38 名の参加があり、学習意欲は高い。今後も県立医大看護学部の協力の下、取り組んでいきたい。	4											
4	会津総合病院	◇既取得資格の更新に係る支援検討	病院経営上有益な資格を既に有する者に対して、その資格更新に係る経費の支援を検討する。	○資格更新に係る経費の支援検討までには至らなかった。	1											
5	病院局	◇資格取得支援	専門的な知識と技能を持った職員の育成を図るため、全職種で資格取得等のスキルアップの支援体制を確立する。	○認定看護師をはじめとした職員の専門性向上への支援を実施した。（24 年度においても認定看護師等の取得への支援を行う。）	3											

6		◇民間実務経験者の採用	これまで培った豊富な経験や専門知識を活用しながら、県立病院の経営改善を図るため、病院経営の管理・監督、企画立案、医療事務等の能力を備えた民間実務経験者を採用する。	○民間実務経験者の採用には至らなかった。	1																					
7		◇経営感覚を持った職員の育成	経営感覚を持った職員の育成を図るため、初任者研修会や部門横断的な研修会等でワークショップを開催し、各職員が主体的に業務の問題点を洗い出すとともに、解決策を見いだしていく。	<div>○ワンステップ運動※に取り組んだ。 ※日常業務の中で、できて当然だが、なかなかできそうで、できていない基本について、職員全員が毎日、持ち回りで改善策等の発表を行うことにより、見ているだけ、考えているだけの排除を行い、一歩踏み出して一人ひとりの県立病院基本理念の実践につなげていく活動。</div> <table><tr><th>月</th><th>テーマ</th><th>内容</th></tr><tr><td>4月 5月</td><td>震災対応のため未実施</td><td>－</td></tr><tr><td>6月 7月</td><td>基本はあいさつ</td><td>◆お互いにあいさつからはじまり、あいさつで終わり、今後の信頼関係を築いていきましょう。</td></tr><tr><td>8月 9月</td><td>新たなアイデアの創出前例踏襲打破</td><td>◆夏休みを取って心と体をリフレッシュするとともに、これからの事業計画や復興に向けて、新たなアイデアを生み出す充電期間をとりましょう。前例にとらわれない一人ひとりの斬新なアイデアと発想が、福島県の復興と病院経営を担っていくはず です。</td></tr><tr><td>10月 11月</td><td>通常業務のおもいきった見直しを</td><td>◆抜本的に既存業務の整理を行い、休止や簡略化などおもいきった見直しを行いましょう。最小限の労力で最大限の効果を発揮するために、無駄を省いて仕事の精度を上げましょう。</td></tr><tr><td>12月 1月</td><td>自己研鑽でパワーアップ</td><td>◆単なる業務をこなすだけではなく、業務を利用してそこから幅広い知識を習得しながら、プロフェッショナルを目指そう。</td></tr><tr><td>2月 3月</td><td>一定の成果と今後の業務整理を</td><td>◆今年度中にどこまでやるべきかを早急に整理して、一つでも結果を残せるように取り組みましょう。また、やり残さなければならない事項は、今後の業務を見据えて再整理を行いましょう。</td></tr></table>	月	テーマ	内容	4月 5月	震災対応のため未実施	－	6月 7月	基本はあいさつ	◆お互いにあいさつからはじまり、あいさつで終わり、今後の信頼関係を築いていきましょう。	8月 9月	新たなアイデアの創出前例踏襲打破	◆夏休みを取って心と体をリフレッシュするとともに、これからの事業計画や復興に向けて、新たなアイデアを生み出す充電期間をとりましょう。前例にとらわれない一人ひとりの斬新なアイデアと発想が、福島県の復興と病院経営を担っていくはず です。	10月 11月	通常業務のおもいきった見直しを	◆抜本的に既存業務の整理を行い、休止や簡略化などおもいきった見直しを行いましょう。最小限の労力で最大限の効果を発揮するために、無駄を省いて仕事の精度を上げましょう。	12月 1月	自己研鑽でパワーアップ	◆単なる業務をこなすだけではなく、業務を利用してそこから幅広い知識を習得しながら、プロフェッショナルを目指そう。	2月 3月	一定の成果と今後の業務整理を	◆今年度中にどこまでやるべきかを早急に整理して、一つでも結果を残せるように取り組みましょう。また、やり残さなければならない事項は、今後の業務を見据えて再整理を行いましょう。	3
月	テーマ	内容																								
4月 5月	震災対応のため未実施	－																								
6月 7月	基本はあいさつ	◆お互いにあいさつからはじまり、あいさつで終わり、今後の信頼関係を築いていきましょう。																								
8月 9月	新たなアイデアの創出前例踏襲打破	◆夏休みを取って心と体をリフレッシュするとともに、これからの事業計画や復興に向けて、新たなアイデアを生み出す充電期間をとりましょう。前例にとらわれない一人ひとりの斬新なアイデアと発想が、福島県の復興と病院経営を担っていくはず です。																								
10月 11月	通常業務のおもいきった見直しを	◆抜本的に既存業務の整理を行い、休止や簡略化などおもいきった見直しを行いましょう。最小限の労力で最大限の効果を発揮するために、無駄を省いて仕事の精度を上げましょう。																								
12月 1月	自己研鑽でパワーアップ	◆単なる業務をこなすだけではなく、業務を利用してそこから幅広い知識を習得しながら、プロフェッショナルを目指そう。																								
2月 3月	一定の成果と今後の業務整理を	◆今年度中にどこまでやるべきかを早急に整理して、一つでも結果を残せるように取り組みましょう。また、やり残さなければならない事項は、今後の業務を見据えて再整理を行いましょう。																								

□目標2：職員の意識改革(各病院の取組状況)

番号	取組機関	アクションプラン	取組内容	進捗状況	取組評価
8	共通取組	◇職員提案制度の実施	職員の病院経営への参加意識の向上を図るため、患者サービスの向上や業務の効率化、経費の削減・収益の向上に向けた職員提案制度を充実する。	○職員提案制度を通じて、職員一人ひとりの病院経営に対する参画意識が高まった。〔再掲P36〕 ○業務改善及び職員の資質向上等を目的とした課題・目標管理の実施、行動指針についての職員公募などを行い、職員のモチベーション向上を図った。〔再掲P36〕	3
9	病院局	◇病院経営セミナーの開催	職員一人一人の病院運営への主体的参加の意識を促すため、医療を取り巻く環境について、各病院職員に周知するセミナーの実施などにより、病院経営の情報の共有化を図る。	○病院経営研修会は開催できなかったものの、電子カルテシステムの導入を予定している南会津病院職員を対象に研修会を複数回開催した。〔再掲P36〕	2

基本方針５：地域との連携・共生（地域連携の視点）

【改革プラン方針】 地域のニーズに対応した質の高い医療の提供や収益確保のため、各地域の医療機関や介護福祉施設等との役割分担を図りながら、連携を一層強化していく。 また、地域に親しまれる病院を目指して、地元市町村をはじめとする保健・医療・福祉等の行政機関や各種企業・団体との連携を強化し、地域住民との交流や連携事業を積極的に行う。		平成 23 年度取組状況及び自己評価						
目標 1	地域医療機関等との連携	目標値達成状況評価			取組状況評価			
		【 4 】	目標値を達成できた		【 4 】	積極的に行われている		
【紹介率の向上】 紹介率を向上させながら患者数の増加を図るため、地域の医療機関等との機能分担や訪問を通じての顔の見える連携を積極的に進める。 【社会復帰に向けた体制整備】 患者さんを地域全体でサポートしていくため、医療機関や保健・介護福祉施設、行政機関との連携を強化し、患者さんが適切な治療を受け早期の社会復帰を果たせるような体制整備を図る。 【医師派遣等による支援機能発揮】 へき地医療拠点病院として、国保診療所や介護保健施設への医師派遣による診療応援を実施するなど、地域の病院等との相互協力・支援の取組みを充実する。		○平成 23 年度の取組状況 1 地域医療連携について ◆ 地域の医療・保健・福祉・消防機関への医師の専門分野の紹介や院内行事等の広報活動を通じて、地域の医療機関等との連携を強化し、紹介率の向上に努めた。						
		病院名	実施状況					
		矢吹病院	○地域生活移行の促進のため地域の医療機関等との連携に取り組んでいるところであり、平成 23 年度は 13 施設に対して 80 回訪問を行った。					
		喜多方病院	○地域医療連携室だよりの発行や医療機関等への訪問など、連携強化に努めた。					
		会津総合病院	○会津地方医療機関へのあいさつ回りや、地元医師会との意見交換、会津若松医師会への加入促進（平成 24 年 5 月末現在加入者数 13 人、うち平成 23 年度以降の新規加入者 6 人）を実施した。					
		宮下病院	○「医療・保健・福祉関係機関連絡会」を開催し、診療所の医師や介護老人福祉施設の担当者、町村の保健師と情報の共有化を図るとともに、診療圏内の介護老人福祉施設への定期訪問等を実施した。					
		南会津病院	○地域連携の専用電話の設置、紹介患者についての対応マニュアルの整備、医療・福祉等の関係者と当院職員の懇談会の開催等により、他医療機関等が患者を紹介しやすくなるような環境の整備を図った。					
		【紹介率・病床利用率の状況】						
			矢吹病院	喜多方病院	会津総合病院	宮下病院	南会津病院	大野病院
		H23 紹介率	20.9%	21.2%	25.8%	11.7%	12.3%	-%
H22 紹介率	29.0%	21.6%	22.8%	11.1%	13.4%	-%		
H23 病床利用率	79.5%	66.4%	68.1%	64.1%	70.7%	-%		
H22 病床利用率	69.2%	74.0%	54.7%	55.5%	58.3%	35.9%		
		2 医師派遣等による支援機能について ◆ 常勤医師の確保・定着を図るとともに、地域の国保診療所等への医師派遣を行った。						
		病院名	実施状況					
		会津総合病院	○喜多方病院、宮下病院及び南会津病院へ診療応援を行った。 ○当院と只見町朝日診療所を光回線で結び画像診断システムを利用して、CT 画像等の遠隔画像診断やカンファレンスを実施した。					
		宮下病院	○柳津町国民健康保険診療所（毎週月曜日に 1 人派遣（51 回／年）） ○金山町国民健康保険診療所（毎週火曜日から金曜日 1 人派遣（196 回／年））					

[地域生活移行に向けた体制整備]
患者さんの地域生活移行に向けた体制の充実を図るため、ボランティアによる地域住民との交流やグループホームなどとの連携を強化する。

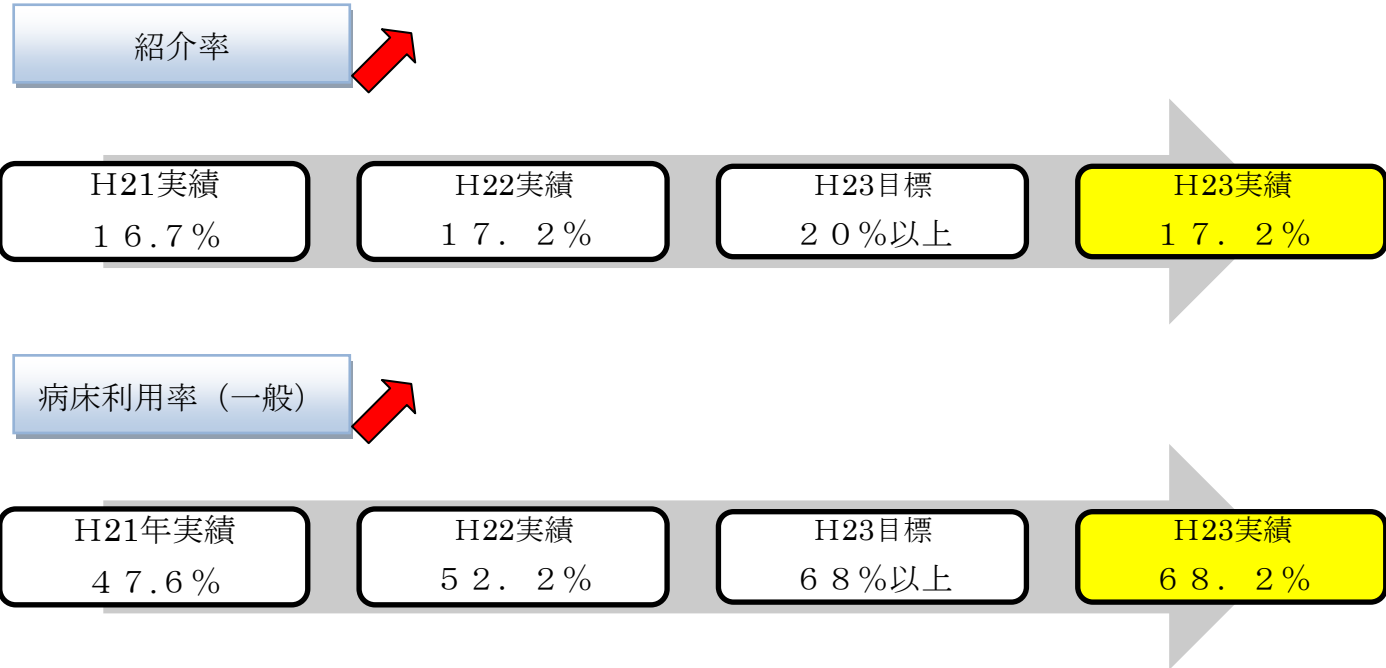
	○特別養護老人ホーム桐寿苑（毎週木曜日に１人派遣（４８回／年））
南会津病院	○只見町国民健康保険朝日診療所（診療応援２０回、当直応援３回） ○天栄村湯本診療所（診療応援７回）

3 地域生活移行に向けた体制整備について

◆ 矢吹病院における取組み

◇心理社会療法部	○平成２３年度から心理社会療法部として新たに心理教育部・ＳＳＴ療法部を組み入れた組織の変更を行い、２本柱としてきた。それぞれが研修会・勉強会などを実施しスタッフ各自の知識のレベルアップ・スキルの向上を図りながら、集団ＳＳＴ・個人ＳＳＴ・集団心理教育・個人心理教育・家族心理教育を実施した。 ○心理教育・ＳＳＴ療法それぞれが学習会等とともに活発に活動した。			
◇レクリエーション療法部	○入院患者全員対象の年間レクを６回実施（映画鑑賞、七夕飾り、ミニ運動会等）、病棟レクを病棟ごとに合計３７回実施（納涼会、新年会等）			
◇作業療法部	○実施状況			
	H23	H22	H21	H20
	17,302人	12,922人	13,741人	14,462人
◇デイケア医療部	○登録者数５０人（平成２４年３月末現在）			
	H23	H22	H21	H20
	3,653人	3,846人	3,790人	3,954人
◇訪問看護室	○登録者数７３人（平成２４年３月末現在）			
	H23	H22	H21	H20
	1,728人	1,688人	1,817人	1,776人

○共通目標指標



目標 2	県民への情報提供	目標値達成状況評価		取組状況評価	
		【一】	目標値の設定なし	【４】	積極的に行われている
<p>〔効果的な情報発信〕</p> <p>地域に親しまれる病院となるため、院外広報誌の発行等を通じて医療に関する情報や院内活動などの情報発信に取り組む。</p> <p>〔出前講座等の実施〕</p> <p>地域に信頼される病院を目指し、行政や団体機関等における講演会等への講師派遣、各県立病院が主催する研修会や出前講座などのイベントなど、職員が積極的に地域に出向いた活動を行う。</p>		○平成 23 年度の取組状況			
		1 情報発信について			
		◆ ホームページの定期的な更新や市町村広報誌への記事掲載、院内外情報誌の発行を通じて、医師紹介や診療情報を提供するなど、積極的に情報発信を行った。			
		病院名	実施状況		
		矢吹病院	○ホームページに診療情報や診療実績などを掲載するとともに、当院の基本情報や活動状況などについて広報を行った。（アクセス件数：11,826 件） ○院外広報誌「彩雲」について、9 月に第 5 号、3 月に第 6 号を発行した。		
		喜多方病院	○ホームページに院内イベント開催の周知や地域連携等の情報、診療科目等を掲載するなど、積極的に情報発信を行った。（更新回数：40 回） ○「地域医療連携室だより」の発行を 3 回行った。		
		会津総合病院	○ホームページに各診療科を紹介するページを設けるなど、当院の医療機能等に関する情報発信に努めた。（アクセス件数：41,295 件）		
		宮下病院	○ホームページに診療予定や院内イベントの開催案内を掲載するなど、積極的に情報発信に努めた。（アクセス件数：6,288 件） ○医療圏町村の広報誌への情報掲載を行った。（掲載回数：24 回）		
		南会津病院	○ホームページに院内イベントの開催案内や人間ドックの受診案内を掲載するなど、適宜ホームページを更新し、積極的に情報発信を行った。（更新回数：27 回） ○院外広報誌「かけはし」について、8 月に第 5 号、10 月に第 6 号、1 月に第 7 号、3 月に第 8 号を発行し、郡内全戸に配布した。		
		大野病院	－		
病院局	○「県立病院ニュース」発行（2 回）				
		2 出前講座等の実施について			
		（1）市民公開講座の開催			
		会津総合病院では、地域に開かれた病院づくりを目指すことを目的に市民公開講座を実施した。			
1	日時・参加者	◇平成 24 年 1 月 11 日・約 600 人			
2	内容	【第 1 部 医療・健康セミナー】 ◇講演 1 「メタボの本質を見直しましょう！」 講師：塚本和久 氏（糖尿病・代謝・腎臓内科） 県立医科大学会津医療センター準備室教授・会津総合病院院長補佐 ◇講演 2 「メタボより怖いロコモのお話」 講師：白土 修 氏（整形外科） 県立医科大学会津医療センター準備室教授・会津総合病院院長補佐 【第 2 部 特別講演】 ◇「3. 11 が私たちに問いかけたものとは」 講師：養老孟司 氏			

	<p>(2) 地域医療セミナーの開催について</p> <p>南会津病院では、地元医師会、保健・介護関係者と「南会津保健・医療・介護懇談会」を開催し、地域の課題を浮き彫りにするとともに、顔の見える関係づくりを行った。</p> <table><tr><td>1</td><td>日時・参加者</td><td>○平成 23 年 11 月 19 日・約 40 人</td></tr><tr><td>2</td><td>内容</td><td>○当院各部署の取組状況説明、意見交換</td></tr></table> <p>(3) 出前講座の実施について</p> <p>地域住民の健康づくりなどに役立たせるため、病院スタッフが各地に出向いて講座を行った。</p> <table><tr><td>病院名</td><td>実施状況</td></tr><tr><td>会津総合病院</td><td>柳津町 1 回（参加者数約 40 人）</td></tr><tr><td>宮下病院</td><td>三島町 12 回（参加者数 212 人） 柳津町 6 回（参加者数 184 人）</td></tr></table>	1	日時・参加者	○平成 23 年 11 月 19 日・約 40 人	2	内容	○当院各部署の取組状況説明、意見交換	病院名	実施状況	会津総合病院	柳津町 1 回（参加者数約 40 人）	宮下病院	三島町 12 回（参加者数 212 人） 柳津町 6 回（参加者数 184 人）
1	日時・参加者	○平成 23 年 11 月 19 日・約 40 人											
2	内容	○当院各部署の取組状況説明、意見交換											
病院名	実施状況												
会津総合病院	柳津町 1 回（参加者数約 40 人）												
宮下病院	三島町 12 回（参加者数 212 人） 柳津町 6 回（参加者数 184 人）												

□目標1：地域医療機関等との連携（各病院の取組状況）

番号	取組機関	アクションプラン	取組内容	進捗状況	取組評価
1	共通取組	◇地域の医療機関、介護施設、訪問看護ステーション等との連携強化	地域の医療機関や保健・介護福祉施設と連携を強化し、新規患者数の増加を図るとともに、退院支援体制を構築する。	○地域の医療・保健・福祉・消防機関への医師の専門分野の紹介や院内行事等の広報活動を通じて、地域の医療機関等との連携を強化し、紹介率の向上に努めた。〔再掲P40〕	4
2	矢吹病院	◇地域生活移行へ向けた支援体制の強化	地域医療担当部門を設置し、地域との連携や患者の地域生活移行への支援体制の強化を図る。	○「地域障がい者地域生活移行支援特別対策事業」は単年度の事業であったが、これに引き続き取り組んでいるところであり、患者自身に対する心理教育や地域施設との移行に向けた当院のデイクア、外来OTとの連携、地域の事業所の紹介等を実施した。	5
3		◇患者のグループホームへの円滑な移行	「入院医療中心から地域生活中心へ」という精神保健医療福祉改革ビジョンの基本的な考え方を踏まえ、長期の社会的入院患者の退院、社会復帰を促進するため、関係機関との連携を強化しながら、患者のグループホームへの円滑な移行支援を行う。 こうした取組みにより平均在院日数の短縮を図る。	○在院短縮検討事業については、県立医科大学看護学部、矢吹町等と協働で地域の関係機関と連携し、地域ネットワーク会議として引き継ぎ実施している。	5
4		◇県立医大看護学部との共同研究実施による患者の地域生活移行に向けた活動の強化	県立医科大学看護学部との共同研究では、入院患者を三群に分類し、社会復帰支援に向けたアプローチを行っているが、今後、リハビリテーション組織の在り方や会議の定期開催数などの見直しを図る。	○院内活動において引き続き長期入院患者の地域生活移行支援に取り組んでいく。	5
5	会津総合病院	◇へき地医療拠点センター病院としての支援	喜多方病院、宮下病院、南会津病院へ診療応援を実施することで、へき地医療拠点センター病院としての役割を果たす。	○喜多方病院、宮下病院及び南会津病院へ診療応援を行った。〔再掲P40〕 ○当院と只見町朝日診療所を光回線で結び画像診断システムを利用して、CT 画像等の遠隔画像診断やカンファレンスを実施した。〔再掲P40〕	4
6	宮下病院 南会津病院	◇国保診療所への診療応援	常勤医師の確保・定着を図り、地域の国保診療所へ医師を派遣するなど、へき地医療拠点病院としての役割を果たす。	○宮下病院〔再掲P40〕 ・柳津町国民健康保険診療所（毎週月曜日に1人派遣（51回／年）） ・金山町国民健康保険診療所（毎週火曜日から金曜日1人派遣（196回／年））	5

				<div>・特別養護老人ホーム桐寿苑（毎週木曜日に１人派遣（４８回／年））</div> <div>○南会津病院〔再掲Ｐ４１〕</div> <div>・只見町国民健康保険朝日診療所（診療応援２０回、当直応援３回）</div> <div>・天栄村湯本診療所（診療応援７回）</div>	
7	病院局	◇地域連携の取組に対する各病院への支援	各病院と連携を図りながら、地域連携の取組みへの支援を行う。	○会津医療センターの円滑な開所に向けて、地域の医療機関や医師会を訪問するなど、さらなる連携強化に努めた。	3
8		◇県立病院収益確保プロジェクトの実施（再掲）	平成 22 年度診療報酬制度改定や、ＤＰＣ導入への対応、地域連携の強化による患者確保などに向けた対策を講じるため、経営改善に向けて組織されている病院経営検討会に、実務担当者レベルのメンバーを加え発展させ、定期的に部門横断的な検討を行い、具体的に取り組む。	○経営改善に向けた対応策を検討するため、平成 22 年度に引き続き、各病院の医事担当者による「収益確保プロジェクト」を開催し、診療報酬制度や医事業務遂行における課題などについて、お互いに知恵を出し合いながら収益確保につながる対策を検討した。〔再掲Ｐ２１〕	3

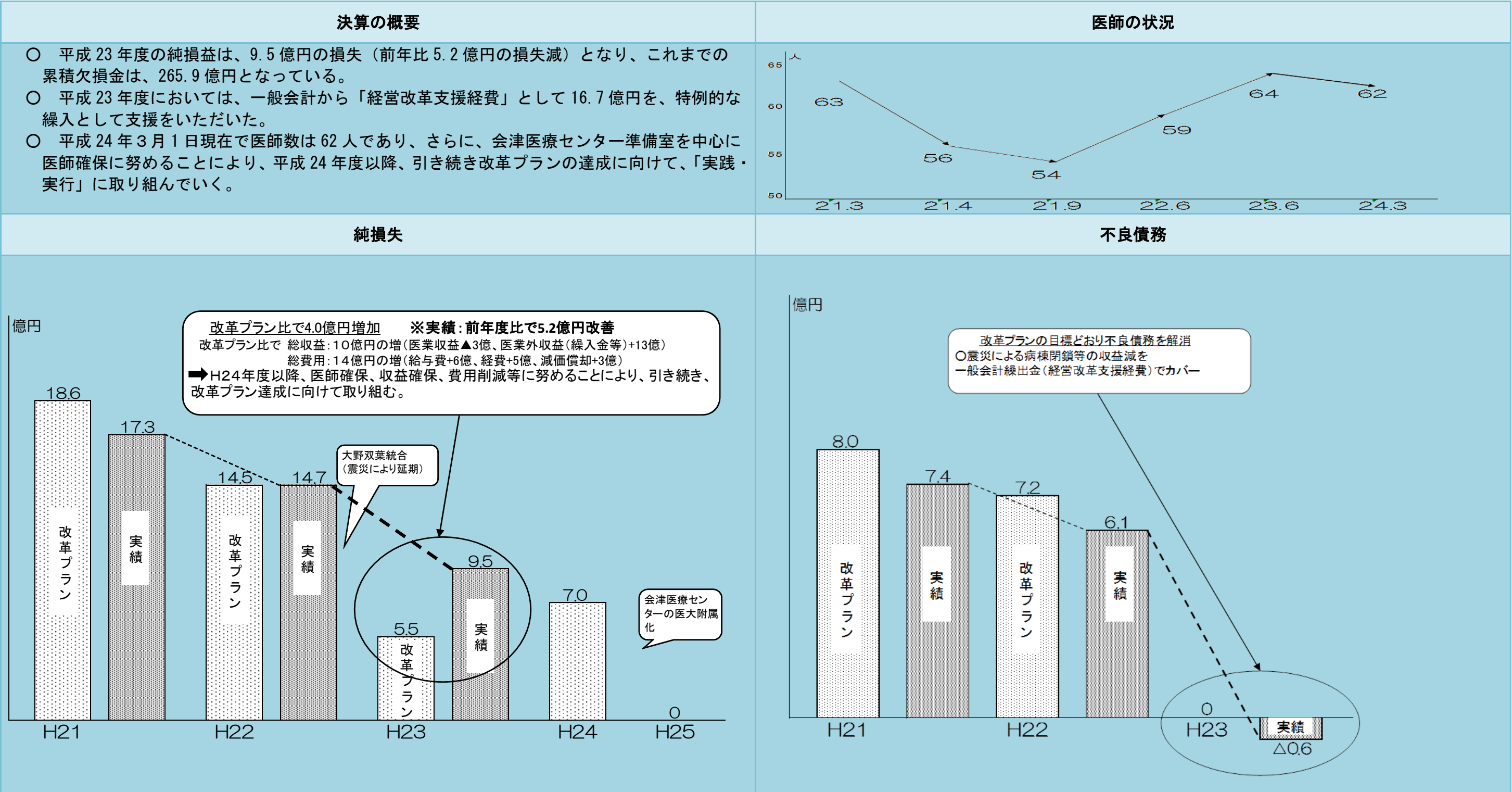
□目標2：県民への情報提供(各病院の取組状況)

番号	取組機関	アクションプラン	取組内容	進捗状況	取組評価														
9	共通取組	◇ホームページの充実と院外広報誌の発行	医療に関する情報や院内活動等を地域に幅広く伝えるため、ホームページの充実や院外広報誌の発行を通じて、情報発信機能の強化を図る。	○ホームページの定期的な更新や市町村広報誌への記事掲載、院内外情報誌の発行を通じて、医師紹介や診療情報を提供するなど、積極的に情報発信を行った。〔再掲P42〕	3														
10		◇イベントの開催による地域住民との交流促進	健康講座や音楽コンサート等の開催、地元市町村等が主催する医療講演会等への職員派遣などにより、病院の持つ専門的な知識や最新情報を提供し、地域の方々の医療に関する理解促進と普及啓発を図る。	<div>◇取組状況</div> <table><tr><th>病院名</th><th>取組状況</th></tr><tr><td>矢吹病院</td><td>○避難者の仮設住宅などへ心のケアとして定期的に訪問し、リラクゼーションや相談会などのプログラムを実施した。 ○平成 23 年 8 月から開始された児童・思春期外来への応援医師の厚意で、平成 24 年度から中学校以下の教育者向けに児童・思春期のメンタルヘルス研修会を矢吹町教育委員会とともに企画し、開催することにした。</td></tr><tr><td>喜多方病院</td><td>○健康講座（4/23）や看護の日のイベント（6/4）を開催し、地域住民との交流を図るとともに、バザーや募金により、東日本大震災への支援の機会とした。</td></tr><tr><td>会津総合病院</td><td>○市民公開講座（1/11）や出前講座（11/30）、糖尿病教室(毎週火・木)を開催し、当院の有する医療に関する機能及び情報等を地域住民に発信した。</td></tr><tr><td>宮下病院</td><td>○地域住民の健康づくりに役立ててもらうため、出前講座（「高血圧予防教室」、「薬との上手なつきあい方」等）を 18 回実施した。</td></tr><tr><td>南会津病院</td><td>○院内コンサート（11/5）を開催し、療養環境の向上に努めたほか、地域住民にも開放し交流に努めた。</td></tr><tr><td>大野病院</td><td>－</td></tr></table>	病院名	取組状況	矢吹病院	○避難者の仮設住宅などへ心のケアとして定期的に訪問し、リラクゼーションや相談会などのプログラムを実施した。 ○平成 23 年 8 月から開始された児童・思春期外来への応援医師の厚意で、平成 24 年度から中学校以下の教育者向けに児童・思春期のメンタルヘルス研修会を矢吹町教育委員会とともに企画し、開催することにした。	喜多方病院	○健康講座（4/23）や看護の日のイベント（6/4）を開催し、地域住民との交流を図るとともに、バザーや募金により、東日本大震災への支援の機会とした。	会津総合病院	○市民公開講座（1/11）や出前講座（11/30）、糖尿病教室(毎週火・木)を開催し、当院の有する医療に関する機能及び情報等を地域住民に発信した。	宮下病院	○地域住民の健康づくりに役立ててもらうため、出前講座（「高血圧予防教室」、「薬との上手なつきあい方」等）を 18 回実施した。	南会津病院	○院内コンサート（11/5）を開催し、療養環境の向上に努めたほか、地域住民にも開放し交流に努めた。	大野病院	－	5
病院名	取組状況																		
矢吹病院	○避難者の仮設住宅などへ心のケアとして定期的に訪問し、リラクゼーションや相談会などのプログラムを実施した。 ○平成 23 年 8 月から開始された児童・思春期外来への応援医師の厚意で、平成 24 年度から中学校以下の教育者向けに児童・思春期のメンタルヘルス研修会を矢吹町教育委員会とともに企画し、開催することにした。																		
喜多方病院	○健康講座（4/23）や看護の日のイベント（6/4）を開催し、地域住民との交流を図るとともに、バザーや募金により、東日本大震災への支援の機会とした。																		
会津総合病院	○市民公開講座（1/11）や出前講座（11/30）、糖尿病教室(毎週火・木)を開催し、当院の有する医療に関する機能及び情報等を地域住民に発信した。																		
宮下病院	○地域住民の健康づくりに役立ててもらうため、出前講座（「高血圧予防教室」、「薬との上手なつきあい方」等）を 18 回実施した。																		
南会津病院	○院内コンサート（11/5）を開催し、療養環境の向上に努めたほか、地域住民にも開放し交流に努めた。																		
大野病院	－																		

平成 23 年度県立病院事業会計決算の概要

○改革プランにおける経営健全化に向けた収支目標

- 目標 1：単年度赤字の漸次解消を図り、平成 25 年度までに収支均衡を目指す。
目標 2：平成 23 年度までに不良債務の解消を目指す。→平成 23 年度達成済み



収支計画について

平成 23 年度実績							平成 23 年度 of 取組状況及び自己評価				
○県立病院事業の収支計画							目標値達成状況自己評価			取組状況自己評価	
							経常収支比率	【 4 】	目標値を達成できた	【 4 】	積極的に行われている
							職員給与比率	【 2 】	目標値を下回った	【 3 】	取り組んでいる
							病床利用率	【 5 】	目標値を上回った	【 5 】	極めて積極的に行われている
							○平成 23 年度の経営状況				
							◇ 総収益 11,546 百万円に対し、総費用 12,493 百万円で、差引 947 百万円の純損失となり、対ﾌﾟﾗﾝで 393 百万円の損失増、対前年度で 521 百万円の損失減となった。これにより累積欠損金は 26,591 百万円となった。				
							◇ 医業収益は、東日本大震災及び東京電力福島第一原子力発電所事故に伴う大野病院閉鎖の影響などにより、対前年度で 586 百万円の減となったものの、大野病院を除いた比較では、会津医療センター準備室医師配置など診療体制の変更に伴う患者数の増などにより、584 百万円の増となった。				
							◇ 医業外収益は、一般会計からの「経営改革支援経費」としての繰入が増加するなどにより、対前年度で 531 百万円の増となった。				
							◇ 医業費用は 12,035 百万円となり、対前年度で 594 百万円の減となったものの、大野病院を除いた比較では、薬品費・診療材料費の増や会津医療センター準備室医師負担金の増などにより、対前年度で 423 百万円の増となった。				
							○平成 24 年度に向けた取組				
							◇ 地域住民に対して良質な医療の提供を行うとともに、健全な病院経営を実現していく。				
							◇ 改革プランに基づき、一人ひとりの思いや考えを具体的な「実践・実行」に移し、新たな視点の展開を図り、医師確保や収益確保に向けた取組み、地域との活動を実施しながら、経営基盤の確立を図っていく。				
							◇ 会津医療センターの整備については、平成 25 年 5 月の開所を目指して、建設工事を着実に進めるとともに、新病院の運営システムの検討、医療情報機器整備や、医療情報システムの整備を行う。				
							◇ 大野病院と JA 福島厚生連双葉厚生病院との統合は、震災の影響で延期されたことから、原子力災害の収束状況等をにらみながら検討していく。				
							◇ 平成 21 年に策定された「福島県地域医療再生計画」を活用しながら、県立病院の機能向上を図っていくため、へき地医療拠点病院である南会津病院へ医療情報システムを導入する。				

※休診中の大野病院を除く。

矢吹病院収支計画について

平成 23 年度実績							平成 23 年度自己評価				
○矢吹病院							目標値達成状況自己評価				
							経常収支比率		【 5 】	目標値を上回った	
							職員給与比率		【 5 】	目標値を上回った	
							病床利用率		【 5 】	目標値を上回った	
							○平成 23 年度の状況				
◇ 総収益（繰入前）1,223 百万円に対し、総費用 1,742 百万円で、差引 519 百万円の純損失となり、対プランで 118 百万円の損失減、対前年度で 116 百万円の損失減となった。											
◇ 入院収益は、入院精神療法の実施回数の増加や、入院患者数の増加などにより、対前年度で 126 百万円の増となった。											
◇ 外来収益は、内科における通年診療の実施や、児童思春期外来を平成 23 年 8 月から新設したことなどにより、外来患者数が増加し、対前年度で 6 百万円の増となった。											
◇ 医業費用は、患者数の増加に伴い材料費が増加するなど、対前年度で 34 百万円の増となった。											
○平成 24 年度に向けた取組											
◇ 「福島県県立病院改革プラン」に基づき、政策的な専門医療の実施や心神喪失者等医療観察法に基づく指定入院医療機関の検討など、改革を推進して収益の確保と費用削減などによる経営改善に努めていく。											
◇ 県立医科大学の協力の下、児童思春期外来に引き続き取り組んでいく。											
◇ 精神科救急医療システム事業の当番回数を維持し、地域医療に貢献するとともに新規入院患者の確保に努める。また、救急輪番以外の日についても、当院通院患者については、時間外の診察を行うことができるよう、指定医のバックアップ体制の整備について、引き続き検討していく。											
◇ 内科外来の診察を継続実施し認知度を高める											
◇ 患者の待ち時間短縮を図るため、午前の再診についても予約制を導入する。											
(注) () 書きの額は、政策医療に係る経費等を繰り入れる前の額											

喜多方病院収支計画について

平成 23 年度実績							平成 23 年度自己評価		
○喜多方病院							目標値達成状況自己評価		
							経常収支比率	【 4 】	目標値を達成できた
							職員給与比率	【 2 】	目標値を下回った
							病床利用率	【 2 】	目標値を下回った
							○平成 23 年度の状況		
							◇ 総収益 827 百万円に対し、総費用 1,174 百万円で、差引 347 百万円の純損失となり、対プランで 96 百万円の損失増、対前年度で 39 百万円の損失増となった。		
							◇ 入院収益は、医師不足等による入院患者数の減少や診療単価の減少により、対前年度で 65 百万円の減となった。		
							◇ 外来収益は、全診療科で外来患者数が減少したものの、特定の患者に対し特別な薬品を使用していることにより診療単価が上昇するなど、対前年度で 22 百万円の増となった。		
							◇ 医業費用は、退職手当対応経費の増加やエアコン改修等により、対前年度で 31 百万円の増となった。		
							○平成 24 年度に向けた取組		
							◇ 会津医療センターへの移転の影響により患者離れが発生しており、今後も患者数の減少が見込まれる。特に平成 24 年度後期は、会津医療センターへの円滑な移行に向けた準備を開始するため、入院制限（在院患者数の縮減）を行うこととしており、入院患者数の一層の減少が見込まれることから、引き続き、質の高い医療の提供に努めるとともに、新しい施設基準の取得を目指すなど診療単価の上昇に努めていく。		
							（新規事業）		
							<input type="checkbox"/> 医療安全対策加算 2、感染防止対策加算 2、患者サポート体制充実加算、一般病棟看護必要度評価加算の取得について検討する。		
							（継続事業）		
							<input type="checkbox"/> 地域医療連携の強化		
							<input type="checkbox"/> 患者サービスの向上		
							<input type="checkbox"/> 医療の安全・安心を確保		
							<input type="checkbox"/> 病院利用の強化		
							<input type="checkbox"/> 広報活動		

年度	H21 実績	H22 実績	H23 計画	H23 実績	H24 計画	H25 計画
総収益	1,122	837	802	827	802	-
医業収益	962	780	755	767	755	-
うち入院収益	441	398	449	333	447	-
うち外来収益	287	275	277	297	278	-
うち一般会計繰入	205	78	0	107	0	-
医業外収益	159	57	47	59	47	-
うち一般会計繰入	158	54	46	55	46	-
総費用	1,297	1,145	1,053	1,174	1,053	-
医業費用	1,289	1,137	1,047	1,168	1,034	-
うち給与費	826	699	645	725	637	-
うち材料費	223	202	189	201	189	-
うち経費	166	174	162	185	162	-
うち減価償却費	62	51	44	47	38	-
医業外費用	6	6	6	6	1	-
純損益	▲175	▲308	▲251	▲347	▲233	-
経常収支比率	86.6%	73.2%	76.2%	70.4%	77.5%	-
給与費対医業収益比率	85.9%	89.6%	85.4%	94.5%	84.4%	-
給与費対経常収益比率	73.7%	83.5%	80.4%	87.8%	79.4%	-
病床利用率	85.1%	74.0%	96.0%	66.4%	96.0%	-
入院 1 日当たり患者数	42.5 人	37.0 人	48.0 人	33.2 人	48.0 人	-
外来 1 日当たり患者数	142.1 人	135.0 人	152.9 人	124.1 人	152.9 人	-

会津総合病院収支計画について

平成 23 年度実績							平成 23 年度自己評価		
○会津総合病院							目標値達成状況自己評価		
							経常収支比率	【3】	目標値をほぼ達成できた
							職員給与比率	【2】	目標値を下回った
							病床利用率	【5】	目標値を上回った
							○平成 23 年度の状況		
							◇ 総収益 3,335 百万円に対し、総費用 4,937 百万円で、差引 1,602 百万円の純損失となり、対ﾌﾟﾗﾝで 648 百万円の損失増、対前年度で 146 百万円の損失増となった。		
							◇ 入院収益は、入院患者数が減少したものの、手術件数の増加（対前年度 44.2%の増）等により診療単価が上昇し、対前年度で 58 百万円の増となった。		
							◇ 外来収益は、外来患者数の増加（特に会津医療センター準備室教授が新たに着任した耳鼻咽喉科と漢方内科の新設等、診療提供体制が充実・強化された内科）や診療単価の上昇などにより、対前年度で 123 百万円の増となった。		
							◇ 医業費用は、職員数の減などにより給与費が減少したものの、外来患者数の増加や血液内科及び整形外科関係における高額材料の使用などにより材料費が増加したほか、耐震診断や会津医療センター準備室付け教員人件費負担の増などにより経費が増加し、対前年度で 215 百万円の増となった。		
							○平成 24 年度に向けた取組		
							◇ 他の医療機関との役割分担の下、医師会等との連携を強化し、病病連携・病診連携による紹介率の向上を目指していく。		
							□ 紹介率 30%以上		
							□ 地元医師会との意見交換会の開催		
							◇ 地域に開かれた病院づくり、地域から信頼される病院づくりを推進するため、平成 24 年度も市民公開講座、糖尿病教室及び出前講座を実施するなど、当院の有する診療機能等を積極的に地域住民に発信する取り組みを行う。		
							◇ 7 対 1 入院基本料の算定要件見直しに対応した目標値を設定する。		
							□ 年間平均病床利用率 80%以上		
							□ 一般病棟平均在院日数 17 日以内		
							□ 一般病棟看護必要度基準 1 割 5 分以上		
							□ 新入院患者数 年間 2,400 人以上		

宮下病院収支計画について

平成 23 年度実績							平成 23 年度自己評価		
○宮下病院							目標値達成状況自己評価		
							経常収支比率	【 5 】	目標値を上回った
							職員給与比率	【 2 】	目標値を下回った
							病床利用率	【 3 】	目標値をほぼ達成できた
							○平成 23 年度の状況		
							◇ 総収益（繰入前）497 百万円に対し、総費用 729 百万円で、差引 232 百万円の純損失となり、対プランで 66 百万円の損失増、対前年度で 13 百万円の損失減となった。		
							◇ 入院収益は、東日本大震災被災患者の積極的な受入や、関係機関との連携強化などによる新患者の獲得に向けた取組などにより、入院患者数が増加し、対前年度で 12 百万円の増となった。		
							◇ 会津総合病院の支援の下、整形外科や精神科の開設を維持するなど、高齢化の進行が著しい地域の特性に対応した医療の提供に努めたものの、外来収益は、長期投与の緩和などに伴う外来患者数の減少により、対前年度で 3 百万円の減となった。		
							◇ 医業費用は、購入物品の抑制や修繕費の節減により経費の削減に努めたものの、定年・勸奨退職者の退職手当が増加したことにより給与費が増加し、対前年度で 50 百万円の増となった。		
							○平成 24 年度に向けた取組		
							◇ へき地診療所等への診療応援を継続し、患者情報の共有化を図りながら、紹介患者を受け入れていくなど連携を強化していく。		
							◇ 会津若松市等の規模の大きい病院が在院日数の短縮化を図り病床回転率を上げていかなければならない現状を踏まえ、これらの病院と連携をとりながら、回復期やリハビリ期など、亜急性期患者の獲得を目指していく。		
							◇ 町村広報誌を通じた病院情報の積極的な提供に努めるとともに、職員が地域に出向いて行う医療講演会や出前講座などの活動を積極的に展開し、地域から信頼され、支えられる病院経営を目指す。		
							◇ 後発医薬品への切り替えを一層進めるとともに、新型 SPD システムを活用し、他病院で使用している安価な診療材料に切り替えを行っていく。		

南会津病院収支計画について

平成 23 年度実績							平成 23 年度自己評価				
○南会津病院 <div>(単位 百万円)</div>							目標値達成状況自己評価				
							経常収支比率		【5】	目標値を上回った	
							職員給与比率		【5】	目標値を上回った	
							病床利用率		【5】	目標値を上回った	
							○平成 23 年度の状況				
◇ 総収益（繰入前）2,017 百万円に対し、総費用 2,288 百万円で、差引 271 百万円の純損失となり、対プランで 23 百万円の損失増、対前年度で 188 百万円の損失減となった。											
◇ 入院収益は、手術件数の増加や看護師の確保（会津総合病院からの応援等）による 7 対 1 入院基本料等の施設基準の維持などにより、対前年度で 162 百万円の増となった。											
◇ 外来収益は、地域ニーズに応えるため、平成 23 年 4 月から泌尿器科を開設するとともに、6 月より小児科に常勤医師 2 人を配置したことなどにより外来患者数が増加し、対前年度で 75 百万円の増となった。											
◇ 医業費用は、入院患者数の増により材料費が増加するなど、対前年度で 105 百万円の増となった。											
○平成 24 年度に向けた取組											
◇ 当院での手術が可能な患者については、引き続き積極的に入院治療を行うとともに、終末期患者の受け入れも行っていく。											
◇ 新設した泌尿器科については、新患者数の増加を目指すとともに、院内紹介により病院全体としての収益増加も図っていく。											
◇ 院外広報誌「かけはし」の内容充実等により、病院からの積極的な情報発信に努めていく。											
◇ 今後も、後発医薬品の採用を増やすとともに、不用薬剤の削減を行い、後発医薬品比率を上げていく。											
◇ SPDによる価格交渉を行い廉価購入に努めるとともに、診療材料の同等廉価品への切り換えを引き続き検討していく。											

大野病院収支計画について

平成 23 年度実績							平成 23 年度自己評価																																																																																																																																																												
○大野病院 <div>(単位 百万円)</div> <table><tr><th>年度</th><th>H21 実績</th><th>H22 実績</th><th>H23 計画</th><th>H23 実績</th><th>H24 計画</th><th>H25 計画</th></tr><tr><td>総収益</td><td>1,703</td><td>1,435</td><td>-</td><td>851</td><td>-</td><td>-</td></tr><tr><td> 医業収益</td><td>1,231</td><td>1,265</td><td>-</td><td>95</td><td>-</td><td>-</td></tr><tr><td> うち入院収益</td><td>568</td><td>669</td><td>-</td><td>0</td><td>-</td><td>-</td></tr><tr><td> うち外来収益</td><td>351</td><td>355</td><td>-</td><td>0</td><td>-</td><td>-</td></tr><tr><td> うち一般会計繰入</td><td>281</td><td>205</td><td>-</td><td>94</td><td>-</td><td>-</td></tr><tr><td> 医業外収益</td><td>470</td><td>166</td><td>-</td><td>754</td><td>-</td><td>-</td></tr><tr><td> うち一般会計繰入</td><td>467</td><td>156</td><td>-</td><td>127</td><td>-</td><td>-</td></tr><tr><td>総費用</td><td>2,277</td><td>2,160</td><td>-</td><td>1,149</td><td>-</td><td>-</td></tr><tr><td> 医業費用</td><td>2,242</td><td>2,142</td><td>-</td><td>1,125</td><td>-</td><td>-</td></tr><tr><td> うち給与費</td><td>1,315</td><td>1,193</td><td>-</td><td>760</td><td>-</td><td>-</td></tr><tr><td> うち材料費</td><td>242</td><td>263</td><td>-</td><td>0</td><td>-</td><td>-</td></tr><tr><td> うち経費</td><td>329</td><td>361</td><td>-</td><td>69</td><td>-</td><td>-</td></tr><tr><td> うち減価償却費</td><td>335</td><td>301</td><td>-</td><td>293</td><td>-</td><td>-</td></tr><tr><td> 医業外費用</td><td>13</td><td>13</td><td>-</td><td>12</td><td>-</td><td>-</td></tr><tr><td>純損益</td><td>▲574</td><td>▲725</td><td>-</td><td>▲298</td><td>-</td><td>-</td></tr><tr><td>経常収支比率</td><td>75.5%</td><td>66.4%</td><td>-</td><td>74.7%</td><td>-</td><td>-</td></tr><tr><td>給与費対医業収益比率</td><td>106.8%</td><td>94.3%</td><td>-</td><td>800.0%</td><td>-</td><td>-</td></tr><tr><td>給与費対経常収益比率</td><td>77.3%</td><td>83.4%</td><td>-</td><td>89.5%</td><td>-</td><td>-</td></tr><tr><td>病床利用率</td><td>27.2%</td><td>35.9%</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td></tr><tr><td>入院 1 日当たり患者数</td><td>40.9 人</td><td>49.6 人</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td></tr><tr><td>外来 1 日当たり患者数</td><td>245.3 人</td><td>240.0 人</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td></tr></table>							年度	H21 実績	H22 実績	H23 計画	H23 実績	H24 計画	H25 計画	総収益	1,703	1,435	-	851	-	-	医業収益	1,231	1,265	-	95	-	-	うち入院収益	568	669	-	0	-	-	うち外来収益	351	355	-	0	-	-	うち一般会計繰入	281	205	-	94	-	-	医業外収益	470	166	-	754	-	-	うち一般会計繰入	467	156	-	127	-	-	総費用	2,277	2,160	-	1,149	-	-	医業費用	2,242	2,142	-	1,125	-	-	うち給与費	1,315	1,193	-	760	-	-	うち材料費	242	263	-	0	-	-	うち経費	329	361	-	69	-	-	うち減価償却費	335	301	-	293	-	-	医業外費用	13	13	-	12	-	-	純損益	▲574	▲725	-	▲298	-	-	経常収支比率	75.5%	66.4%	-	74.7%	-	-	給与費対医業収益比率	106.8%	94.3%	-	800.0%	-	-	給与費対経常収益比率	77.3%	83.4%	-	89.5%	-	-	病床利用率	27.2%	35.9%	-	-	-	-	入院 1 日当たり患者数	40.9 人	49.6 人	-	-	-	-	外来 1 日当たり患者数	245.3 人	240.0 人	-	-	-	-	目標値達成状況自己評価		
							年度	H21 実績	H22 実績	H23 計画	H23 実績	H24 計画	H25 計画																																																																																																																																																						
							総収益	1,703	1,435	-	851	-	-																																																																																																																																																						
							医業収益	1,231	1,265	-	95	-	-																																																																																																																																																						
うち入院収益	568	669	-	0	-	-																																																																																																																																																													
うち外来収益	351	355	-	0	-	-																																																																																																																																																													
うち一般会計繰入	281	205	-	94	-	-																																																																																																																																																													
医業外収益	470	166	-	754	-	-																																																																																																																																																													
うち一般会計繰入	467	156	-	127	-	-																																																																																																																																																													
総費用	2,277	2,160	-	1,149	-	-																																																																																																																																																													
医業費用	2,242	2,142	-	1,125	-	-																																																																																																																																																													
うち給与費	1,315	1,193	-	760	-	-																																																																																																																																																													
うち材料費	242	263	-	0	-	-																																																																																																																																																													
うち経費	329	361	-	69	-	-																																																																																																																																																													
うち減価償却費	335	301	-	293	-	-																																																																																																																																																													
医業外費用	13	13	-	12	-	-																																																																																																																																																													
純損益	▲574	▲725	-	▲298	-	-																																																																																																																																																													
経常収支比率	75.5%	66.4%	-	74.7%	-	-																																																																																																																																																													
給与費対医業収益比率	106.8%	94.3%	-	800.0%	-	-																																																																																																																																																													
給与費対経常収益比率	77.3%	83.4%	-	89.5%	-	-																																																																																																																																																													
病床利用率	27.2%	35.9%	-	-	-	-																																																																																																																																																													
入院 1 日当たり患者数	40.9 人	49.6 人	-	-	-	-																																																																																																																																																													
外来 1 日当たり患者数	245.3 人	240.0 人	-	-	-	-																																																																																																																																																													
経常収支比率	—	—																																																																																																																																																																	
職員給与比率	—	—																																																																																																																																																																	
病床利用率	—	—																																																																																																																																																																	
○平成 23 年度の状況 ◇ 東京電力福島第一原子力発電所事故により、病院機能が停止している。 ◇ 総収益 851 百万円に対し、総費用 1,149 百万円で、差引 298 百万円の純損失となった。																																																																																																																																																																			
○平成 24 年度に向けた取組 ◇ 大野病院と J A 福島厚生連双葉厚生病院との統合は、震災の影響で延期されたことから、原子力事故の収束状況等をにらみながら検討していく。																																																																																																																																																																			

(参考) 福島県立病院__病院別経営指標一覧

* 同規模病院は、「平成22年度地方公営企業年鑑」（総務省自治財政局編）の指標を用いている。

病院名			矢吹病院			喜多方病院			会津総合病院			宮下病院			南会津病院			大野病院（休診中）		
No.	指 標		22決算	23決算	同規模	22決算	23決算	同規模	22決算	23決算	同規模	22決算	23決算	同規模	22決算	23決算	同規模	22決算	23決算	同規模
①	総収益比率（％） （＝総収益／総費用×100）	⬆	100.0	100.0	99.0	73.1	70.4	97.1	69.2	67.6	93.3	99.8	99.9	99.5	99.9	99.9	93.3	66.4	74.1	
②	医業収益比率（％） （＝医業収益／医業費用×100）	⬆	56.4	63.7	68.5	68.6	65.7	76.9	58.2	58.1	80.8	57.5	62.7	78.4	71.5	80.5	80.8	59.1	8.5	
③	他会計繰入金対医業収益比率（％） （＝他会計繰入金／医業収益×100）	⬇	79.2	58.6	54.8	6.9	7.2	40.5	19.1	16.5	29.0	74.5	60.1	43.2	51.4	33.4	29.0	12.3	133.4	
④	病床利用率（％） （＝年延入院患者数／年延許可病床数×100）	⬆	69.2	79.5	62.9	74.0	66.4	69.5	54.7	68.1	66.8	55.5	64.1	66.3	58.3	70.7	66.8	35.9		
⑤	1日平均患者数（入院） （＝年延入院患者数／入院診療日数）	⬆	142.6	163.7	202	37.0	33.2	50	125.2	97.0	101	17.7	20.5	27	58.3	70.7	101	49.6		
	1日平均患者数（外来） （＝年延外来患者数／外来診療日数）	⬆	56.8	59.2	135	135.0	124.1	141	344.8	377.0	269	75.9	73.0	96	231.7	264.2	269	240.0		
⑥	外来入院患者比率（％） （＝年延外来患者数／年延入院患者数×100）	―	26.5	24.1	46.2	242.9	249.1	197.1	183.4	259.0	187.0	284.7	237.4	248.4	264.4	249.3	187.0	322.3		
⑦	医師1人1日当たり患者数（入院） （＝年延入院患者数／年延職員（医師）数）	⬆	22.6	23.9	16.9	6.7	6.0	9.0	4.6	2.8	8.0	3.3	3.3	7.5	4.4	4.5	8.0			
	医師1人1日当たり患者数（外来） （＝年延外来患者数／年延職員（医師）数）	⬆	9.0	8.7	7.8	24.1	22.2	17.7	12.7	10.7	15.0	14.3	11.6	18.6	17.3	16.8	15.0			
	看護職員1人1日当たり患者数（入院） （＝年延入院患者数／年延職員（看護）数）	⬆	1.8	2.1	1.8	1.2	1.2	1.2	1.0	0.9	1.2	1.1	1.2	1.2	1.2	1.4	1.2			
	看護職員1人1日当たり患者数（外来） （＝年延外来患者数／年延職員（看護）数）	⬆	5.2	5.4	0.8	7.0	8.5	2.3	6.1	5.0	2.2	13.7	10.4	2.9	6.0	6.0	2.2			
⑧	患者1人1日当たり診療収入（入院外来） （＝入院外来収益／年延入院外来患者数）	⬆	13,046	13,330	13,805	14,519	14,839	12,004	17,694	19,385	15,445	12,071	12,229	10,579	16,865	17,105	15,445	13,395		
	患者1人1日当たり診療収入（入院） （＝入院収益／年延入院患者数）	⬆	13,504	13,839	16,319	29,427	27,369	20,456	36,661	48,795	28,395	27,055	24,873	20,417	35,337	35,357	28,395	36,947		
	患者1人1日当たり診療収入（外来） （＝外来収益／年延外来患者数）	⬆	11,318	11,220	8,365	8,380	9,809	7,714	7,352	8,031	8,597	6,808	6,904	7,007	9,879	9,782	8,597	6,086		
⑨	年間手術件数	―	3	0		292	267		1,146	1,652		134	132		1,433	1,538		865		
	うち手術室での件数	―	0	0		31	19		473	663		0	1		389	462		362		
⑩	患者1人1日当たり薬品費 （＝薬品費／年延入院外来患者数）	―	1,713	1,716	1,336	3,338	3,766	1,904	2,642	3,279	1,825	1,526	1,587	1,879	1,975	2,107	1,825	1,614		
	患者1人1日当たり薬品費（投薬） （＝投薬薬品費／年延入院外来患者数）	―	1,667	1,657	1,151	1,403	1,455	1,213	537	783	830	924	959	1,202	408	424	830			
	患者1人1日当たり薬品費（注射） （＝注射薬品費／年延入院外来患者数）	―	39	52	185	1,167	1,659	691	1,416	1,744	995	470	396	628	980	1,043	995	1,119		
⑪	入院患者1人1日当たり給食材料費 （＝患者用給食材料費／年延入院患者数）	⬇	731.9	721.9	490.0	796.7	632.1	327.0	825.0	824.0	336.0	678.0	562.0	302.0	776.0	1,263.0	336.0	650.0		

(参考) 福島県立病院__病院別経営指標一覧

* 同規模病院は、「平成22年度地方公営企業年鑑」（総務省自治財政局編）の指標を用いている。

病院名			矢吹病院			喜多方病院			会津総合病院			宮下病院			南会津病院			大野病院（休診中）		
No.	指 標		22決算	23決算	同規模	22決算	23決算	同規模	22決算	23決算	同規模	22決算	23決算	同規模	22決算	23決算	同規模	22決算	23決算	同規模
⑫	薬品使用効率（投薬） （＝投薬薬品収入／投薬用薬品費）	⬆	113.2	115.2	115.1	115.2	117.2	116.9	—	—	122.0	128.3	129.4	116.0	109.0	113.7	122.0			
	薬品使用効率（注射） （＝注射薬品収入／注射用薬品費）	⬆	147.8	143.3	115.7	123.1	116.3	112.8	—	—	113.3	167.8	182.7	123.2	125.4	132.9	113.3			
⑬	診療収入に対する割合（投薬注射収入）（％） （＝投薬注射収入／入院外来収益×100）	—	14.9	14.9	11.1	21.0	24.5	18.3	8.2	9.7	13.9	16.4	16.1	20.5	9.9	10.9	13.9			
	診療収入に対する割合（検査収入）（％） （＝検査収入／入院外来収益×100）	—	1.8	1.8	1.9	13.9	13.6	9.8	8.4	9.1	10.0	11.9	11.3	9.3	10.0	9.4	10.0			
	診療収入に対する割合（放射線収入）（％） （＝放射線収入／入院外来収益×100）	—	0.2	0.3	0.7	3.4	2.9	3.9	3.7	3.4	5.0	5.2	4.4	3.6	8.0	7.2	5.0			
⑭	患者100人当たり検査件数 （＝年間検査件数／年延入院外来患者数×100）	⬆	43.0	44.9	73.6	214.4	214.0	210.2	245.5	366.8	285.1	173.3	146.6	146.1	236.3	218.3	285.1			
	患者100人当たり放射線件数 （＝年間放射線件数／年延入院外来患者数×100）	⬆	0.8	1.0	13.6	16.1	15.2	12.6	18.0	17.3	18.3	13.9	11.6	10.8	29.9	26.9	18.3			
	検査技師1人当たり検査件数 （＝年間検査件数／年度末検査技師数）	⬆	14,168	11,120	41,736	19,861	30,261	52,162	19,867	33,407	60,413	43,184	37,131	36,601	36,665	49,289	60,413			
	検査技師1人当たり検査収入 （＝検査収入／年度末検査技師数）	⬆	7,627	6,018	14,525	18,676	28,554	29,304	11,995	16,113	32,986	35,761	35,065	25,375	26,297	36,356	32,986			
	放射線技師1人当たり検査件数 （＝年間放射線件数／年度末検査技師数）	⬆	551	380	18,975	2,482	1,615	3,718	2,594	2,203	4,767	3,473	2,946	3,015	4,637	4,863	4,767			
	放射線技師1人当たり放射線収入 （＝放射線収入／年度末検査技師数）	⬆	1,934	1,237	13,130	7,690	4,584	13,974	9,352	8,393	20,179	15,737	13,730	10,788	20,821	22,216	20,179			
⑮	入院収益に対する室料差額収入の割合 （＝室料差額収入／入院収益×100）	—			0.8	0.7	0.5	1.4	0.3	0.4	1.6	0.3	0.2	1.4	0.9	0.9	1.6	1.8		
	総収益に対する室料差額収入の割合 （＝室料差額収入／総収益×100）	—			0.5	0.3	0.2	0.6	0.2	0.2	0.8	0.1	0.0	0.5	0.3	0.4	0.8	0.8		
⑯	病床100床当たり職員数 （＝年度末(各種)職員数／年度末許可病床数×100）	—	60.5	65.7	60.1	159.8	149.8	98.8	112.0	161.1	97.5	116.9	130.9	104.2	127.6	138.1	97.5			
⑰	医業収益に対する医療材料費の割合（％） （＝医療材料費／医業収益×100）	⬇	17.1	16.7	10.4	25.9	26.2	19.9	23.8	29.1	18.3	13.7	12.2	19.8	19.1	20.1	18.3	20.8		
	医業収益に対する職員給与費の割合（％） （＝職員給与費／医業収益×100）	⬇	131.4	115.5	95.3	89.6	94.5	65.0	103.5	93.6	57.5	114.4	110.4	66.4	76.3	71.4	57.5	94.3	800.0	

福島県県立病院施設基準取得一覧

平成24年3月31日現在

区分			名称	記号	点数	病院名					算定要件概要	
						矢吹病院	喜多方病院	会津総合病院	宮下病院	南会津病院		大野病院
基本診療料	初再診	1	電子化加算(歯科)	(電子化)	3 / 初診			○				医事電算、領収書・明細書交付、院内掲示 * 会津は歯科のみ
	入院基本料	2	一般病棟入院基本料(7対1)	(一般入院)	1,555 / 日			○	○	○	○	看護職員が入院患者7人に1以上、看護職員の最小必要数の7割以上が看護師、平均在院日数が19日以内、看護必要度の基準を満たす患者1割以上を入院させる病棟
		3	一般病棟入院基本料(10対1)	(一般入院)	1,300 / 日		○					看護職員が入院患者10人に1以上、看護職員の最小必要数の7割以上が看護師、平均在院日数が21日以内
		4	結核病棟入院基本料(15対1)	(結核入院)	886 / 日			○				看護職員が入院患者15人に1以上、看護職員の最小必要数の4割以上が看護師
		5	精神病棟入院基本料(15対1)	(精神入院)	800 / 日	○						看護職員が入院患者15人に1以上、看護職員の最小必要数の4割以上が看護師
	入院加算	6	精神科応急入院施設管理加算	(精応)	2,500 / 初日	○						看護職員及び看護補助を行う看護補助者の数は、常時、入院患者数20人に1以上、看護職員の数が最小必要数の8割以上であり、かつ、看護職員の2割以上が看護師。
		7	急性期病棟等退院調整加算2	(急性退院2)	100 / 退院時			○				当該退院調整部門に2年以上の退院調整に係る業務の経験を有する専従の看護師又は専従の社会福祉士が1名以上配置されている。当該看護師又は社会福祉士は、週30時間以上退院調整に係る業務に従事している。
	特定入院	8	臨床研修病院入院診療加算(基幹型)	(臨床研修)	40 / 初日			○		○		指導医は臨床7年以上、研修医2.5人に指導医1以上、研修管理委員会設置、全職員対象の保険診療講習会2回/年
		9	臨床研修病院入院診療加算(協力型)	(臨床研修)	20 / 初日					○		指導医は臨床7年以上、研修医2.5人に指導医1以上
		10	救急医療管理加算・乳幼児救急医療管理加算	(救・乳)	800・200 / 日	○	○	○		○		二次救急医療施設の診療機能、専用病室確保
		11	診療録管理体制加算	(診療録)	30 / 初日			○		○	○	専任の診療記録管理者、疾病統計・退院時要約作成等
		12	医師事務作業補助体制加算(50対1)	(事務補助)	255 / 初日			○				75床ごとに1名以上補助者配置、補助者に6か月間(32時間以上)研修、業務範囲等内規程整備
		13	急性期看護補助体制加算(50対1)	(急性看護)	120 / 日			○				年間の緊急入院患者数が200名以上、看護必要度の基準を満たす患者1割5分以上を入院させる病棟、看護補助のあり方院内研修年1回以上受講、看護補助者が入院患者50人に1人以上、勤務医及び看護職員の負担軽減及び処遇改善委員会設置
		14	看護配置加算(結核)(精神)	(看護)	12 / 日	○		○				看護職員の最小必要数の7割以上が看護師
		15	看護補助加算1(結核)(精神)	(看護)	109 / 日	○		○				看護補助者が入院患者30人に1人以上、入院基本料15対1、18対1、20対1を算定
		16	看護補助加算2(精神)	(看護)	84 / 日							看護補助者が入院患者50人に1人以上、入院基本料13対1、15対1、18対1、20対1を算定
		17	療養環境加算	(療)	25 / 日		○	○		○	○	1人当たり面積8㎡以上の病室(特別室を除く)
		18	重症者等療養環境特別加算	(重)	300 / 日		○	○	○		○	常時監視設備、酸素吸入設備整備、特別室以外
		19	精神病棟入院時医学管理加算	(精入学)	5 / 日							精神科救急医療システム
		20	精神科身体合併症管理加算	(精合併加算)	350 / 日	○						専任の内科又は外科医1名以上、入院基本料10対1、15対1、精神科以外の診療科連携
		21	栄養管理実施加算	(栄養管理)	12 / 日	○		○	○	○	○	管理栄養士1以上、栄養管理手順作成
		22	栄養サポートチーム加算	(栄養チ)	200 / 週			○				選任常勤医師、常勤看護、常勤薬剤師、常勤管理栄養士で構成しいずれか1名は専従
		23	医療安全対策加算1	(医療安全)	85 / 初日			○			○	専従医療安全管理者(研修受講要)、安全管理部門設置
		24	医療安全対策加算2	(医療安全)	35 / 初日	○				○		選任の医療安全管理者
		25	褥瘡患者管理加算	(褥)	20 / 入院	○	○	○	○	○	○	専任医師及び専任看護師の診療計画作成、評価
		26	慢性期病棟等退院調整加算2	(慢性退院2)	100・100 / 回/退院			○				退院調整部門の設置、退院調整に関する経験を有する専従の看護師1名以上
		27	呼吸ケアチーム加算	(呼吸ケア)	150 / 週			○				専任医師、看護師、臨床工学技士、理学療法士の4名のチーム、48時間以上装着している人工呼吸器離脱
		28	後発医薬品使用体制加算	(後発使)	30 初日				○			採用品目が20%以上
		29	亜急性期入院医療管理料1	(亜)	2,050 / 日			○				在宅復帰支援担当者1名以上、退院患者の6割以上が居宅等へ
特掲診療料	医学管理等	30	高度難聴指導管理料	(高)	480・400 / 回			○				5年以上経験を有する常勤医
		31	糖尿病合併症管理料	(糖尿)	170 / 月			○				糖尿病定病変の診療経験5年以上の専任の常勤医師が1名以上、糖尿病定病変の看護経験5年以上の専任の常勤看護師(適切な研修を終了)が1名以上
		32	小児科外来診療料1	(小外)	560・380 / 日			○		○	○	小児科標榜
		33	ニコチン依存症管理料	(ニコ)	230・184・180 / 回			○				経験医師1名以上、専任看護職1名以上、器械、敷地内禁煙
		34	医療機器安全管理料	(機安)	50 / 月			○				常勤臨床工学技士1名以上、医療機器安全管理者配置
		35	がん性疼痛緩和指導管理料	(がん疼)	100 / 月			○				緩和ケアの経験を有する(緩和ケア研修終了)医師を配置
		36	地域連携診療計画退院時指導料Ⅰ	(地連携)	600 / 退院時					○		計画管理病院で疾患に応じた地域連携計画書が作成、情報交換の会合が年3回程度開催
		37	がん治療連携指導料	(がん指)	300 / 月		○					計画策定病院において疾患や患者の状態等に応じた地域連携診療計画が作成され、連携医療機関と共有されている。
		38	薬剤管理指導料	(薬)	380・325 / 週	○	○	○	○	○	○	常勤薬剤師1以上、医薬品情報管理室設置
		39	医療機器安全管理料	(機安)	50 / 月			○				常勤臨床工学技士1名以上、医療機器安全管理者配置
	検査	40	歯科疾患総合指導料2	(歯総指)	110 / 初回			○				歯科医師1以上、治療計画書交付、内科等連携
		41	HPV核酸同定検査	(HPV)	360 / 回			○				産婦人科経験5年以上の医師配置、産婦人科を標榜し常勤医師を配置
		42	検体検査管理加算(Ⅰ)	(検Ⅰ)	40 / 月		○		○	○	○	末梢・生化学・免疫学的検査院内実施、外部精度管理、臨床検査適正化委員会設置
		43	検体検査管理加算(Ⅱ)	(検Ⅱ)	100 / 月			○				臨床検査担当常勤医師1以上、緊急検査体制、精度管理、適正化委員会設置
		44	検体検査管理加算(Ⅳ)	(検Ⅳ)	500 / 月			○				臨床検査を専ら担当する常勤医師1以上、常勤臨床検査技師10以上、緊急検査体制、精度管理、適正化委員会設置
		45	心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算	(血内)	300 / 回			○			○	経験専任常勤医師1名以上、専従理学療法士2以上、定期カンファレンス等
		46	神経学的検査	(神経)	300 / 週			○				神経内科標榜、所定研修終了した(神経系疾患診療経験10年以上)常勤医師1以上
	画像診断	47	コンタクトレンズ検査料1	(コン1)	200 / 日			○		○		外来患者に占めるコンタクトレンズ患者の割合30%未満、院内掲示
		48	遠隔画像診断	(遠画)	送信側で算定				○	○		受信側は画像管理加算Ⅰ又はⅡ算定、へき地医療拠点病院等
		49	単純CT撮影及び単純MRI	(単)	820・1330 / 一連			○		○	○	マルチスライスCT又は1.5テスラ以上のMRI
	投薬	50	抗悪性腫瘍剤処方管理加算	(抗悪処方)	70 / 月			○				許可病床数が200床以上の病院、化学療法の経験を5年以上有する専任の常勤医師が1名以上勤務
	注射	51	無菌製剤処理加算	(菌)	100・50・40 / 日					○	○	2名以上の常勤薬剤師、対象患者等
		52	外来化学療法加算2	(外化)	420 / 回			○		○		専用の病床を有する治療室、経験を有する専任常勤看護師、専任常勤薬剤師
	リハビリテーション	53	脳血管疾患等リハビリテーション料・医(Ⅲ)	(脳Ⅲ)	100 / 単位			○		○	○	専任常勤医師及び専従常勤理学療法士1以上、定期カンファレンス等
		54	運動器リハビリテーション料・医(Ⅰ)	(運Ⅰ)	170 / 単位			○				専任医師及び専従理学療法士2以上、定期カンファレンス等
		55	運動器リハビリテーション料・医(Ⅱ)	(運Ⅱ)	165 / 単位					○	○	専任医師1名以上、専従常勤理学療法士又は常勤作業療法士いずれか1名以上、定期カンファレンス等
		56	呼吸器リハビリテーション料・医(Ⅰ)	(呼Ⅰ)	170 / 単位			○		○	○	経験専任常勤医師1名以上、専従理学療法士2以上、定期カンファレンス等
		57	精神科作業療法	(精)	220 / 日	○						専従の作業療法士1名以上、患者数は作業療法士1名に対して50人、専用施設等
		58	精神科ショート・ケア「大規模なもの」	(ショ大)	330 / 日	○						精神科医師及び専従する3人の従事者、専用施設等
		59	精神科ショート・ケア「小規模なもの」	(ショ小)	275 / 日			○				精神科医師及び専従する1人の従事者、専用施設等
		60	精神科デイ・ケア「大規模なもの」	(デ大)	700 / 日	○						精神科医師及び専従する3人の従事者、専用施設等
		61	精神科デイ・ケア「小規模なもの」	(デ小)	590 / 日			○				精神科医師及び専従する2人の従事者、専用施設等
	精専	62	医療保護入院等診療料	(医療保護)	300 / 回	○		○				常勤指定医1名以上、行動制限最小化に係る委員会、職員を対象とした年2回研修会
	処置	63	エタノールの局所注入	(エタ甲)	1,000 / 回					○		甲状腺治療に関し、専門の知識及び5年以上の経験を有する医師が1名以上、カラードプラーエコー(解像度7.5MHz以上)を備えている。
		64	透析液水質確保加算	(透析水)	10 / 回			○				月1回以上水質検査実施、水質基準を満たした透析液を常に使用、専任の透析液安全管理者1名(医師又は臨床工学技士)配置、透析機器安全管理委員会設置・管理計画作成
	手術	65	輸血管理料Ⅱ	(輸血Ⅱ)	70 / 月			○			○	輸血業務全般に責任ある常勤医師配置、専任常勤臨床検査技師1以上、輸血療法委員会年6回以上、FFP/MAP比<0.25かつアルブミン/MAP比<2
	麻酔	66	麻酔管理料Ⅰ	(麻管Ⅰ)	900・200 / 回			○		○	○	麻酔科標榜及び常勤医従事
食事療養	67	入院時食事療養(Ⅰ)	(食)	640 / 食	○	○	○	○	○	○	栄養士責任体制、適時適温	
	歯科	68	補綴物維持管理料	(補管)	150 / 装置	○		○				クラウン(かぶせ物)とブリッジのみに算定
69		クラウン・ブリッジ医事管理料		150 / 装置	○		○				サービス内容院内掲示、患者への案内書等の交付	